

一二、三〇

(物權ニ關スル事項)

第十二條

○流質ノ場合ニ在リテ質物ノ價額カ債權全部ニ充當スルニ足ラサルモ債務者ニ對シテ殘餘ノ部分ヲ請求スルヲ得サルコトハ朝鮮ニ於ケル顯著ノ慣習ナリ (明治四三、一一、二六)

○抵當權者ハ設定者ノ承諾ナクシテハ更ニ其目的物ヲ抵當ニ供スルヲ得サルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ (明治四四、一、二八)

○田番文券ヲ典當トシタル場合ニ於テ當然流質約款ヲ包含シタルモノトスル慣習ナシ (明治四四、六、一六)

○朝鮮ニ於テ河川ニ沿ヒタル土地カ洪水ノ爲メニ陷落シテ附近又ハ對岸ニ泥生地ヲ成シ其場所カ河川ノ流域中ニ在ルトキハ該泥生地ハ當然水ノ爲メ陷落シタル土地ノ面積ニ應シテ其所有者ノ所有ニ歸スヘキ慣習ヲ存ス (明治四四、七、一七)

○朝鮮人間ニ於テ一旦典當ニ供シ又ハ賣却シタル土地家屋ヲ他人ニ再ヒ典當ニ供シ又ハ賣却シタルトキハ刑法大全第六百三十六條ニ違背シ其典當又ハ賣却ハ法律上無效トス (明治四四、八、二一)

四	四	四	四	四	四
一	一	一	一	一	一
三四	三六	二九	一九七	一九九	一六二七

○朝鮮ニハ添附ニ因リテ土地ノ所有權ヲ取得スル慣習ナシ (明治四四、九、二五)

○鹽井鹽幕ト其基址タル土地トハ所有者ヲ異ニシテ各別ニ所有スルヲ得 (明治四五、三、二二)

○家屋ノ所有者ト其基址タル土地ノ所有者トハ必スシモ常ニ同一人ナラサルヘカラストスル理由ナキノミナラス之カ所有者ヲ異ニシテ各別ニ所有スルヲ得ルコトハ朝鮮ニ於ケル顯著ノ事實ナリ (明治四五、三、二二)

○朝鮮民事令施行前朝鮮人間ニ於テ締結シタル典當契約ニ流質ノ特約アル場合ニ於テハ債務者カ其債務ヲ履行セスシテ流質期限(民事令施行前)ヲ徒過シタルトキハ典當物ハ典當債權者ニ歸スヘク該期限徒過後債權者ヨリ更ニ債務履行ノ催告ヲ爲スヲ要スル慣習ナシ (大正元、一二、一三)

○舊時朝鮮ニ於テハ一人カ封山禁山其他特ニ入葬ヲ禁止セラレタル土地ニアラサル國有ノ山地ニ墳墓ヲ設ケ其周圍ヲ永年禁養スルトキハ其墳墓ノ莎草及永年禁養シタル區域内ノ地所ノ所有權ヲ取得シタル慣習ナリトス (大正元、一二、二八)

○朝鮮ノ慣習ニ於テ小作地ハ小作人ニ於テ占有ヲ爲シ地主モ亦小作人ニ

大元	大元	四五	四五	四
二	二	一	一	一
1011	八一	一四五〇	一四九	三六五

依テ占有ヲ爲スモノニシテ含音ハ之カ占有ヲ爲スモノニ非ス (大正二、三、一四)

○朝鮮ノ慣習ニ於テ賭租ハ他人ノ土地ニ付使用收益ヲ爲ス場合ノ對價ニ外ナラサルヲ以テ之ヲ取得スル權利ノ存續期間日割ヲ以テ取得スヘキモノトス (大正二、三、一四)

○朝鮮ニ於テ國有未墾地利用法施行以前ハ民有ニ非サル荒蕪地ニ對シテハ何人ト雖之ヲ開墾終了スルニ因リテ所有權ヲ取得シタル慣習アリ (大正五、三、一〇)

○流典當契約ナルモノハ設定行爲又ハ債務ノ辨濟期前ノ契約ヲ以テ債務者カ辨濟期ニ至リ辨濟ヲ爲ササルトキハ之カ代物辨濟トシテ典當權ノ目的タル物權ヲ取得セシムルコトヲ約スルヲ謂フモノナルカ故ニ不動產ニ付流典當契約ヲ締結シ辨濟期ニ至リ辨濟ヲ爲ササルトキハ該不動產ノ所有權ハ當然債權者ニ歸シ從テ債權者ハ右不動產ノ所有權ノ取得ヲ爲サスシテ債務本來ノ履行ヲ請求スルノ選擇權ヲ有セサルモノトス (大正五、九、一二)

○流抵當契約ノ存スル場合ニ於テ債務者カ辨濟期限ニ至ルモ債務ヲ完済セサルトキハ假令一部ノ辨濟アルモ期限經過ト同時ニ抵當物件ノ所有

大 二 二 一五九

大 二 二 一五九

大 五 三 四三四

大 五 三 七〇

權ハ當然債權者ニ移轉スルモノトス (大正五、一〇、一三)

○典當權ノ設定契約カ無効ナル場合ニ於テハ之ニ基ク典當權モ亦無効ナルヘシト雖然ラスシテ單ニ土地所有ノ證明方法ニ過キサル立旨完文カ無効又ハ無意味ノモノナリトスルモ之カ爲ニ土地所有者承諾ノ下ニ適法ニ設定セラレタル典當權ノ無効ヲ惹起スルモノニアラス (大正五、一、二四)

○舊刑法大全施行當時ニ於テ朝鮮人カ一旦典當ニ供シタル土地家屋ヲ其典當權存續中更ニ他人ノ爲ニ典當ニ供シタルトキハ同法第六百三十六條ニ違背スルヲ以テ其典當權ハ無効ナリトス而シテ此法意ハ同法施行前ト雖其當時施行ノ舊韓國法典ニ於テ夙ニ採用セラレアリシモノトス (大正五、二、二四)

○朝鮮刑事令施行(明治四十五年四月一日)前ニ在リテハ刑法大全第六百三十六條ニ基キ一旦土地家屋ヲ典當ニ供シ又ハ賣却シタルトキハ他ニ再ヒ該物件ヲ典當ニ供シ又ハ賣却スルコトヲ得ス犯ス者ハ處罰セラレ其所得シタル價錢ハ追徴シテ後ニ典執シ又ハ買受ケタル者ニ還付シ其典賣シタル土地家屋ハ先ニ典執シ又ハ買受ケタル者ニ歸シ其賣買又ハ典執ハ當然無効タリシモノトス而シテ刑法大全ハ光武九年(明治三十

大 五 三 七〇

大 五 三 八五六

大 五 三 八五六

八年)四月二十九日ニ頒布セラレタルモ其以前ト雖右ト同旨趣ノ法規行ハレタルモノトス (大正五、一二、二八)

○相隣者間ニ於テ自然ニ流レ來レル水流ヲ阻塞スルコトヲ得サルハ朝鮮ニ於ケル一般ノ慣習ナリ (大正六、九、二五)

○山坂カ一門ノ共有ニ屬スル場合ニ於テ其權利ノ歸屬者ハ一門ニ屬スル親族各自ニ非スシテ新ニ創立シタル家ナルト否トヲ問ハス其一門ニ屬スル各家ノ家長タル戸主ナリトスルコトハ朝鮮ニ於ケル一般ノ慣習ナリ (大正六、一〇、一九)

○公有水流ノ使用權ハ獨リ行政官廳ノ認許ヲ受ケ相當ノ設備ヲ爲シタル場合ニ限リ發生スルニ止マラス田地灌溉ノ必要上之ヲ使用スル慣習アルトキハ其必要ヲ充タス限度ニ於テ其者ニ流水使用ノ權利ヲ生シ他人ノ之ヲ犯スコトヲ許ササルハ古來朝鮮一般ニ認メラレタル法則ナリ (大正七、七、一〇)

○先取特權者ハ先取特權ノ目的物タル動産ノ讓渡ニ付其引渡ナキ間ハ其引渡ノ欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル第三者ナリトス (大正七、七、一〇)

○朝鮮ニ於テ祖先ノ墳墓ノ存スル山坂ハ之ヲ讓渡ノ目的物ト爲スヲ得ス

大	大	大	大	大
七	七	六	六	五
五	五	四	四	三
六	六	八	七	〇
四	七	五	六	七

トスル慣習ナシ而シテ墳墓其モノト基地トハ別個ニ觀察シテ各別ニ所有權ノ目的トナシ得ヘキヲ以テ墳墓ノ所有權ヲ保有シテ其墳墓所在ノ山地又ハ基地ノ所有權ヲ讓渡スルヲ妨ケス (大正七、九、一〇)

○海面ト隣接土地トノ分界ハ最高滿潮時ニ於ケル分界線ヲ以テ其標準ト爲スヘキモノニシテ此法則ハ毎日潮水ノ影響ヲ受クヘキ公共ノ河川ノ床土ト隣接土地トノ關係ニ對シテモ之ヲ準用スヘキモノトス (大正七、一一、二九)

○公共ノ河川ノ床土ハ私人ノ所有權ノ客體タル適格ヲ缺如スルモノナレハ公共ノ河川ニ於テ沿岸ノ土地江落ニ因リ泥生地ヲ形成スルモ其泥生地カ未タ河床ノ域ヲ脱セサル間ハ一私人ノ所有ニ歸スヘキモノニ非ス (大正七、二、二九)

○上記ノ場合ニ於テハ民法第二百四十三條及泥生地ノ所有權ハ江落地ノ所有者ニ歸ストノ朝鮮ニ於ケル慣習ハ適用ナシ (大正七、二、二九)

○江岸ノ土地江落シタルトキハ該土地ノ所有權消滅スヘキモ再ヒ其地域ニ泥生地ヲ生スルニ至リタルトキハ江落シタル土地ノ從前ノ所有者カ該泥生地ノ所有權ヲ取得スルコトハ朝鮮ノ慣習ナリ (大正八、三、一四)
○宗中共有財産ト雖共有者全員ノ同意ヲ得ルニアラサレハ之カ處分ヲ爲

大	大	大	大	大
八	七	七	七	七
六	五	五	五	五
二	九	九	九	七
〇	六	六	六	二

スコトヲ得サルモノニシテ宗中ノ重ナル者ノ協議ヲ以テ之ヲ處分シ得ヘキ慣習ノ存在ハ當院ノ認メサル所ナリ (大正八、四、一五)

○對抗スルコトヲ得ヘキ典當權(抵當權)ハ其對抗ヲ受クヘキ所有者カ土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人トナルモ其査定名義人ノ權利ト牴觸シテ相容レサルニ非サルヲ以テ其對抗力ヲ失フコトナシ (大正八、五、六)

○債權者カ債務者ノ所有トシテ現實ニ證明簿ニ證明シアル土地ニ對シ典當權ヲ實行スル爲メ競賣ノ申立ヲ爲スニハ其申立書ニ證明簿上ノ現所有者ヲ記載スルヲ以テ競賣法第二十四條第二項第一號ニ規定スル所有者ヲ記載スヘキ要件ヲ具備スルモノト爲スヘク從テ其競賣申立ニ基キ競賣手續ヲ完了シタルハ相當ナルヲ以テ其當時他ニ證明簿上ニ證明シアラサル所有者アリトスルモ右競賣ニ因ル競落ハ有效ニシテ競落人ハ競賣ノ目的物タル土地ニ付所有權ヲ取得シ典當權ハ競賣法第二條第二項ニ依リ消滅ニ歸スルモノトス (大正八、五、六)

○土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人トナルモ典當權ノ對抗ヲ受クヘキ者ナルトキハ其當然ノ結果トシテ典當權ノ實行ニ因リ競落人ノ取得シタル所有權ノ證明ニ對シ大正三年五月制令第十六號ニ依リ

大 八 六二四五

大 八 六三三二

大 八 六三三二

査定名義人ノ權利ニ牴觸スルモノトシテ其證明ヲ抹消セシムルノ權利ナシ (大正八、五、六)

○土地ノ所有者ニ於テ其土地ノ上ニ有效ニ典當權ヲ設定シ典當權者ニ於テ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ經タルトキハ爾後該土地ノ所有權者ヨリ權利ノ移轉ヲ受ケ土地調査ノ結果査定名義人トナリタルモノアルトキト雖査定名義人ノ所有權ハ典當權設定者タル前所有者ノ權利ヲ承繼シタルモノニ過キスシテ査定ニ依リ前所有者ノ權利ト牴觸ヲ來スヘキモノニアラサルヲ以テ典當權ハ消滅スヘキ理ナク典當權者ハ査定名義人ニ對シ之ヲ對抗シ得ヘキモノトス (大正八、八、二六)

○祖先ニ於テ或不動産ヲ私不遷位土ト定メ之ヲ一門共有トシ同時ニ遺言ニ依リ永久ニ之カ賣買其他ノ處分ヲ爲スコトヲ禁シタリトスルモ其子孫タル共有者(各家戸主)ニ於テ之ヲ處分シ得サル慣習ナシ又不遷位土ニ關シテ前示ノ如キ遺言カ永久ニ其子孫全員ヲ拘束スル效力アルモノニ非ス (大正八、一〇、二二)

○農工銀行條例ニハ流典當契約ヲ締結スルコトヲ禁止シタル旨趣ヲ認ムヘキ規定ナキニ依リ農工銀行カ締結シタル流典當契約ハ有效ナリ (大正八、一〇、二四)

大 八 六三三

大 八 六四九八

大 八 六五三二

大 八 六五四三

○從前ニ在リテハ單ニ十數年間柴草採取ノ慣行アルノミニテ之ニ依リ入會權ヲ取得スルコトヲ得サリシモノトス (大正一〇、六、三)

○土地所有者ニ於テ其土地ノ上ニ有效ニ典當權ヲ設定シ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ經タルトキハ爾後該土地ノ所有者ヨリ權利ノ移轉ヲ受ケ土地調査ノ結果査定名義人ト爲リタルモノアルトキト雖査定名義人ノ所有權ハ典當權設定者タル前所有者ノ權利ヲ承繼シタルモノニ過キスシテ査定ニ依リ前所有者ノ權利ト牴觸ヲ來スヘキモノニアラサルヲ以テ典當權ハ消滅スヘキ理由ナク典當權者ハ査定名義人ニ對シ之ヲ對抗シ得ヘキモノナレハ査定申告ノ日以後該典當權ノ實行ニ依リ其土地ノ競落人ト爲リタルモノハ完全ニ所有權ヲ取得スヘキモノトス (大正一〇、六、三)

○汎ノ所有者ト番ノ所有者トノ間ニ於ケル用水及水稅ニ關スル權利義務ハ汎若クハ番ノ所有者ニ變更アルモ新ニ汎若クハ番ノ所有者ト爲リタル者ニ於テ當然前主ノ權利義務ヲ承繼スヘキモノナルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス (大正一〇、二、六)

○小作契約ノ目的トナレル番カ強制競賣ニ附セラレ競賣ノ結果所有者ニ變更ヲ生スルモ其競落人トナリタル者カ當然前所有者ト小作人間ノ小

大 一〇 八 一八七

大 一〇 八 二〇〇

大 一〇 八 五〇二

○作關係ヲ承繼スヘキ慣習ノ朝鮮ニ存スルコトハ當院ノ認メサル所ナリ (大正一一、二、二二)

○他人ノ土地ニ水路ヲ設ケテ引水シ引水ノ利益ヲ權利ノ内容トシテ行使シ灌漑ニ供シ來リタルモノハ其ノ狀態カ公然ニ平穩ニ二十年ヲ超ヘテ繼續スルトキハ地役權ヲ取得スルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス (大正一四、二、二二)

○朝鮮ニ於テ他人ノ承諾ヲ得テ其ノ所有地内ニ墳墓ヲ設置セシ者ハ之ヲ所有スルカ爲他人ノ土地ニ付地上權ニ類スル一種ノ物權ヲ取得スルモノトス (昭和二、三、八)

○朝鮮ニ於テ門中又ハ其ノ一派カ祖先ノ墓地又ハ祭位土ヲ共同所有スル場合ニ於テハ慣習上常ニ所謂合有ノ法律關係ニシテ共有ノ法律關係ハ存在セス (昭和二、九、二三)

【反對】

○朝鮮ニ於テ祖先ノ墳墓所在地タル山坂ノ所有權ハ宗孫ノミニ專屬スルコトアリ又門中若クハ門中一派ノ共有ニ屬スルコトアリ必スシモ宗孫ノ專有若ハ一門ノ共有ニ屬スヘキモノナリトノ慣習アルニ非ス何人ノ所有ナルヤハ一々事實問題ニ屬スヘキモノトス (大正六、六、二二)

大 六 四 五八九

昭 二 二四 三三

昭 二 二四 六二

大 一四 二二 五〇三

大 一一 九 五〇三

○位土ノ所有權ハ或ハ奉祀者子孫ノ單獨所有ニ屬スルモノアリ或ハ一門ノ共有ニ屬スルモノアリ又或ハ一門中一派ノ共有ニ屬スルモノアリ常ニ奉祀者子孫ノ單獨所有ニノミ屬スト云フヘカラス (大正六、七、一七)

○朝鮮ニ於テ共同祖先ノ墳墓アル山坂ノ所有權ハ其宗孫ニ屬スルコトアリ或ハ共同祖先ノ子孫タル一門若クハ門中一派ノ共有ニ屬スルコトアリ必スシモ宗孫ノ單獨所有ニ非サレハ子孫全體ノ共有ナリトノ慣習アルコトナシ其何人ノ所有ナルヤハ事實問題ニ屬ス (大正八、一、三一)

○墳墓ノ基地ニ付慣習上認メラレタル他物權ハ當該墳墓ヲ所有スル爲ノモノニ過キサレハ其ノ基地ニ更ニ墳墓ヲ新設シ其ノ他別異ノ目的ノ爲ニ之ヲ使用スル權能ヲ包含スルコトナキモノトス (昭和三、五、一五)

○合有ノ目的タル祭位土カ適法ニ他ニ讓渡セラレタルトキハ當然其ノ祭位土タル性質ヲ喪フニ至ルモノトス (昭和四、二、一九)

○祭位土ノ讓渡カ信託的ノモノニ係リ當事者間ノ對内關係ニ於テハ宗中合有ノ關係ヲ保留スル趣旨ニ出ツル場合ニ於テモ對外關係ニ於テハ讓受人單獨ノ所有ニ屬スルモノトス (昭和四、二、一九)

第十三條

○係争地ノ眞實ノ所有權者ハ當事者雙方中何レナリヤヲ争フ場合ハ不動

大	六	八	三	四
大	四	六	一五	一六
大	七〇	六	一四九	二
大	二	二	二	二

產ニ關スル物權ノ得喪變更ノ證明欠缺ヲ主張スルニ於テ正當ノ利益ヲ有スル所ノ所謂第三者ニ對抗スル場合ニ該當セサルヲ以テ證明ヲ受ケタルト否トニ依リテ直ニ解決ヲ與ヘ得ヘキモノニアラス (大正二、三、一八)

○乙及丙カ互ニ甲ヨリ同一ノ不動産ヲ買受ケ其取得ニ付共ニ未タ登記又ハ證明ヲ受ケサルトキハ雙方相互ニ登記又ハ證明ノ欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル第三者ナレハ乙モ其取得ヲ丙ニ對抗シ得サルト同時ニ丙モ其取得ヲ乙ニ對抗シ得サルモノトス (大正三、一、一八)

○假裝賣買ニ因ル買主ノ如キ其賣買無効ニシテ實體上何等ノ權利ヲ取得シタルコトナキ者ハ朝鮮民事令第十三條及民法施行法第三十七條ニ所謂第三者ニ該當セス (大正四、一〇、二六)

○地上ニ生育スル葉煙草ハ未タ土地ヨリ分離セサル間ハ不動産ナリ而シテ之カ賣買ヲ第三者ニ對抗スルニ付テハ少クトモ其權利ノ得喪變更ノ事實ヲ表示スル方法ヲ採ルコトヲ要シ特別ノ徵標ヲ附シテ他人ニ明認セシメ得ヘキ方法ヲ採リ又ハ引渡ノ方法ヲ採リタルトキハ對抗要件ヲ充タシタリト認ムヘキモノトス (大正五、四、二五)

○朝鮮不動産證明令及朝鮮不動産登記令ニ於テハ土地及建物ノミノ登記

大	二	三	四	五
大	二	二	三	三
大	一八〇	二五七	三〇三	五四二
大	二	二	二	二

及證明ニ付規定シ其他ノ不動産ニ付テハ何等ノ規定ヲモ爲サスト雖之ニ關スル物權ノ得喪及變更ヲ以テ正當ノ利益ヲ有スル第三者ニ對抗スルニハ其得喪及變更ノ事實ヲ表示スル或方法ヲ採ルコトヲ要スルモノト爲スヘク其方法トシテハ或ハ特別ノ徵標ヲ附シ他人ヲシテ之ヲ明認セシメ得ルニ足ルヘキ公示方法ヲ採リ或ハ引渡ノ方法ヲ採ルニ於テハ之ヲ以テ對抗要件ヲ充シタルモノト認ムルヲ妥當トス (大正五、一一、二八)

○立木所在地ノ多數村民ニ對シ其買受ケタルコトヲ口頭ヲ以テ發表シタル行爲ハ未タ以テ右對抗要件ヲ充シタルモノト云フヲ得ス (大正五、一一、二八)

○土地及建物以外ノ不動産物權ニ付テノ得喪變更ヲ第三者ニ對抗スルニハ其得喪變更ノ事實ヲ表示スル或方法ヲ採ルコトヲ要シ其方法トシテハ或ハ特別ノ徵標ヲ附シ他人ヲシテ之ヲ明認セシメ得ルニ足ルヘキ公示方法ヲ採リ或ハ引渡ノ方法ヲ採ルニ於テハ之ヲ以テ對抗要件ヲ充タシタルモノト認ムルヲ妥當トス (大正五、一一、二八)

○正當ノ權原ヲ有セサル者ヨリ贈與ヲ受ケタル者ハ他人ノ登記又ハ證明ノ欠缺ヲ主張スルニ於テ正當ノ利益ヲ有スルコトナケレハ朝鮮民事令

大	五	三八五
大	五	三八六
大	五	三九二九

第十三條又ハ民法施行法第三十七條ニ所謂第三者ニ該當セス (大正五、一一、二八)

○朝鮮民事令第十三條ハ第三者ニ抗辯權ヲ與フル趣旨ノ規定ニアラス苟モ朝鮮不動産登記令又ハ朝鮮不動産證明令ニ於テ登記又ハ證明ノ規定ヲ設ケタル物權ノ得喪及變更ニ付登記又ハ證明ナシトノ事實アル以上ハ其欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル第三者ニ對シテハ其得喪及變更ヲ主張スルヲ得スト云フニ在リテ第三者カ登記又ハ證明ノ欠缺ヲ主張スルニ及ヒ始メテ其點ニ付判斷ヲ爲スヘシトノ趣旨ニアラス (大正六、六、三〇)

○甲者カ其所有不動産ヲ第一次ニ乙者ニ賣却シ第二次ニ於テ丙者ニ之ヲ賣却シタル場合ニ於テ(一)兩次ノ賣却行爲カ何レモ朝鮮民事令施行以前ナルトキハ乙者及其承繼人ハ同令施行前ハ勿論其施行後ト雖尙登記又ハ證明ナクシテ丙者及其承繼人ニ對抗スルコトヲ得ヘク丙者及其承繼人ハ登記又ハ證明ヲ受ケタルト否トヲ問ハス同令第十三條又ハ民法施行法第三十七條ニ所謂第三者ニ該當セス(二)乙者ニ對スル賣却行爲カ朝鮮民事令施行以前ニシテ丙者ニ對スル賣却行爲カ同令施行ノ日ヨリ一年内ナルトキハ乙者及其承繼人ハ同令施行ノ日ヨリ一年内ハ勿論

大	五	三〇一六
大	六	四六二四

其一年ヲ經過シタル後ト雖尙登記又ハ證明ナクシテ丙者及其承繼人ニ對抗スルコトヲ得ヘク丙者及其承繼人ハ登記又ハ證明ヲ受ケタルト否トヲ問ハス同令第十三條又ハ民法施行法第三十七條ニ所謂第三者ニ該當セス(三)乙者ニ對スル賣却行爲カ朝鮮民事令施行以前ニシテ丙者ニ對スル賣却行爲カ同令施行ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル後ナルトキハ乙者及其承繼人ハ同令施行ノ日ヨリ一年內ニ登記又ハ證明ヲ受クルニ非サレハ民法施行法第三十七條ニ依リ丙者及其承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス(四)兩次ノ賣却行爲カ何レモ朝鮮民事令施行後ナルトキハ同令第十三條ニ依リ登記又ハ證明ノ有無ヲ以テ其對抗力ノ有無ヲ定ムヘキモノトス (大正六、六、三〇)

○不動産ヲ信託的ニ讓渡シタル場合ニ受託者カ之ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ第三者ハ所有權ヲ取得スヘキモ未タ其權利移轉ノ證明又ハ登記ヲ爲ササル内信託者カ信託的讓渡契約ヲ解除シ若クハ賣買契約ニヨリ受託者ヨリ外部關係ノ權利ヲ回收シ權利移轉ノ證明又ハ登記ヲ爲シタルトキハ其權利移轉ノ證明又ハ登記ヲ爲ササル第三者ニ對抗シ得ヘク而シテ民法第五百四十五條ハ必スシモ朝鮮民事令第十三條ノ規定ヲ除外シ不動産ヲ買受ケタル第三者ハ契約ノ解除者ニ對シ證明又ハ登記ナ

六
四
六
四

クシテ其權利ノ移轉ヲ對抗シ得ルモノトスル趣旨ニアラサレハ前述ノ場合ニ受託者ヨリ土地ヲ買受ケタル第三者ハ信託契約ヲ解除シ其權利移轉ノ證明又ハ登記ヲ爲シタル信託者ニ對シ權利ノ移轉ヲ對抗スルヲ得ス (大正七、四、九)

○民法第五百四十五條第一項但書ノ場合ニ於テモ朝鮮民事令第十三條ノ適用ヲ除外スヘキモノニアラスシテ同條但書ニ該當スル第三者ト雖モ其權利カ物權ニシテ而カモ其物權ノ取得ニ付證明又ハ登記ヲ受ケサル以上ハ其欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス (大正七、五、二一)

○債權者ハ債務者ノ財産ニ對シ差押又ハ配當加入ヲ爲シタル場合ハ格別單ニ債權者タルカ爲メ債務者カ其財産ヲ他ニ讓渡シタルトキ其對抗要件ノ欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル第三者タルモノニアラス (大正七、七、一〇)

○遺産相續ニ因ル不動産所有權ノ取得モ其登記ヲ爲スニ非レハ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス而シテ朝鮮ニ於テハ戸主カ男子孫ナクシテ死亡シタルトキハ其妻カ戸主權竝ニ亡戸主ノ遺産ヲ相續スルモノニシテ其相續後死後養子カ選定セラレタル場合ニハ該養子ハ亡戸主死

大
七
五
二
四

大
七
五
四
三
九

大
七
五
六
四
一

亡ノ日ニ遡リテ戸主權竝戸主ノ遺產ヲ相續スルニ非スシテ其選定セラレタル日ニ亡戸主ノ妻ヨリ之カ相續ヲ爲スモノナリ從テ若シ右養子カ之カ選定ヲ受ケタルニ拘ラス遺產相續ニ依ル不動産所有權ノ取得ヲ登記セス而カモ他面ニ於テ其先代タル戸主ノ妻カ亡戸主ノ遺產タル不動産ヲ他ニ賣却シタルトキハ其不動産ノ買受人ハ朝鮮民事令第十三條ニ所謂第三者ニ該當スルモノナルヲ以テ遺產相續ニ因リ該不動産ノ所有權ヲ取得シタル右養子モ之ヲ以テ第三者タル右買受人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス (大正九、一一、一八)

○土地ノ上ニ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ受ケタルモノハ其後該土地ノ所有權ヲ承繼シタルモノニ對シ當然對抗シ得ルモノナレハ典當權ノ實行ニ因リ該土地ノ所有權ヲ競落シタル者ハ未タ競落ニ因ル所有權取得ノ證明又ハ登記ヲ受ケサルトキト雖典當權設定ノ證明又ハ登記後ニ於テ該土地ノ所有權ヲ承繼シタル者ニ對シ亦當然對抗シ得ヘキモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ右承繼人ハ朝鮮民事令第十三條ニ所謂第三者ニ該當セス (大正一〇、六、三)

○公有ニ係ル河川ノ流水ニ付テハ從來適法ニ之ヲ灌漑セル者ニ於テ灌漑ノ必要ヲ充タス程度ニ於ケル其專用權ヲ取得スヘキコトハ朝鮮古來ノ

九
七
四
八
三

一〇
八
二
四
〇

慣習ナリ而シテ公有ニ係ル河川ノ流水ハ法令ニ於テ其使用ヲ禁止シ若クハ制限セサル以上何人ト雖他人ノ權利ヲ侵害セサル限り自由ニ之ヲ使用シ得ヘキモノナレハ如上專用權ハ灌漑ノ必要ヲ充タス程度ニ限定セラルヘク其程度ヲ超越スル部分ニ之ヲ及ホスヲ得ス (大正一〇、七、一)

○上流ニ於ケル引水者カ築決其他ノ設備ニ依リ引水シ下流ニ於ケル專用權者ヨリ該設備ノ撤廢若クハ改築ヲ請求スル場合ト然ラスシテ引水スヘカラストノ不行爲ヲ請求スル場合トハ區別セサルヘカラサルモノニシテ前者ノ場合ニ於テハ苟モ該設備アルカ爲ニ旱魃年ニ於テ下流ニ於ケル專用權者ノ權利ヲ侵害スル以上ハ縱令旱魃ニ非サル年ニ於テ侵害ト爲ラサルトキト雖之カ撤廢若クハ改築ヲ命スルヲ相當トスヘク其撤廢ヲ命シタルトキハ其撤廢後更ニ下流ニ於ケル專用權者ノ權利ヲ侵害セサル程度ニ適應スル設備ヲ施シテ引水スルコトヲ得ルヲ以テ其改築ヲ命シタルトキト同シク下流ニ於ケル專用權者ノ權利保護ト共ニ上流ニ於ケル引水者ノ利益保護ヲ全フスルコトヲ得ヘシト雖後者ノ場合ニ於テハ之ト異ナリ單ニ旱魃年ニ於テノミ下流ニ於ケル專用權者ノ權利ヲ侵害スルニ止マル以上ハ旱魃年ニ於テノミ引水ヲ禁止スル趣旨ノ下

一〇
八
二
四
〇

ニ適當ナル判決主文ヲ作りテ言渡スヘク早魃ニ非サル年ニ於テ之ヲ禁止スヘキ理由毫モ存在セサルモノニシテ若シ早魃ニ非サル年ニ於テモ之ヲ禁止スルニ於テハ下流ニ於ケル專用權者ノ權利保護ヲ不當ニ擴張スルコトトナリ上流ニ於ケル引水者ノ利益保護ヲ全フスルコト能ハサルニ至ルヘキヲ以テ下流ニ於ケル專用權者ヨリ早魃年ナルト否トヲ問ハサル趣旨ノ下ニ引水スヘカラストノ請求ヲ爲シ裁判所ニ於テ其請求ヲ認容セムトスルニハ上流ニ於ケル引水カ早魃年ナルト否トヲ問ハス常ニ下流ニ於ケル專用權者ノ權利ヲ侵害スル事實ヲ判示セサルヘカラスルモノニシテ單ニ稀ニ見ル早魃年ニ於テノミ之カ侵害ノ事實アリシコトノミヲ判示シテ容易ク其請求ヲ認容シ得ヘキモノニアラス (大正一〇、七、一一)

大
一〇
八
四二

○信託者カ不動産ヲ信託的ニ讓渡シタル後該信託契約ヲ解除シ受託者ヨリ外部關係ノ權利ヲ回復シタルトキト雖其權利移轉ノ登記ヲ爲スニ非サレハ所有權ノ回復ヲ以テ登記ノ欠缺ヲ主張スル正當ノ利益ヲ有スル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス從テ信託者カ其所有ニ係ル林野ヲ信託的ニ讓渡シタル後該信託契約ヲ解除シ受託者ヨリ外部關係ノ權利ヲ回復シタルトキト雖其權利移轉ノ登記ヲ爲ササル内第三者カ其林野ニ生立

スル立木ヲ讓受ケ其公示方法ヲ施シタルトキハ縱令其後ニ信託者カ登記ヲ爲シタルトスルモ該立木ニ付テハ曩ニ公示方法ヲ施シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス (大正一〇、一、二二)

大
一〇
八
四五

○朝鮮民事令第十三條ニ依レハ不動産ニ關スル物權ノ得喪及變更ニ付朝鮮不動産登記令又ハ不動産證明令ニ於テ登記又ハ證明ノ規定ヲ設ケタルモノハ其登記又ハ證明ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルカ故ニ其登記又ハ證明ヲ經由セサル限り不動産物權ノ得喪變更ハ其效力絶對的ノモノニ非サレハ第三者ハ其效力ヲ否認シ得ルモノニシテ其效力ヲ絶對的ナラシムルニハ其登記又ハ證明ヲ經由スルコトヲ要ス (大正一〇、一、二二)

大
一〇
八
四五

○不動産ノ所有者カ之ヲ他人ニ賣却シ買主カ更ニ之ヲ第三者ニ轉賣シタル場合ニ於テ第一次ノ賣買契約カ解除セラレタルトキハ第一次ノ賣買契約ニ於ケル買主ト賣主トノ間竝ニ其買主ト轉買者トノ間ニ何レモ所有權ノ得喪ヲ來スヘキ場合ナルヲ以テ當初ノ賣主ト轉買者タル第三者トノ間ニ於テ互ニ其所有權ヲ主張セントスルトキハ其權利ノ優劣ニ付テハ民事令第十三條ノ適用アルモノトス (大正一〇、一、二二)

大
一〇
八
四六

○右ノ場合ニ於テ當初ノ賣主カ解除權ヲ行使シタルニ依リ回復シタリト

スル所有權ヲ轉買者タル第三者ニ對抗セントスルニハ不動産所有權ニ付自己名義ノ登記又ハ證明ノ存スルカ若クハ一旦買主名義ニ登記又ハ證明セラレタル場合ニ於テ抹消登記又ハ抹消證明若クハ移轉登記又ハ移轉證明ニ由リ登記名義又ハ證明名義カ自己ニ回復セラレタルコトヲ要シ又轉買者タル第三者カ取得シタリトスル所有權ヲ解除者タル賣主ニ對抗セントスルニハ自己ノ登記又ハ證明ヲ經由セサルヘカラス

(大正一〇、一一、一二)

○民法第五百四十五條ハ必スシモ朝鮮民事令第十三條ノ規定ヲ除外スルモノニアラス (大正一〇、一一、一二)

○土地ノ上ニ立木カ存在スル場合ニ於テ其地盤ト立木カ各別ニ所有權ノ目的トナルコトハ在リ得ヘシト雖其兩者カ共ニ同一人ノ所有ニ屬スルトキハ其立木ハ固ト土地ノ定著物ニ外ナラサレハ地盤ト共ニ一個ノ不動産タル土地所有權ノ目的タルニ過キササルモノニシテ立木ト地盤ノ上ニ各別ニ所有權ヲ認ムヘキモノニアラス (大正一一、一二、一三)

○如上ノ場合ニ所有者ノ處分ニ因リ土地所有權ノ移轉アリタル場合ニ於テ特別ノ留保ヲ爲ササル限リ立木ハ土地ニ隨伴シテ新所有者ニ歸屬スヘク且其所有權移轉ニ付登記ヲ經由シタルトキハ之ニ因リ地盤ノミナ

大 一〇
大 一〇
八 八
八 四
四 六

大 二
大 九
大 二

ラス立木ニ關シテモ所有權ノ移轉アリタルコトヲ第三者ニ對抗シ得ヘキモノトス (大正一一、一二、一三)

○數人カ順次ニ不動産所有權ヲ移轉シ何レモ登記ヲ經サル場合ニ於テ當事者協議上最初ノ讓渡人ヨリ直接ニ最後ノ讓受人ニ所有權移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス (大正一一、一二、一三)

○數人ノ間ニ順次賣買アリタル場合ニ於テ最初ノ賣主ナル登記名義人ヨリ最後ノ買主ニ對シテ直接ニ所有權移轉ノ登記ヲ爲シ中間ニ於ケル移轉登記ヲ省略スルモ其登記ヲ以テ有效ト爲スハ其各賣買當事者全員カ合意ノ上之ヲ爲シタルトキニ限ル故ニ其合意ナクシテ爲シタル省略登記ハ之ヲ無効トスヘク從テ其合意ナキ場合ニ於テ當事者ノ一方ハ他ノ一方ニ對シテ省略登記ヲ強要スルコトヲ得サルモノトス (大正一一、一三、二四)

○立木所有權ノ取得ヲ第三者ニ對抗スルニハ第三者ヲシテ之ヲ明認セシムルニ足ルヘキ公示方法ヲ施スコトヲ要シ且右公示方法ハ所有權取得ノ當時ニ於テ之ヲ施シタルノミヲ以テ足レリトセス第三者ニ對抗スル當時ニ於テモ尙繼續シテ存在スルコトヲ必要トスルモノナルヲ以テ立木所有權取得ノ公示方法ハ一度相當ニ之ヲ施スヲ以テ足り必スシモ永

大 二
大 九
大 二〇八

大 二
大 九
大 二

大 二
大 九
大 二

久的ニ存續セシムルコトヲ要セスト爲シタルハ失當ナリ (大正一一、四、一一)

○不動産ヲ信託讓渡シタル場合ニ受信者カ之ヲ他ニ流抵當ニ供シ期限ニ至リ其債務ヲ辨濟セサリシ爲該不動産ノ所有權カ債權者ニ移轉スルモ債權者ニシテ未タ其權利移轉ニ付登記ヲ爲ササル内信託者カ信託讓渡契約ヲ解除シタルトキハ信託者ハ其解除ニ依リ該不動産ノ權利ヲ回復シ得ヘキモノニシテ所論ノ如ク絶對ニ權利者トナリ得サルモノニアラス而シテ信託讓渡契約ヲ解除シタル信託者カ其登記ヲ爲ササルトキハ互ニ他ノ登記ノ欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル第三者トナルモノニシテ信託者ハ債權者ノ登記ノ欠缺ヲ主張シ得ヘキモノトス (大正一一、五、二)

○庶子ノ生母カ親權ヲ行使スル場合ニハ生母カ庶子ノ親權者トシ其ノ不動産ヲ處分スルニ付必シモ嫡母ノ同意ヲ得ルコトヲ要セシモノニアラス此ノ場合ニ嫡母カ庶子ノ親權者トシテ第三者ニ庶子所有ノ不動産ヲ賣却スルモ其ノ賣買カ前記大正十年十一月制令第十四號ノ施行前ナルニ於テハ法定代理權ナキ者ノ爲シタル行爲ニ外ナラサレハ之ニ依リ第三者ハ該不動産ニ付何等ノ權利ヲ取得スルモノニアラス從テ同庶子ノ親權者タル生母ヨリ同一不動産ヲ買受ケタル者カ未タ登記ヲ經サルモ

二二
九二六

二
九二六

其ノ登記ノ欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル第三者ナリト謂フヲ得ス (大正一一、七、二八)

○甲、乙、丙間ニ順次ニ不動産ノ所有權ヲ移轉シタル場合ニ之等累次ノ所有權移轉登記ニ付キ關係者協議ノ上甲ヨリ直接丙ニ其手續履行ヲ爲スヘキコトヲ契約シタルトキハ反對ノ意思アリシト認メ得サル限り之ニ依リテ乙ハ當然其ノ登記義務ヲ免ルル約旨ナリシト解スヘキニ非スシテ甲ノ丙ニ對スル登記手續ノ履行完了ヲ俟チテ乙ノ登記義務消滅スト爲ス約旨ナリト解釋スルヲ相當トス (大正一一、九、二九)

○朝鮮ニ於テハ民法第七十七條ニ依ラス朝鮮民事令第十三條ニ依リ不動産ニ關スル物權ノ得喪及變更ニ付朝鮮不動産登記令又ハ不動産證明令ニ於テ登記又ハ證明ノ規定ヲ設ケタルモノハ其ノ登記又ハ證明ヲ受タルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノニシテ右第三者トハ登記又ハ證明ノ欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スヘキ第三者ナリトス (大正一三、五、一六)

○不動産ニ關スル物權ノ設定又ハ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ後該處分ヲ爲シタル者ノ一般承繼人ヨリ同一不動産ニ付物權ヲ取得シタル者モ亦民法第七十七條(朝鮮民事令第十三條)ニ所謂第三者トシテ登記ノ

二
九二七

二
九三六

二
一一〇

欠缺ヲ主張スルニ付法律上正當ノ利益ヲ有スルモノト解スルヲ相當トス (大正一三、一〇、三)

【反對】

○登記名義人タル家督相續人ヨリ不動産ヲ買受ケ其登記ヲ經タリトスルモ該不動産カ已ニ被相續人ニ於テ他ニ讓渡シタルモノニ係ルトキハ家督相續人ハ相續ニ因リ該不動産ヲ取得スヘキ謂レナク該賣買ハ法律上ノ效果ヲ發生スヘキモノニ非サルカ故ニ右買受人ハ民法第七十七條ニ所謂第三者中ニ包含スルモノニ非ス從テ眞ノ所有者ハ所有權取得ノ登記ナシト雖尙之ヲ以テ右買受人ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス (大正八、七、一八)

○登記名義人タル家督相續人ヨリ不動産ヲ買受ケ其登記ヲ經タリトスルモ該不動産ヲ既ニ被相續人ニ於テ他ニ讓渡シタルモノニ係ルトキハ家督相續人ハ相續ニ因リ該不動産ヲ取得スヘキ謂レナク該賣買ハ法律上ノ效果ヲ生スヘキモノニ非サルカ故ニ右買受人ハ民法第七十七條ニ所謂第三者ニ包含スルモノニ非ス從テ其所有者ハ所有權取得ノ登記ナシト雖尙之ヲ以テ右買受人ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス (大正九、七、九)

○被相續人ニ於テ其所有地所ヲ他人ニ賣却シ其所有權カ買主ニ移轉シタルトキハ家督相續人ハ相續ニ因リ其所有權ヲ取得スヘキ理由ナク從テ家督相續人カ更ニ之ヲ他人ニ賣渡スモ此者ハ所有權ヲ取得スル能ハス縱令形式上所有權移轉登記手續ヲ經ルモ其登記ハ無効原因ニ因リ抹消セラルヘキモノトス (大正一〇、三、一八)

○甲ヨリ土地ノ遺贈ヲ受ケタル乙ハ甲ノ死亡ニ因リ當然其所有權ヲ取得スヘキモノナルヲ以テ縱令甲ノ相續人丙カ相續ニ因リ其所有權ヲ取得シタリトシテ之ヲ丁ニ賣渡シ丙丁間ニ其

大 三 二 一 三

大 八 六 四 六 六

大 九 七 三 五

大 一〇 八 七

所有權移轉ノ登記ヲ爲シタリトスルモ元來登記原因ヲ缺如セル無効ノ登記ナルヲ以テ乙ハ丁ニ對シ其登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得サルヘカラス (大正一一、一〇、一〇)

○不動産ニ關スル物權ノ設定移轉アリタル場合ニ於テ其ノ後該處分ヲ爲シタル者ノ一般承繼人ヨリ同一不動産ニ付物權ヲ取得シタル者モ亦朝鮮民事令第十三條(民法第七十七條)ニ所謂第三者ニ該當ス (大正一四、四、七)

○他人ノ土地ニ其ノ承諾ヲ得スシテ墳墓ヲ設ケシ者ト雖二十年間平穩且公然ニ墳墓ノ基地ヲ占有セシトキハ時効ニ因リテ他人ノ土地ニ付地上權ニ類スル一種ノ物權ヲ取得スルモノトス斯ル權利ニ付テハ證明若ハ登記ヲ受クルコトナクシテ之ヲ第三者ニ對抗シ得ヘキ慣習ナリ (昭和二、三、八)

○甲乙間ノ土地所有權移轉登記ハ申請書類カ偽造ナル爲無効ノ登記ナリトスルモ當該土地カ甲乙間ノ賣渡擔保契約ニ因リ甲ヨリ乙ニ信託讓渡セラレタルモノナルトキハ乙ヨリ右土地ヲ讓受ケタル丙ハ有效ニ所有權ヲ取得スルノミナラス乙丙間ニ任意ニ爲サレタル所有權移轉登記ハ眞實ニ合致スルモノナルニ依リ前者ノ登記ノ效力如何ニ拘ラス有效ニシテ此ノ場合ニ甲カ信託契約ヲ解除スルモ最早丙ニ對抗スルコトヲ得

大 二 九 三 九 二

大 一四 三 一 〇 八

大 二 二 四 六 二

サルモノトス (昭和三、五、四)

○不動産登記令ニ登記ノ定アル不動産上ノ權利ノ取得ハ其ノ登記ヲ爲スニ非レハ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノニシテ第三者ノ意思ノ善惡ハ之ヲ問ハサルモノナルカ故ニ或不動産上ノ權利カ甲ヨリ乙ニ移轉シタルモ其ノ登記ナキ間ニ再ヒ甲ヨリ丙ニ對シ同一ノ權利ヲ讓渡スル合意ヲ爲シ先ツ之カ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ乙ハ丙ニ對シ自己ノ權利取得ヲ對抗スルコトヲ得サルハ勿論丙ノ右行爲ヲ以テ乙ノ權利ヲ侵害スルモノトシテ不法行爲ノ責ヲ負ハシムルコトヲ得サルモノトス (昭和三、五、二二)

○時効ニ因ル不動産物權ノ取得ハ之ヲ登記スルニ非サレハ第三者ニ對抗スルヲ得サルモノトス (昭和三、六、九)

○合有不動産ニ付テハ門中ノ規約其他合有物處分ニ關スル慣習(例ヘハ門中三分ノ二以上ノ合意)ニ從ヒ其權利ヲ第三者又ハ合有者ノ一員若ハ全員ニ信託讓渡シテ對外關係ニ於テハ受託者ノ單獨所有又ハ共有ト爲シ以テ其權利ノ保存又ハ得喪ニ付登記ヲ受クルコトヲ得ルモノトス (昭和三、七、二七)

○朝鮮民事令第十三條(民法第七十七條)ノ規定ハ當事者カ不動産ニ關

三 一五 二四

三 一五 一五五

三 一五 一八〇

三 一五 二二八

スル物權ノ得喪及變更ヲ第三者ニ對シテ主張スルニハ之ニ付登記ヲ爲シタルコトヲ要シ其ノ第三者トハ登記ノ欠缺ヲ主張スルニ付法律上正當ノ利益ヲ有スル第三者ニ限ル趣旨ニ外ナラスシテ單ニ斯ル第三者ニ對シ登記欠缺ノ抗辯權ヲ與ヘタル法意ニハ非ス (昭和三、九、四)

第二十一條

○朝鮮民事令第二十一條ニ依ル訴訟代理人ノ許可ハ各審級毎ニ之ヲ受クヘキモノナレハ其訴訟代理人ノ許可ナキ爲メ代理ノ欠缺ヲ理由トシテ裁判セラレタルトキハ縱令上級審ニ於テ訴訟代理人ヲ許可シタリトスルモ下級審ニ於ケル代理ノ欠缺ヲ追完スルニ由ナキモノトス (大正四、三、九)

○辯護士ニ非サル訴訟代理人カ當事者本人ヨリノ訴訟代理ノ許可申請書ト共ニ其代理人名義ノ訴狀控訴狀若クハ上告狀ヲ提出シタル場合ニ裁判所カ其訴訟代理人ヲ許可シタルトキハ其訴訟控訴若クハ上告ノ提起ハ適法ニ爲サレタルモノト看做スヘキモノトス (大正四、六、一八)

○控訴狀ト共ニ訴訟代理ノ許可申請書ヲ第一審裁判所ニ提出スルモ其代理ノ許否ハ控訴裁判所ニ於テ爲スヘキモノトス (大正四、六、一八)

第二十六條

三 一五 二五二

四 三 九〇

四 三 一九九

四 三 一九九

○當事者雙方カ口頭辯論期日ニ出頭スヘキ受書ヲ提出シタルトキハ朝鮮民事令第二十六條ニ依リ該期日ハ當事者雙方ニ對シ適法ノ呼出アリタルト同一ノ效力ヲ生スルモノトス (大正五、二、一五)

第二十九條

○當事者雙方引續キ再度出頭セサルニ拘ラス朝鮮民事令第二十九條ニ該當セサルモノト思料シタルトキ當事者ハ口頭辯論期日指定ノ申請ヲ爲シ得ヘク裁判所ニ於テハ同條ニ該當セスト認メタルトキハ新ニ口頭辯論ノ期日ヲ指定シ當事者ヲ呼出シ又同條ニ該當スルモノト認メタルトキハ該申請ヲ却下スルヲ民事訴訟法規ノ趣旨ニ適合スルモノト解スヘキモノトス而シテ後ノ場合ニ於テハ當事者ハ民事訴訟法第四百五十五條ニ從ヒ抗告ノ申立ヲ爲シ得ヘキモノニシテ右法則ハ控訴審ニ於テモ其適用アルモノトス (大正九、四、二四)

○朝鮮民事令第二十九條第二項ニ所謂新期日トハ同條第一項ノ規定ニ依リ新ニ指定セラレ且最初ニ開廷セラレタル期日ヲ指稱ス (大正一一、一〇、一三)

○民事令第二十九條ハ抗告裁判所ノ命シタル口頭辯論期日ニハ其ノ適用ナキモノトス (大正一一、四、二八)

大	五
大	三
大	三九三
大	九
大	七
大	一三一
大	二
大	九
大	三九五
大	一五
大	一三
大	一〇二

第三十三條

○朝鮮民事令第三十三條ニ規定スル注意權ヲ行使スルト否トハ裁判長ノ權能ニ屬スルヲ以テ之ヲ行使セサリシトテ違法トナルコトナシ (大正七、五、一七)

○朝鮮民事令第三十三條ニ規定セル裁判長ノ注意權ハ之ヲ行使スルト否ト一ニ裁判長ノ自由ニ屬シ裁判長カ之ヲ行使セサリシコトヲ理由トシ上告ノ理由ト爲スヲ得ス (大正一一、二、九)

第三十五條

○控訴事件カ終局判決ニ因リ一旦其ノ審級ヲ離脱スルモ上告ノ結果其ノ判決ノ全部又ハ一部カ破毀セラレ事件カ原裁判所ニ差戻サレタルトキハ同一事件カ再ヒ同一審級ニ繫屬スルニ至ルモノナルヲ以テ其ノ差戻前闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シ差戻後又闕席判決ヲ爲ストキハ是朝鮮民事令第三十五條ニ所謂再度ノ闕席判決ニ該當スルモノトス (昭和二、一〇、二七)

第四十七條

○期間經過後ニ起シタル控訴ハ朝鮮民事令第四十七條ニ依リ第一審裁判所決定ヲ以テ之ヲ却下シ得ヘク若シ第一審裁判所ニ於テ右決定ヲ與ヘ

大	七
大	五
大	四三
大	三
大	一〇
大	三〇
大	二
大	一四
大	三五
大	八

サリシトキハ民事訴訟法第四百二條ニ依リ第二審裁判所ノ裁判長ニ於テ却下ノ命令ヲ爲シ得ヘキモノトス (大正一五、一二、一四)

第三十九條

○朝鮮民事令第三十九條ハ注意的規定ニ過キササルニ依リ之ニ依據シテ證據決定ヲ取消スヲ許ササル本則ノ存スルコトヲ推論セントスルハ其當ヲ得サルモノトス (大正一〇、六、一七)

第七十三條

○朝鮮人ノ外關係者ナキ離婚事件ニ付テハ朝鮮民事令第七十三條ノ規定ニ則リ通常ノ訴訟手續ニ依リ審判スヘク此場合ニ於テ控訴人ニ對シテ爲ス闕席判決ニ關スル民事訴訟法第四百二十八條ノ適用ヲ除外セルモノナシ (大正二、一〇、二八)

附 則

第七十九條

○朝鮮人間ノ訴訟ニシテ朝鮮民事令施行前ニ於テ言渡アリタル判決ニ對スル上告期間ハ判決言渡ノ日ヨリ始マルコトハ其當時ノ法律タル民刑訴訟規則ノ規定ニ徵シテ明ナルモ同令施行ノ日マテニ上告期間ヲ經過セシテ其施行後ニ至リ上告スルモノニ在リテハ同令第一條ニ依リテ

大 一五二三 四三七

大 一〇八三〇

大 二二三九

適用スヘキ民事訴訟法第四百三十七條ノ規定ニ則リ其上告期間ハ判決送達ノ日ヨリ計算シ而カモ判決送達前ニ於テ爲シタル上告ハ之ヲ無効トスヘキモノトス (明治四五、七、一九)

○民刑訴訟規則ニ依リテ送達セラレタル判決謄本ハ民事訴訟法ニ依リ送達サルヘキ判決正本ニ該當スルモノナレハ朝鮮民事令第七十九條ノ規定ニ依リ判決正本ノ送達アリタルト同一ノ效力ヲ有スト看做スヘキモノナリ (明治四五、七、三〇)

第八十一條

○朝鮮民事令第八十一條ニ依リ準用スヘキ民法施行法第三十七條ニ依レハ從來登記又ハ證明ナクシテ第三者ニ對抗スルヲ得ヘカリシ權利ト雖朝鮮民事令ノ規定ニ依リ登記又ハ證明ヲ受クヘキモノナルトキハ第三者ニ對抗スルカ爲メニハ同令施行ノ日ヨリ一年內ニ登記又ハ證明ヲ受ケサルモ同令施行後一年ヲ經過セサル間ハ登記又ハ證明ヲ受ケサルモ第三者ニ對抗スルヲ得 (大正元、一〇、一五)

明 四五 一四九五

明 四五 一五〇二

大 元 二 四〇

民法施行法

第二十九條

○民法施行法第二十九條ハ舊韓國民事訴訟期限規則ノ適用ヲ受クルト共ニ實體上債權成立ノ初ヨリ日本民法ニ依リ同法中時効ニ關スル規定ノ適用ヲ受クルモノニ準用スルヲ得ス (大正三、七、二八)

○朝鮮民事令施行前ニ在リテハ出訴期限ヲ經過シタル債權ハ單ニ訴權ノ喪失ニ止マリ實體上ノ權利ハ依然トシテ存立ヲ認メラレタルモノナルニ民法施行法第二十九條ノ規定ノ結果トシテ朝鮮民事令施行以後ニ於テハ訴權ノ喪失ト共ニ實體法上ノ權利ノ消滅ヲ來スモノトス (大正六、一一、二〇)

第三十條

○民法施行法第三十條ニ依リ時効期間ヲ計算スルニハ朝鮮民事令施行前ニ經過シタル年月日數ニ其施行後經過シタル年月日數ヲ通算スヘキモノトス (大正六、九、二五)

第三十七條

○不動産所有權ハ朝鮮不動産證明令ニ依リ證明スヘキ權利ナルト同時ニ民法施行法第三十七條ニ所謂民法又ハ不動産登記法ノ規定ニ依リ登記スヘキ權利ナリ (大正三、三、一〇)

○不動産所有權ノ如キ朝鮮不動産登記令又ハ朝鮮不動産證明令ニ於テ登

大	三	二四五
大	六	四一〇〇
大	六	四六一
大	三	三九五

記又ハ證明ノ規定ヲ設ケタルモノハ登記又ハ證明ヲ以テ其得喪及變更ニ付第三者ニ對抗スル條件ト爲スモノナルヲ以テ民法施行法第三十七條ノ適用上證明ハ之ヲ登記ト同一ナリト解釋スヘキモノトス (大正三、三、一〇)

○民法施行法第三十七條ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ヲ有スル者ハ同法施行後一箇年ヲ過キタル後ト雖尙登記ナクシテ同法施行前及其施行後一箇年内ニ之カ權利ヲ取得シタル第三者ニ對シテ其權利ヲ對抗シ得ヘキ法意ナリトス (大正三、四、二一)

○民法施行法第三十七條ニ所謂第三者トハ當事者若クハ其包括承繼人ニ非スシテ不動産ニ關スル物權ノ得喪及變更ノ登記欠缺ヲ主張スルニ於テ正當ノ利益ヲ有スル者ヲ指稱スルヲ以テ正當ノ權原ニ因ラスシテ權利ヲ主張スル者ハ右第三者ニ該當セス (大正四、二、一九)

○假裝賣買ニ因ル買主ノ如キ其賣買無効ニシテ實體上何等ノ權利ヲ取得シタルコトナキ者ハ朝鮮民事令第十三條及民法施行法第三十七條ニ所謂第三者ニ該當セス (大正四、一〇、二六)

○正當ノ權原ヲ有セサル者ヨリ贈與ヲ受ケタル者ハ他人ノ登記又ハ證明ノ欠缺ヲ主張スルニ於テ正當ノ利益ヲ有スルコトナケレハ朝鮮民事令

大	三	二三五
大	三	二四八
大	四	三四
大	四	三〇三

第十三條又ハ民法施行法第三十七條ニ所謂第三者ニ該當セス (大正五、一一、二八)

○民法施行法第三十七條ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ權利ニ付登記ノ猶豫期間ヲ設ケタルモノニシテ同條ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ權利ヲ有スル者又ハ民法施行前及其施行後一年內ニ於ケル其承繼人ハ其施行後一年ヲ過キタル後ニ於テ其權利ヲ取得シタル第三者ニハ其施行後一年內ニ登記ヲ爲スニ非サレハ對抗スルコトヲ得スト雖其施行前及其施行後一年內ニ其權利ヲ取得シタル第三者ニハ第三者カ登記ヲ得タルト否トニ係ラス其施行後一年ヲ經過シタル後ト雖尙登記ナクシテ對抗シ得ルコトヲ認メタル趣旨ノ規定ナリトス (大正六、二、二三)

○朝鮮不動産登記令又ハ朝鮮不動産證明令ニ於テ登記又ハ證明ノ規定ヲ設ケタル權利ニ付テハ民法施行法第三十七條ノ適用上證明ハ之ヲ登記ト同一ナリト解スヘキモノトス (大正六、二、二三)

○朝鮮民事令施行以前ニ不動産ノ所有權ヲ取得シタル者ハ朝鮮民事令施行後一年內ニ其所有權取得ノ證明(又ハ登記)ヲ受クルニ非サレハ民事令施行後一年ヲ經過シタル後ニ權利ヲ取得シタル第三者ニ對抗スルコ

大 五 三〇六

大 六 四一五

大 六 四二六

トヲ得ス (大正六、六、一九)

○其所謂第三者トハ當事者若クハ其包括承繼人ニ非スシテ不動産ニ關スル物權ノ得喪及變更ノ證明又ハ登記ノ欠缺ヲ主張スルニ於テ正當ノ利益ヲ有スル者ヲ指稱ス (大正六、六、一九)

○其第三者ノ證明有效ナルノ結果其以前ニ爲シタル所有權保存ノ證明ハ事實ニ符合セサルモ其效力ヲ保有スルニ至ルモノトス (大正六、六、一九)
○甲者カ其所有不動産ヲ第一次ニ乙者ニ賣却シ第二次ニ於テ丙者ニ之ヲ賣却シタル場合ニ於テ(一)兩次ノ賣却行爲カ何レモ朝鮮民事令施行以前ナルトキハ乙者及其承繼人ハ同令施行前ハ勿論其施行後ト雖尙登記又ハ證明ナクシテ丙者及其承繼人ニ對抗スルコトヲ得ヘク丙者及其承繼人ハ登記又ハ證明ヲ受ケタルト否トヲ問ハス同令第十三條又ハ民法施行法第三十七條ニ所謂第三者ニ該

大 六 四三二

大 六 四三三

大 六 四三三

當セス(三)乙者ニ對スル賣却行爲カ朝鮮民事令施行以前ニシテ丙者ニ對スル賣却行爲カ同令施行ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル後ナルトキハ乙者及其承繼人ハ同令施行ノ日ヨリ一年內ニ登記又ハ證明ヲ受クルニ非サレハ民法施行法第三十七條ニ依リ丙者及其承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス(四)兩次ノ賣却行爲カ何レモ朝鮮民事令施行後ナルトキハ同令第十三條ニ依リ登記又ハ證明ノ有無ヲ以テ其對抗力ノ有無ヲ定ムヘキモノトス (大正六、六、三〇)

第七十九條 第八十條

○民法施行前ヨリ嫡母トシテ親權者タル者カ其施行後親權ヲ行フニ付テハ民法施行法ハ其ノ後見ニ關スル規定ヲ準用スヘキ趣旨ナリト解スルヲ妥當トス (昭和三、五、一一)

六	六
三	四
一五	六二
二三	四

民事訴訟法中改正法律施行法

第二條

○舊法ノ下ニ於ケル確定判決モ新法施行後ニ在リテハ民事訴訟法中改正施行法第二條本文ノ適用ヲ受ケテ民事訴訟法第二百一條所定ノ效力ヲ有スルモノトス (昭和四、一一、二八)

○昭和四年十月一日前ニ上告裁判所ヨリ事件ノ差戻アリタル場合ニ於テモ差戻ヲ受ケタル控訴裁判所カ同日以後ニ裁判ヲ爲ストキハ原判決ニ關與シタル判事ハ其ノ裁判ニ關與スルコトヲ得サルモノトス (昭和四、一一、一三)

法 例

第二條

○從來ノ慣習カ新ニ發布セラレタル強行法規ニ反シ廢止セラレタルトキハ縱令後日其強行法規カ廢止セラレルモ從前ノ慣習カ當然效力ヲ復活スルコトナシ (大正六、一一、一八)

第七條

六	四	四
四	一六	一六
一三	二七	二〇

○朝鮮人カ朝鮮ノ地ニ於テ内地人ト取引スル場合ニハ準據スヘキ法律ヲ指定スルコトヲ得ヘシ從テ準據スヘキ法律ヲ指定シタルヤ否ヤヲ審査セシテ朝鮮法規タル利息規例ハ朝鮮人間ノ取引ニノミ適用スヘクシテ當事者ノ一方カ内地人ナル場合ニハ適用スヘキモノニアラストシテ判決シタルハ違法ナリ (明治四四、三、二一)

○朝鮮會社令ニ依ル會社ニ係ル訴訟ニハ朝鮮法規ヲ適用セシテ日本法規ヲ適用スヘキモノナリ (明治四四、五、一一)

○内地人カ朝鮮人間ノ訴訟ニ付從參加ノ申立ヲ爲ストキハ之ニ適用スヘキ法規ハ朝鮮法規ナリトス (明治四四、五、一七)

○各當事者其國籍ヲ異ニシ行爲地及受訴裁判所モ亦其據ル所ノ法規同一ナラサル場合ニ於テハ裁判所ハ先ツ當事者ハ何レノ國ノ法律ニ依ルヘキ意思ナリシヤ又ハ其意思不明ナリシヤノ點ヲ取調ヘ準據スヘキ法律ヲ定メタル後ニアラサレハ法律行爲ノ成立及效力ニ付判斷スルヲ得サルモノトス (明治四五、七、二)

○舊韓國人カ當時外國タリシ神戸港ニ於テ法律行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其法律行爲ノ成立及ヒ效力ニ付何レノ國ノ法律ニ依ルヘキコトノ當事者ノ意思分明ナラサルトキハ行爲地法タル日本法ニ依ルヘキモノナ

明	明	明	明
四五	四四	四四	四四
一	一	一	一
四九二	二六六	二六〇	二二九

リ (大正三、七、二八)

○訴權ノ消滅ハ必然其訴權ノ基ク權利ノ消滅ヲ伴フモノニ非ス而シテ訴權ノ存否ニ關シテハ實體權利ニ付テノ準據法ノ如何ハ問ハス常ニ裁判所所在地ノ法律ニ依ルヘキモノトス (大正三、七、二八)

第十條

○當事者各其國籍ヲ異ニスト雖不動産所有權ノ得喪ニ付テハ其原因事實ノ完成當時ニ於ケル目的不動産ノ所在地法ニ依ルヘキモノトス (大正元、一〇、二九)

第十二條

○日韓併合後朝鮮ニ於テ朝鮮人ト日本内地人トノ間ニ行ハレタル指名債權讓渡ノ第三者ニ對スル效力ハ債務者ニ對シテ適用スヘキ法律ニ準據シテ之ヲ定ムヘキモノトス (明治四五、三、二八)

朝鮮總督府裁判所令

○農商工部ノ起墾許可ハ行政處分ナルモ之ニ基キテ爲ス工事ハ私法上行爲ニ外ナラサルヲ以テ其行爲ニシテ他人ノ權利ヲ侵害スルトキハ司法裁判所ハ其侵害行爲ヲ爲スヘカラサルコトヲ命スルモ行政處分其モ

大	大	大	大
三	三	三	三
二	二	二	二
四五三	四五三	四五三	四五三

ノヲ取消シ又ハ變更スルヲ直接ノ目的ト爲スモノニアラサルカ故ニ違
法ニアラス (隆熙三「明治四二」二、二〇)

○明治四十三年八月二十九日帝國カ韓國ヲ併合シタル結果韓國ニ對シテ
從來保有シタル各國ノ領事裁判權ハ茲ニ撤廢ニ歸シタルモノトス
(明治四四、四、一七)

○舊韓國宮内府ニ先納シタル税金ノ取立ニ關シテ觀察使タリシ者ニ對シ
其税金支拂ヲ請求スル訴訟ハ公法的關係ニ屬シ私法上ノ請求ニアラサ
レハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セス (明治四四、一〇、二〇)

○朝鮮ニ在ル裁判所ノ訴訟手續ニ關シテ作成スヘキ公正記録ハ朝鮮文ヲ
用キテ作成スルモ違法ト爲スヲ得ス (明治四四、一二、二七)

○舊韓國臨時帝室有及國有財産調査局カ或土地ニ對シ帝室有ニ非ス國有
ニ非ス民有ナリト決定シテ下給處分ヲ爲シタル場合ニ個人相互ノ間ニ
於テ其土地ノ所有權ヲ爭ヒ司法裁判所ニ出訴シタルトキハ裁判所ハ下
給處分ノ如何ニ拘ラス所有權ノ所在ヲ認定スルコトヲ得 (大正四、二、二)

判決ト査

○土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ裁判トハ各自獨立シテ
私權關係ヲ確定スルモノトス (大正四、七、六)

○土地調査令ニ基キ爲シタル査定ノ確定又ハ裁決モ司法裁判所ノ爲シタ

三	四	四	四	四
一	一	一	一	一
一	一	一	一	一
一	一	一	一	一

ル判決モ共ニ土地所有者ノ權利ヲ確定スルモノナリ唯其效力範圍ニ廣
狹ノ差アリ前者ハ一般的ニ羈束力ヲ生シ後者ハ當事者間ニ羈束力ヲ生
ス (大正六、三、二三)

○確定セル査定ト判決ト其結果ニ於テ互ニ牴觸シ相容レサルトキト雖二
者其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ナルヲ以テ之ヲ調和スヘキ法規ノ
存セサル現行法制ノ下ニ於テハ兩々相對シテ互ニ相侵スコトヲ得ス單
ニ其行爲ノ前後ノミニ依リ二者ノ間其效力ニ優劣ヲ付スヘキモノニ非
ス (大正六、三、二三)

○査定又ハ裁決カ判決ト其結果ニ於テ相牴觸スルコトアルモ此ノ兩者ハ
全然其系統ヲ異ニセル國家機關ノ行爲ニ依リ各自獨立シテ其所有權ヲ
確定シ兩々相對立シ互ニ相侵スコトヲ許ササルモノナレハ査定又ハ裁
決ノ效力ハ確定判決ニ對シ何等影響ナキト同時ニ確定判決ノ效力モ亦
査定又ハ裁決ニ對シ何等影響ヲ及ホスモノニアラス (大正七、七、九)

○甲カ嚮ニ土地申告ヲ爲シ其後同一土地ニ付乙ト所有權ヲ爭ヒ訴訟ノ結
果甲ノ所有ニアラスシテ乙ノ所有ナリトスル判決確定シ爾後更ニ甲ノ
申告ニ基キ甲ヲ同土地ノ所有者ナリトスル査定又ハ裁決アリタルトキ
ハ乙ハ甲ニ對シ確定判決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ルト同時ニ

六	六	七	六	六
四	四	五	四	四
二	二	五	二	二
一	一	九	一	一

聯

甲モ亦其査定又ハ裁決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク而シテ其間優劣ヲ付スヘカラサルモノナレハ乙カ同土地ニ所有權保存登記ヲ爲スモ其ハ其所有權ニ基ク正當ノ行爲ニシテ甲ハ之カ爲其所有權ヲ侵害セラルヘキモ自己ノ權利ヲ主張シ其抹消ヲ求ムルヲ得ス（大正七、七、九）

○同一土地ノ所有權ニ關シ土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ斯ル場合ニハ一方ヲシテ査定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト共ニ又他ノ一方ヲシテ判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ其當事者間ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ狀態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキモノト爲スヲ妥當トス從テ若シ他ノ一方ノ現狀ニ變更ヲ加ヘ其權利ヲ侵害シテ目的物件ヲ奪取スルカ如キ行爲ヲ爲スニ於テハ侵奪セラレタル者ハ侵奪者ヲ相手取り之カ回復ヲ請求スルヲ得ヘキモノトス（大正八、三、一四）

○土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ニ因リ土地所有者ノ權利確定シタルトキハ再審ノ申立ニ依リ變更セラレサル限りハ絶對的效力ヲ生スルヲ以

大七五九〇

大八六六

テ査定名義人又ハ裁決名義人ハ何人ニ對シテモ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘク又司法裁判所カ土地所有權ノ有無ニ關シテ判決ヲ爲シ其判決確定シタルトキハ其當事者間ニ在リテハ羈束力ヲ生スルニ依リ其一方ハ他ノ一方ニ對シテ判決ニ因リテ定マリタル所有權ノ有無ニ付之ヲ主張スルヲ得ヘシ從テ若シ同一土地ノ所有權ニ關シ査定又ハ裁決ト確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナレハ其行爲ノ前後ニ依リテ其效力ニ優劣ヲ付スヘカラサルハ勿論斯ル場合ニ於テ之ヲ調和スヘキ法規ノ存セサル現行法制ノ下ニ在リテハ兩々相對立シテ其效力ヲ有スルモノト認メサルヘカラス故ニ斯ル場合ニ於テハ一方ヲシテ査定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト同時ニ又他ノ一方ヲシテ確定判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ當事者間ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ狀態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキモノトナスヲ妥當トスルコトハ當院ノ判例トスル所ニシテ之ヲ變更スルノ理由アルヲ認メス（大正一〇、二、二三）

〇、二、二三

大八五三

○朝鮮總督ニ於テ埋築許可出願ヲ許容スルモノト認ムヘキ事實ナルヤ否
 ヤヲ判示スルコトカ當事者間ニ於ケル賣買契約履行ノ能否ヲ判斷スル
 上ニ於テ必要ナルトキハ之ヲ判示セサルヘカラサルモノニシテ縱令之
 カ判示ヲ爲シタリトスルモ同總督ノ許否ノ權限ニ何等ノ消長ヲ及ホス
 コトナキモノナレハ之ヲ判示シタルノ故ヲ以テ同總督ノ權限ニ容喙シ
 タル不法アリト謂フヲ得サルモノトス (大正七、七、二)

○下流ニ於ケル田地灌漑ノ爲ニスル流水使用權者カ其上流ニ設置セラレ
 タル堤防ノ障害ニ因リ田地灌漑上必要ナル水量ヲ得ルコト能ハサルニ
 至リタルトキハ其權利ヲ侵害セラレタルモノニ外ナラサルヲ以テ必ス
 シモ行政權ノ作用ニ俟ツヲ要セス司法裁判所ニ出訴シテ該堤防ノ取除
 ヲ請求シ得ルモノトス (大正七、七、一〇)

○臨時財産整理局ノ處分ハ單ニ國有財産ナリヤ否ヤヲ確定スル效力アル
 ニ過キサレハ或不動産ヲ民有トシテ還給處分ヲ爲スコトアルモ其國有
 ニ非サルコト確定スルニ止マリ人民相互間ノ權利ヲ確定スル效力ナキ
 ハ勿論還給處分ハ國有財産ヲ人民ニ附與スルモノニ非サレハ還給處分
 ヲ受ケタレハトテ當然其所有者ト爲ルモノニ非ス從テ眞ノ所有者ハ還
 給處分ヲ受ケタルモノニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク裁判所

大
七
五
五五

大
七
五
六四七

モ亦還給處分ノ如何ニ拘ラス所有權ノ所在ヲ認定スルコトヲ得ルモノ
 トス (大正八、四、一五)

○不法ノ行政處分ニ因リテ權利ヲ侵害セラレタル者カ其ノ廢止變更ヲ求
 ムル訴ハ民事事件ニ非ス水利組合ノ貯水池築造ハ行政處分ニシテ之ニ
 必要ナル堤防ノ撤去及築堤工事ノ禁止ヲ命スルコトハ當然ニ行政處分
 ノ廢止變更ヲ伴フモノナルカ故ニ其ノ請求ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セ
 ス (昭和四、五、一〇)

大
八
六
二四四

昭
四
一六
一一

第一條

○朝鮮總督府裁判所令第一條ニ朝鮮總督府裁判所ハ朝鮮總督ニ直屬シ云
 ヲト規定セルハ裁判所構成法第三百五條ニ司法行政監督權ノ施行ニ
 關シ「司法大臣ハ各裁判所ヲ監督ス」ト規定シアルニ對應スルモノニシ
 テ其ノ旨意ハ朝鮮總督府裁判所ハ司法行政ノ監督上朝鮮總督ニ直屬ス
 トノ義ニ他ナラス司法權ノ行使ニ關シテハ朝鮮總督府裁判所亦憲法ニ
 謂フ所ノ裁判所ニシテ 天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ司法權ヲ行フモノ
 トス (昭和二、九、七)

昭
二
一四
三〇七

裁判所構成法

第三百三十五條

○朝鮮總督府裁判所令第一條ニ朝鮮總督府裁判所ハ朝鮮總督ニ直屬シ云々ト規定セルハ裁判所構成法第三百三十五條ニ司法行政監督權ノ施行ニ關シ「司法大臣ハ各裁判所ヲ監督ス」ト規定シアルニ對應スルモノニシテ其ノ旨意ハ朝鮮總督府裁判所ハ司法行政ノ監督上朝鮮總督ニ直屬ストノ義ニ他ナラス司法權ノ行使ニ關シテハ朝鮮總督府裁判所亦憲法ニ謂フ所ノ裁判所ニシテ 天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ司法權ヲ行フモノトス (昭和二、九、七)

朝鮮不動産登記令

○朝鮮不動産登記令ニ依ル登記ト朝鮮不動産證明令ニ依ル證明トハ其内容ニ於テ同一ノ點アルモ其形式ニ於テ二者全ク異リ同視スルヲ得サルモノトス (大正六、一二、二八)

附 則

第七條

○朝鮮不動産登記令第七條ノ趣旨タルヤ證明令ニ依ル證明ニ付スルニ登記ノ效力ヲ以テシタルニ過キスシテ之ヲ以テ登記證明ノ二者全然同一

ニ看做スノ法意ナリト解スヘキモノニ非ス (大正六、一二、二八)

第八條

○朝鮮不動産登記令第八條ニ依リ證明簿上ノ或不動産ニ關スル記載事項カ登記簿上ニ移記セラレタル場合ニ於テモ其内容ニ於テ同一ノ點アリト云フニ過キスシテ移記以前ニ於ケル證明ト移記以後ニ於ケル登記トハ其形式ヲ異ニスル別個ノ事物ニシテ同一ニ論スルヲ得サルモノトス (大正六、一二、二八)

○朝鮮不動産登記令施行前朝鮮不動産證明令ニ依リ爲シタル證明ハ朝鮮不動産登記令ニ依リ爲シタル登記ト看做サルヘキコト同登記令第七條ノ規定スル所ニシテ之ヲ登記簿ニ移記スル手續ハ同登記令第八條ノ規定スル所ナレハ證明ニ牴觸スル登記ハ同登記令第八條ノ二ニ規定スル假登記ノ方法ニ依ル外之ヲ許ササルモノニシテ縱令證明ニ係ル權利カ事實ニ符合セサル不適法ノモノナリトスルモ將又大正三年制令第十六號ニ所謂査定又ハ裁決ヲ經テ確定シタル所有權ニ牴觸スルモノトシテ抹消セラレヘキモノトスルモ其實質上ノ效力如何ニ拘ラス其未タ抹消セラレサル間ハ之ト牴觸スル本登記ハ朝鮮不動産登記令及其依據スル不動産登記法ノ解釋上常ニ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス (大正一〇、

一一、一八)

○査定ト證明トカ形式上牴觸セルカ故ニ大正三年制令第十六號ニ依リ證明ヲ抹消シ査定名義人ノ所有權保存登記ヲ爲シタル場合ニ於テモ査定名義人ノ所有申告後査定前ニ所有權カ證明簿上ノ所有名義人ニ移轉シタルモノニシテ實體上査定ト證明トノ間ニ牴觸ナキトキハ其ノ保存登記ヲ抹消シ抹消セラレタル證明ノ回復ヲ請求シ得サルヘカラス (大正一五、三、一一)

○之カ回復ハ朝鮮不動産登記令第八條ニ依リ登記簿ニ回復スヘキ抹消證明ヲ轉載シ回復登記ヲ爲スヘキモノトス (大正一五、三、一一)

不動産登記法

第一章 總則

○不動産ニ付債務者ノ處分行爲ヲ禁止スル假處分命令ノ登記アリタルトキハ爾後ニ於ケル該禁止ニ反スル處分行爲ハ假處分權利者ニ對シテ無効ナリ (大正一一、一、一七)

○處分行爲タル不動産物權ノ移轉ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得セシムル爲登記ヲ爲スハ處分行爲ヲ完成スルモノニ外ナラス (大正一一、一、一七)

○如上ノ登記行爲ハ假處分ノ效力ニ對スル關係ニ於テハ處分行爲ト同一視スヘキモノニシテ其登記ハ假處分權利者ニ對シテハ無効ナリ (大正一一、一、一七)

○不動産ニ付債務者ノ處分行爲ヲ禁止スル旨ノ假處分命令ノ登記アリタルトキハ爾後ニ於ケル該禁止ニ反スル處分行爲ハ假處分權利者ニ對シ無効ナリ而シテ不動産物權ノ得喪變更ハ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルニ依リ處分行爲タル不動産物權ノ移轉ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得セシムル爲登記ヲ爲スハ處分行爲ヲ完成スルモノニ外ナラス從テ斯ノ如キ登記行爲ハ假處分權利者ニ對スル關係ニ於テハ處分行爲ト看做スヘキモノナルカ故ニ該登記ハ假處分權利者ニ對シテハ無効ナリトス (大正一一、三、一三)

○時効ニ因ル不動産物件ノ取得ハ之ヲ登記スルニ非サレハ第三者ニ對抗スルヲ得サルモノトス (昭和三、六、九)

第一條

○林野調査令ニ依リ調査中ニ係ル林野ノ賣買ニ付テモ普通ノ不動産賣買ニ於ケルト同様特約ナキモ賣買契約上當然ノ義務トシテ賣主ハ所有權移轉登記義務ヲ負擔スルモノトス (大正一三、八、五)

大 一〇 八 四三〇

大 一五 一三 三二

大 一五 一三 三二

大 二 九 一

大 二 九 一

大 二 九 一

大 三 一〇 六〇

昭 三 一五 一八〇

大 三 二 一五六

第三條

○豫告登記ハ登記原因ノ無効又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ受訴裁判所カ職權ヲ以テ之カ登記ヲ囑託スルモノニシテ其ノ登記ニ因リ訴ノ提起アリタルコトヲ第三者ニ豫告シ專ラ係争不動産ニ付物權ノ得喪變更ニ關スル法律行為ヲ爲サントスル善意ノ第三者ヲ保護セントスルニ在リ而シテ豫告登記ハ一ノ公示方法ナルカ故ニ豫告登記アリタル以後ニ於テ係争不動産ニ付法律行為ヲ爲シタル第三者ハ豫告登記ノ存スル事實ヲ知リテ法律行為ヲ爲シタリトノ推定ヲ受クヘク訴訟ノ結果ニ依リ不利益ナル影響ヲ受クヘキ場合アルハ當然ナリト雖之カ爲ニ豫告登記ノ原因タル訴訟ニ於ケル登記ノ無効又ハ取消ノ内容ヲモ知レルモノトノ推定ヲ受クヘキモノニ非ス (大正一三、五、一六)

大 一三 一一 一一

第三章 登記ニ關スル帳簿

○登記所カ所有權保存登記ヲ抹消シタルトキハ登記所ハ不動産登記法第十一條ノ趣旨ニ則リ之ヲ土地臺帳所管應ニ通知スヘク其ノ通知ヲ受ケタル土地臺帳所管應ハ土地臺帳規則第二條ノ趣旨ニ則リ土地臺帳ヲ整

理スヘキモノトス (大正一〇、六、三)

第四章 登記手續

第一節 通 則

- 假差押ノ登記アル不動産ノ所有權保存登記更正ノ場合ニ於テ假差押債權者ハ登記上利害關係ヲ有スル第三者ナリトス (大正五、六、一六)
- 登記官吏カ不動産登記法第六十三條及同條ノ二ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲スヘキ場合ハ事件カ元來登記スヘキモノナリシコトヲ要シ若シ事件カ登記スヘキモノニアラサリシトキハ同法第四百九條ノ二乃至五ノ規定ニ從ヒ登記ヲ抹消スヘキモノトス (大正五、六、一六)
- 當事者間ニ於テ賣買以外ノ原因ニ基ク所有權移轉ノ效果ヲ生スル法律行為アリタル場合ニ之カ登記ヲ爲スニ當リ賣買ヲ以テ登記原因ト爲スモ苟モ適法ノ手續ヲ經テ登記ヲ爲シタル以上ハ右登記ヲ無効ナリト云フヲ得ス (大正七、三、五)
- 甲丙間ノ所有權移轉證明カ抹消セララルヘキ性質ノモノナリトスルモ其未タ之ヲ抹消セサル以上ハ同一不動産ニ付重ネテ乙丙間ノ所有權移轉登記ヲ爲シ得ヘキモノニアラス (大正七、九、一〇)

大	七	七	五	五	一〇
大	五	五	三	三	八
大	七	七	六	六	二〇
大	七	七	九	九	〇〇

○所有權移轉ノ假登記ヲ爲シタル不動産ニ付第三者カ所有權取得ノ本登記ヲ爲スモ假登記權利者カ登記義務者ヲシテ本登記ヲ爲サシムル實體上ノ權利ヲ有スル以上所有權取得ノ本登記ヲ爲シタル第三者ハ却テ假登記權利者ノ保全シタル權利ノ實行ヲ認容セサルヘカラサルモノニシテ本登記ヲ爲シタル所以ヲ以テ其權利ヲ假登記權利者ニ對抗シ假登記ノ抹消ヲ請求シ得ヘキモノニ非ス (大正八、三、一一)

○所有權移轉ノ登記方法ニ關スル契約ハ基本タル所有權移轉契約ノ存在ヲ前提トシ之ニ從タル契約ニ外ナラサルヲ以テ基本タル契約カ解除セラルルトキハ其解除ノ效力ハ當然從タル契約ニモ及フヘキモノナレハ縱令其從タル契約ニ第三者ノ加入シタルトキト雖特ニ其者ノ同意ヲ求メ若ハ之ニ解除ノ意思表示ヲ爲スノ要ナク從タル契約ハ基本タル契約ト共ニ當然解除ニ歸スヘキモノトス (大正八、四、一五)

○不動産登記法ニ於ケル登記ノ抹消ハ單ニ登記原因ノ無効又ハ取消ノ場合ノミニ限ラルルコトナク土地買賣契約ノ解除ニ因リ土地所有權移轉ノ登記ヲ原狀ニ復スル場合ニ於テモ亦之ヲ許スヘキモノトス (大正八、四、一五)

○登記カ登記スヘカラサルモノナルトキト雖抹消セラルル迄ハ登記名義

大 八 六 八〇

大 八 六 三九

大 八 六 三〇

人ハ形式上其登記ノ利益ヲ有スルニ依リ登記若クハ證明ナクシテ其登記名義人ニ對抗スルコトヲ得サル取得者ハ之カ登記ノ抹消ヲ請求スルヲ得ス (大正八、四、二二)

○甲乙共有ノ不動産ニ付甲ハ自己單獨名義ノ所有權ノ登記又ハ證明アルニ乘シ自己ノ單獨所有權ヲ主張スル場合ニ於テ乙カ登記簿上自己ノ共有權ヲ確定センカ爲メニハ不動産登記令ノ規定ニ從ヒ權利更正登記ノ手續ニ依リ甲乙ヲ共有者トシテ更正登記手續ヲ爲サシムル如キ一方法タルヲ失ハスト雖必スシモ此方法ニ依ルヲ要スルモノニ非ス乙ハ先ツ甲ヲシテ其所有權登記抹消ノ手續ヲ爲サシメ然ル後係争地ニ關スル甲乙共有關係ノ登記手續ヲ求ムルノ舉ニ出ツルモ敢テ不法ナリト爲スヘキモノニ非ス (大正九、六、二二)

○土地買賣契約ヲ解除シタル場合ニ於テ現ニ登記簿上ニ存スル所有權移轉登記ニ關シ之ヲ原狀ニ復セシムルカ爲メニハ必スシモ抹消登記ニ因リ現在ノ所有者名義ノ登記ヲ抹消シテ原所有者名義ノ登記ニ復セシムル方法ノミヲ以テ適法ト爲ササルヘカラサルモノニ非ス登記簿上ノ所有名義人ナル回復義務者ヲシテ更ニ回復權利者ニ對シ所有權移轉ノ登記手續ヲ爲サシメ之ニ因リテ原狀ニ復セシムルコトヲ得ヘキモノト

大 八 六 二六九

大 九 七 二七二

爲スヲ妥當トス (大正一〇、二、八)

○被相続人ニ於テ其所有地所ヲ他人ニ賣却シ其所有權カ買主ニ移轉シタルトキハ家督相續人ハ相續ニ因リ其所有權ヲ取得スヘキ理由ナク從テ家督相續人カ更ニ之ヲ他人ニ賣渡スモ此者ハ所有權ヲ取得スル能ハス縱令形式上所有權移轉登記手續ヲ經ルモ其登記ハ無効原因ニ因リ抹消セラルヘキモノトス (大正一〇、三、一八)

○斯カル場合ニ家督相續人カ前記ノ買主ニ對シテ負擔スル所有權移轉登記手續履行ノ義務ハ履行不能ニ歸シタルモノト謂フヲ得ス後ノ買主ニ賣戻ノ意思アルト否トハ玆ニ之ヲ問フノ要ナシ (大正一〇、三、一八)

○賣買以外ノ契約ニ因リ一定ノ日ニ土地所有權ノ移轉アリタル場合ニ於テ當事者合意上之ト異ル日附アル賣買契約書ヲ作り登記原因ヲ證スル書面トシ之ニ基キ所有權移轉登記ヲ受クルモ新登記名義人カ眞實所有權ノ取得者タル以上ハ斯ル登記ト雖目的タル土地ニ關スル現在ノ眞實ナル權利狀態ヲ公示シ登記ノ目的ヲ達スルニ適合スルカ故ニ之ヲ有効ノモノト謂フヲ妨ケス (大正一〇、五、一〇)

○不動産ノ賣主カ買主ニ對シテ不動産ノ完全ナル所有權ヲ移轉セントスルニハ買主ヲシテ第三者ニ對シ其權利ノ取得ヲ對抗スルコトヲ得セシ

大 一〇 八 二四

大 〇 八 七

大 〇 八 七

大 一〇 八 二九

メサルヘカラサレハ賣主カ不動産ノ所有權移轉登記手續ヲ履行スルコトハ賣買ニ基ク賣主ノ義務ト稱スルヲ妨ケス (大正一〇、六、一七)

○所有權移轉ノ假登記アリタル後假登記義務者タル登記名義人カ第三者ニ對シ所有權移轉ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記簿上ノ登記名義人ニ變更ヲ生スルヲ以テ假登記權利者カ假登記ニ對スル本登記ヲ爲サントスルニハ所有權移轉ノ本登記ヲ爲シタル第三者ニ對シ該本登記ノ抹消ヲ求メ登記簿上ノ名義人ヲ假登記義務者ノ名義ニ回復セシメ然ル後假登記義務者ヨリ所有權移轉ノ本登記ヲ受クヘキモノニシテ第三者ノ所有權移轉ノ本登記アルニ拘ラス假登記權利者カ假登記義務者ヨリ直接所有權移轉ノ本登記ヲ受クルハ現在登記簿上登記名義人ニ非サル者ヨリ所有權移轉ノ登記ヲ受クルコトトナリ明ニ登記法第四十九條第六號ノ場合ニ該當スヘケレハ斯ル登記ノ申請ハ同條ニ依リ却下セサルヘカラス (大正一〇、八、二六)

○朝鮮不動産登記令施行前朝鮮不動産證明令ニ依リ爲シタル證明ハ朝鮮不動産登記令ニ依リ爲シタル登記ト看做サルヘキコト同登記令第七條ノ規定スル所ニシテ之ヲ登記簿ニ移記スル手續ハ同登記令第八條ノ規定スル所ナレハ證明ニ牴觸スル登記ハ同登記令第八條ノ二ニ規定スル

大 一〇 八 二三

大 一〇 八 二三

假登記ノ方法ニ依ル外之ヲ許ササルモノニシテ縱令證明ニ係ル權利カ事實ニ符合セサル不適法ノモノナリトスルモ將又大正三年制令第十六號ニ所謂査定又ハ裁決ヲ經テ確定シタル所有權ニ牴觸スルモノトシテ抹消セラルヘキモノトスルモ其實質上ノ效力如何ニ拘ラス其未タ抹消セラレサル間ハ之ト牴觸スル本登記ハ朝鮮不動産登記令及其依據スル不動産登記法ノ解釋上常ニ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス (大正一〇、一一、一八)

○登記手續ヲ爲ス義務ハ登記ノ完了ニ依リテ遂行セラルルモノナルヲ以テ判決主文ニ於テ登記手續履行ト同時ニ代金支拂ヲ爲スヘキコトヲ宣言シタルトキハ登記完了ト同時ニ代金ヲ支拂フヘキコトヲ命シタルモノトス (大正一〇、一一、一三)

○所有權移轉登記ニ付確定期限ヲ附セスシテ相續登記完了後ニ履行スヘキコトヲ約シタルトキハ特ニ相續登記ニ付確定期限ヲ附セサル以上ハ其相續登記ハ移轉登記ノ必須ノ前提行爲ニ過キサルモノナレハ其移轉登記ニ付テハ履行期限ノ定ナキモノト爲シ何時ニテモ之カ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス (大正一一、一、一七)

○同一不動産ニ付數次ノ所有權移轉登記アリテ登記名義人ニ非サル土地

二〇	八四三〇
二〇	八五九
二	九四

所有者カ其登記原因ノ無効ヲ主張シ該登記ノ抹消ヲ請求スル場合ニ於テ自己ノ所有權ヲ害スヘキ登記ハ現ニ其效力ヲ有スルト否トニ論ナク其各登記名義人ニ對シ抹消ヲ請求スルヲ得ヘキモノナレハ各登記名義人ハ抹消ニ付テノ登記義務者ナリトス (大正一一、三、二四)

○如上ノ場合ニ於テ所有者ハ總テノ登記義務者ニ對シ同時ニ若クハ各別ニ移轉登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得ヘシ (大一一、三、二四)

○甲ヨリ土地ノ遺贈ヲ受ケタル乙ハ甲ノ死亡ニ因リ當然其所有權ヲ取得スヘキモノナルヲ以テ縱令甲ノ相續人丙カ相續ニ因リ其所有權ヲ取得シタリトシテ之ヲ丁ニ賣渡シ丙丁間ニ其所有權移轉ノ登記ヲ爲シタリトスルモ元來登記原因ヲ缺如セル無効ノ登記ナルヲ以テ乙ハ丁ニ對シ其登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得サルヘカラス (大正一一、一〇、一〇)

○未登記ノ土地ヲ他人ニ贈與シタル者カ其所有權移轉登記ヲ爲スニ至ラスシテ死亡シタル場合ニ於テ(一)受贈者カ其所有權移轉登記ヲ受ケントスルニ當リ既ニ相續人カ相續ニ因リ其所有權ヲ承繼シタリトシ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲シ居ルトキハ受贈者ハ相續人ニ對シ其保存登記ノ抹消ヲ請求スヘキモノニ非スシテ却テ之ヲ尊重シ以テ直チニ所有權移轉登記手續ヲ爲スヘク請求スヘキモノトス(二)受贈者カ其所有

二	三九二
二	一〇
二	一〇

○ 權移轉登記ヲ受クルコトヲ要セサルモノトシ單ニ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲サントスルニ當リ既ニ相續人カ相續ニ因リ其所有權ヲ承繼シタリトシ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲シ居ルトキハ受贈者ハ相續人ニ對シ其保存登記ノ抹消ヲ請求シ其抹消セラレタル後相續人ニ對スル判決ニ因リ自己ノ所有權ヲ證シテ保存登記ヲ申請スヘキモノトス (大正一一、一一、八)

○ 如上二ツノ方法中其何レヲ選擇スヘキヤハ固ヨリ受贈者ノ隨意ナレトモ(一)ノ方法ハ所有權移轉ノ關係ヲ登記簿上明白ニスルコトヲ得ルノミナラス其移轉ノ事實ニ付對抗力ヲ生スルヲ以テ受領者ハ(二)ノ方法ニ依ルヨリモ(一)ノ方法ヲ採ルヲ通例トス (大正一一、一一、八)

○ 如上ノ場合ニ於テ受贈者ヨリ更ニ該土地ノ所有權ヲ取得シタル者カ受贈者ニ對シ其所有權移轉登記手續ヲ訴求シタル以上ハ其訴訟ニ於テ該取得者ヨリ相續人ニ對シテ爲シタル保存登記抹消ノ請求ハ之ヲ棄却セサルヘカラス (大正一一、一一、八)

○ 登記申請ニ際シ登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證又ハ登記義務者ノ人違ナキコトノ保證書ヲ提出セシムル所以ハ登記義務者トシテ申請ヲ爲ス者カ真正ノ本人ナリヤ否ヤヲ確認シ真正ノ本人ニ非サル者カ登記

二
九
四五二

二
九
四五二

二
九
四五三

省略登記

義務者トシテ登記申請ヲ爲スノ不正行爲ヲ防止シ以テ登記ノ正確ヲ期スルニ在リ左レハ右保證書ハ登記義務者タルヘキ者カ登記簿上ノ登記名義人ナルコトヲ證明スルヲ以テ足レリトセス登記義務者トシテ登記申請ヲ爲ス者カ真正ノ本人ナルコトヲ證明スルモノナルコトヲ要ス (大正一一、四、六)

○ 甲者ヨリ乙者ニ乙者ヨリ丙者ニ所有權ヲ移轉シ何レモ登記ヲ經サル場合ニ當事者協議ノ上甲者ヨリ直接丙者ニ所有權移轉ノ登記ヲ爲スヲ妨ケス (大正七、三、五)

○ 數人カ順次ニ不動産ノ所有權ヲ移轉シ何レモ登記ヲ經サル場合ニ當事者協議上最初ノ讓渡人ヨリ直接ニ最後ノ讓受人ニ所有權移轉ノ登記ヲナスコトヲ得 (大正八、六、二六)

○ 不動産ノ所有者カ其所有權ヲ他人ニ移轉シタルトキハ其移轉ヲ受ケタル者ニ對シ所有權移轉登記ヲ爲ス義務アリ斯ル登記義務ノ生スル理由ハ其所有權ヲ直接若クハ間接ニ承繼シタル現在ノ所有者ヲシテ登記名義人タルヲ得セシメ以テ其權利ノ效力ヲ充實スルコトヲ得セシムル必要ニ基因スルモノナレハ所有權ノ移轉カ多數人間ニ連續シテ行ハレタル場合ニ於テ現在ノ所有者ハ其前主ニ對シ其移轉登記ヲ請求セサル狀

三
一〇
九〇

七
五
一三七

八
六
四八六

況ニ在ルトキハ中間ノ當事者ハ各其前主ニ對シ登記ヲ要求スル要ナキヲ以テ斯ル場合ニハ其前主ニ對シ登記請求ヲ爲スコトヲ得ス從テ其前主ハ登記義務履行ヲ拒絶スルコトヲ得ルモノトス (大正八、八、二六)

○甲者ヨリ乙者ニ乙者ヨリ丙者ニ所有權ヲ移轉シ何レモ登記ヲ經サル場合ニ當事者合意上甲者ヨリ直接丙者ニ所有權移轉ノ登記ヲ爲スヲ妨ケス何トナレハ斯ル登記ハ新名義人カ所有權ヲ取得シタル事實ニ符合スルニ因リ之ヲ公示スル效用アリト爲スハ登記ノ目的ニ背反スル所ナケレハナリ (大正一〇、五、一〇)

○土地所有權カ甲ヨリ順次乙、丙ニ移轉シタル場合ニ當事者ニ於テ便宜中間ノ登記ヲ省略シ前所有者タル甲ヨリ直チニ丙ニ所有權移轉登記ヲ爲スモ其登記ハ有效ニシテ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルヲ得ヘシ (大正一〇、六、三)

○右ノ場合ニ直接前主タル乙ノ干與ナク唯甲丙兩者間ノ協議ヲ以テ移轉登記ヲ爲スモ該登記ハ事實ニ吻合セサルヲ以テ無効ナリトス (大正一〇、六、三)

○數人カ順次ニ不動産所有權ヲ移轉シ何レモ登記ヲ經サル場合ニ於テ當事者協議上最初ノ讓渡人ヨリ直接ニ最後ノ讓受人ニ所有權移轉ノ登記

八	六	四	六
一〇	八	一	〇
一〇	八	一	〇
一〇	八	一	〇

ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス (大正一一、二、三)

○甲乙丙間ニ順次ニ不動産ノ所有權ヲ移轉シタル場合ニ之等累次ノ所有權移轉登記ニ付關係者協議ノ上直接丙ヨリ其手續履行ヲ爲スヘキコトヲ契約シタルトキハ反對ノ意思アリシト認メ得サル限り之ニ依リテ乙ハ當然其登記義務ヲ免ルル約旨ナリシト解スヘキニ非スシテ甲ノ丙ニ對スル登記手續ノ履行完了ヲ俟テ乙ノ登記義務消滅スト爲ス約旨ナリト解釋スルヲ相當トス (大正一一、九、二九)

○數人ノ間ニ順次賣買アリタル場合ニ於テ當初ノ賣主ナル登記名義人ヨリ最後ノ買主ニ對シテ直接ニ所有權移轉ノ登記ヲ爲シ中間ニ於ケル移轉登記ヲ省略スルモ其登記ヲ以テ有效ト爲スハ其各賣買當事者全員カ合意ノ上之ヲ爲シタルトキニ限ル故ニ其合意ナクシテ爲シタル省略登記ハ之ヲ無効トスヘク從テ其合意ナキ場合ニ於テ當事者ノ一方ハ他ノ一方ニ對シテ省略登記ヲ強要スルコトヲ得サルモノトス (大正一一、三、二四)

○同一ノ不動産ニ付數次ノ所有權移轉登記アリテ原所有者カ登記原因ノ無効ヲ主張シテ最後ノ所有權移轉登記ノ抹消ヲ請求スル場合ニ於テハ現在ノ登記名義人即該登記ノ登記權利者カ抹消登記ノ登記義務者ト爲

二	九	二
二	九	二
二	九	二
二	九	二

ルヘキモノニシテ該登記ノ登記義務者ハ抹消登記ノ登記義務者ニ非サルカ故ニ現在ノ登記名義人ヲ被告トシテ訴求スヘキモノニシテ該登記ノ登記義務者ヲ共同被告トシテ訴求スヘキモノニ非ス (大正一一、六、九)

○數人カ順次不動産ノ所有權ヲ移轉シ何レモ未タ登記ヲ經由セサル場合ニ於テ當事者協議ノ上最初ノ讓渡人ヨリ直接最後ノ讓受人ニ所有權移轉登記ヲ爲スヘキ旨ノ契約ヲ締結シタルトキ該契約ハ有效ナリトス蓋シ斯ル登記ハ新名義人カ所有權ヲ取得シタル事實ニ符合スルニ因リ之ヲ公示スル效用アリト爲スハ登記ノ目的ニ背反スル所ナケレハナリ (大正一一、一、三〇)

○中間省略登記ヲ爲スヘキコトヲ約スルハ順次賣買ヲ爲シタル當事者間ニ順次其登記ヲ經由スルコトノ煩累ヲ避クル目的ニ出ツルモノナルヲ以テ最後ノ讓受人ハ先ツ中間省略登記ヲ請求スヘク若シ最初ノ讓渡人ニ於テ其義務ヲ履行セサルトキニ初メテ賣買ノ順序ニ從ヒ順次登記ヲ爲スヘキコトヲ請求シ得ヘキ約旨ト解スルハ當事者ノ意思ニ合致スルモノトス (大正一一、一、三〇)

○中間省略登記ハ登記法上許サレタル登記ニシテ毫モ不實ノ登記ト目スルコトヲ得サルノミナラス刑法第五百七十七條ノ犯罪ヲ構成スルモノニ

二	二	二
九	一〇	一〇
一九七	五	五

非ス (大正一一、一、三〇)

○登記官吏ハ登記申請アリタル場合ニ不動産所有者ニ提出スル書面ニ押捺シアル印影ト印鑑中ノ同人ノ印影トヲ對照シ同一ナリト認メタルトキニ非サレハ之ヲ受理スルコトヲ得ス (大正一一、七、一三)

○從テ登記官吏ハ右印影ト印鑑トノ對照ヲ爲シ其ノ異同ヲ鑑別スルノ義務アリ然レトモ鑑別スヘキ注意ノ程度ニ付テハ登記法上何等ノ規定ナキカ故ニ登記官吏トシテ相當ナル智識經驗アル者ノ普通用フル程度ノ注意ヲ爲スヘキ義務アルモノト解スヘク又其ノ程度ノ注意ヲ以テ足り夫以上ニ特別ノ注意ヲ爲ササルヘカラサルノ義務ナシ (大正一一、七、一三)

第二十七條

○裁判上ノ和解ニ因ル登記ハ判決ニ因ル登記ニ準シ不動産登記法第二十七條ニ依リ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス (大正一五、一〇、二九)

○判決ニ因ル登記ヲ登記義務者ノミ出頭シテ申請スルコトハ不動産登記法ノ許ササル所ナリトス (昭和二、五、六)

○判決ニ因ル登記ヲ登記義務者ノミ出頭シテ申請シタルトキハ同法第四

三	三	三
一〇	一〇	一〇
六	三三	三三

十九條第三號ノ場合ニ該當スルモノト解スルヲ相當トシ受理スヘカラサルモノナレトモ一旦其ノ登記完了シタル後ハ最早職權ヲ以テ之ヲ抹消スルコトヲ得サルモノトス (昭和二、五、六)

第三十六條

○不動産ニ關スル登記義務者ニ登記手續ヲ命スル判決ハ登記手續上登記原因ヲ證明スル書面ニ該當スルモノナレハ其主文ニ登記原因ヲ明記スルコトヲ要ス (昭和三、一、一七)

第四十九條

○判決ニ因ル登記ヲ登記義務者ノミ出頭シテ申請シタルトキハ同法第四十九條第三號ノ場合ニ該當スルモノト解スルヲ相當トシ受理スヘカラサルモノナレトモ一旦其ノ登記完了シタル後ハ最早職權ヲ以テ之ヲ抹消スルコトヲ得サルモノトス (昭和二、五、六)

○登記申請書ニ添附スヘキ判決ノ確定證明書ヲ缺クトキハ不動産登記法第四十九條第八號ニ該當シ同條第二號ニ該當スルモノニ非ス從テ同法第四百十九條ノ二ニ依リ登記官吏カ職權ヲ以テ抹消スヘキ場合ニ該當セス (昭和二、五、七)

○登記申請人ハ土地所有名義者甲ノ七代ノ孫タル旨ノ面長ノ證明書ハ相續ヲ證明スル書面トシテ適法ノモノニ非ス (昭和四、一、二五)

○不動産登記法第四十九條第一號及第二號ノ場合ヲ除クノ外ハ登記官吏カ一旦登記手續ヲ完了シタル後ハ其ノ登記ニ對スル抗告ノ方法ニ依リテ登記ノ抹消ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス (昭和四、六、一五)

第六十條

○登記官吏カ不動産登記法第六十條ニ依リ登記ノ完了後登記原因ヲ證スル書面ニ登記濟ナル旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ作成スル登記濟證明書ハ公文書ニシテ該登記原因ヲ證スル書面中ノ記載ヲモ其ノ内容トスルコト勿論ナリト雖其ノ内容ヲ成スハ該書面ノ記載中當該登記ニ關スル登記簿ノ記載ニ該當スルモノノミニ限ルモノトス (昭和三、一一、一三)

第二節 所有權ニ關スル登記手續

○乙カ甲名義ノ所有土地ニ付贈與證書ヲ偽造シ所有權移轉登記ヲ爲シタル場合ニ甲カ自己ノ所有權登記ヲ回復スルニハ抹消登記ノ方法ニ依ルヘク移轉登記ノ方法ニ依ルヘキモノニ非ス (大正一三、四、二二)

第七十八條

○共有不動産ヲ共有者ノ一人ニ信託讓渡シ其ノ所有トシテ査定確定シ所有權保存登記ヲ爲シタル場合ニ信託讓渡ヲ解除シタル爲ニ之ヲ共有者

昭 二 二四 一五〇

昭 三 一六 三六

昭 二 二四 一五〇

昭 二 二四 一六二

昭 四 一六 一

昭 四 一六 一四〇

昭 三 刑 二五 四二

大 三 二 七六

ノ共有名義トナスニハ不動産登記法第七十八條ノ所有權ノ一部移轉登記ノ手續ニ依ルコトヲ要シ更正登記ニ依ルヘキモノニアラス (大正一四、一一、一〇)

第三節 所有權以外ノ權利ニ關スル登記手續
第一百十二條

○小作料ハ永小作權設定ニ缺クヘカラサル要件ヲ爲スモノナルニ依リ永小作權設定登記ヲ爲スニ當リテハ申請書ニ小作料ヲ記載スルコトヲ要ス (大正一三、四、一一)

○登記義務者ニ對スル登記手續ヲ命スル判決ハ登記手續ヲ爲スヘキ意思表示ニ代ハルヘキ判決ナルカ故ニ永小作權設定ノ登記手續ヲ命スル判決ハ理由ニ於テ小作料ノ額ヲ確定シ是ヲ主文ニ明示スルコトヲ要ス (大正一三、四、一一)

第二百二十七條

○不動産ノ賃貸借ハ之ヲ登記スヘキ特約アルニ非サレハ賃借人ハ登記ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス (大正一四、一一、二二)

第四節 抹消ニ關スル登記手續

○抵當權設定登記アル不動産カ第三者ニ讓渡サレタル後抵當權ノ消滅シ

大	一四	三	六〇
大	一三	二	六〇
大	一四	三	五〇八

○タル場合ニ於テハ抵當權者ニ對スル該登記ノ抹消請求權バ現在ノ所有者タル第三者ノミ之ヲ有シ設定者ハ之ヲ有セサルモノトス (大正一一、九、四)

○乙カ甲名義ノ所有土地ニ付贈與證書ヲ偽造シ所有權移轉登記ヲ爲シタル場合ニ甲カ自己ノ所有權登記ヲ回復スルニハ抹消登記ノ方法ニ依ルヘク移轉登記ノ方法ニ依ルヘキモノニ非ス (大正一三、四、二二)

○不動産所有權保存登記ハ其カ眞實ニ適合セス若ハ所有者ノ申請ニ依ラサル等ノ事由ニ依リ初ヨリ無効ノモノナルトキニ限り之カ抹消ヲ申請スルコトヲ得ヘキモノトス (大正一四、一一、一七)

○不動産所有權ニ關スル信託的讓渡ヲ解除シタル場合ニ於テハ其ノ權利ノ回復ニ付移轉登記ヲ爲スコトヲ得ルモ既ニ受託者ノ名義ヲ以テ爲セラル當該權利取得ノ登記若ハ其ノ所有權保存登記ヲ抹消スルコトヲ得サルモノトス (大正一四、一一、一七)

○同一不動産ニ付數次ノ所有權移轉アリテ登記名義人ニ非サル土地所有者カ其ノ登記原因ノ無効ヲ主張シ抹消ヲ請求スル場合ニ於テハ自己ノ所有權ヲ害スヘキ登記ハ現ニ其ノ效力ヲ有スルト否トニ論ナク各登記名義人ニ對シ抹消ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノニシテ第二次以下ノ登

大	一四	三	六
大	一四	三	四〇
大	一四	三	四〇

記現存スルノ理由ヲ以テ第一次ノ抹消ハ不能ニ歸シタルモノナリト謂フヲ得ス (大正一五、一〇、二六)

第四百一十一條

○債權及之ヲ擔保スル抵當權ノ讓渡アリタル後債權カ时效ニ因リ消滅シタル場合ニ之ニ因ル抵當權ノ消滅ニ付爲スヘキ抵當權設定登記ノ抹消登記ハ抵當權消滅當時ニ於ケル登記上ノ抵當權者タル讓受人ヲ登記義務者トシテ之カ申請ヲ爲スヘキモノトス (昭和四、三、五)

第四百十六條

○不動産登記法第四百十六條ニ所謂第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判トハ登記上利害關係ヲ有スル第三者ヲ羈束スヘキ裁判ヲ指示スルモノナリトス (大正一三、四、三〇)

第四百十九條ノ二

○判決ニ因ル登記ヲ登記義務者ノミ出頭シテ申請シタルトキハ同法第四十九條第三號ノ場合ニ該當スルモノト稱スルヲ相當トシ受理スヘカラサルモノナレトモ一旦其ノ登記完了シタル後ハ最早職權ヲ以テ之ヲ抹消スルコトヲ得サルモノトス (昭和二、五、六)

○登記申請書ニ添附スヘキ判決ノ確定證明書ヲ缺クトキハ不動産登記法

大 一五
一三
三六

昭 四
二六
三六

大 三
二
八六

昭 二
二四
一五〇

第四十九條第八號ニ該當シ同條第二號ニ該當スルモノニ非ス從テ同法第四百十九條ノ二ニ依リ登記官吏カ職權ヲ以テ抹消スヘキ場合ニ該當セス (昭和二、五、七)

第五章 抗 告

第五百十條

○不動産登記法第五百十條ニ依リ抗告ヲ爲シ得ル者ハ登記官吏ノ當該處分ニ付キ登記上ノ利害關係ヲ有スルモノニ限ルモノトス (大正一一、一二、二一)

○不動産登記法第四十九條第一號及第二號ノ場合ヲ除クノ外ハ登記官吏カ一旦登記手續ヲ完了シタル後ハ其ノ登記ニ對スル抗告ノ方法ニ依リテ登記ノ抹消ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス (昭和四、六、一五)

第五百十八條

○登記官吏ノ決定ヲ不當ナリトスル抗告ニ付抗告裁判所カ爲シタル裁判ニ對シテハ不動産登記法第五十八條ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノナレトモ同條ニ所謂抗告裁判所ノ裁判トハ事件ノ本體ニ付爲シタル裁判ヲ指稱シ本件ニ付テノ處分ヲ前審ニ委任スル裁判ヲ包含セサルモノトス (大正九、一二、一七)

昭 二
二四
一六二

大 二
九
五九

昭 四
二六
一四〇

大 九
七
四七二

朝鮮不動産證明令

- 所有權取得ノ證明ヲ得タル土地及建物ニシテ其四標土地ノ種目建物ノ種類構造等實地ニ符合スルトキハ其地番坪數ニ多少ノ誤謬アリトスルモ其ノ證明ハ有效ニシテ對抗力ヲ有スルモノトス (大正四、一、二、二四)
- 所有權保存ノ證明若クハ登記ヲ經タル不動産ニ對シ再ヒ所有權保存ノ證明若クハ登記ヲ經タル場合ニ在テハ後ノ保存ノ證明若クハ登記ハ當然無効ナルヲ以テ從テ之ニ基キ爲シタル假差押命令及競賣申立ノ記入ハ勿論競落ニ因ル所有權取得ノ證明若クハ登記モ亦無効ナリトス (大正四、一、二、二四)
- 證明ノ抹消ハ證明名義人ニ對シテ請求スヘキモノナリ從テ賣主ヲ對手者トシテ請求シタルハ失當トス (大正五、八、一一)
- 朝鮮不動産登記令又ハ朝鮮不動産證明令ニ於テ登記又ハ證明ノ規定ヲ設ケタル權利ニ付テハ民法施行法第三十七條ノ適用上證明ハ之ヲ登記ト同一ナリト解スヘキモノトス (大正六、一、二三)
- 原告ノ申請ニ因ル假處分命令ノ執行上職權ヲ以テ爲サレタル被告名義ノ所有權保存證明ト雖原告ハ其假處分命令ノ存スル間ニ於テ被告ニ對シ之ヲ抹消請求ノ訴ヲ提起スルヲ得ルモノトス (大正六、三、一一三)
- 朝鮮民事令施行以前ニ不動産ノ所有權ヲ取得シタルモノハ朝鮮民事令施行後一年內ニ其所有權取得ノ證明(又ハ登記)ヲ受クルニ非ラサレハ民事令施行後一年ヲ經過シタル後ニ權利ヲ取得シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス (大正六、六、一九)
- 其所謂第三者トハ當事者若クハ其包括承繼人ニ非スシテ不動産ニ關スル物權ノ得喪及變更ノ證明(又ハ登記)ノ欠缺ヲ主張スルニ於テ正當ノ利益ヲ有スル者ヲ指稱ス (大正六、六、一九)

大	四	三	三	四	五	六	六	六
大	三	三	三	三	三	三	三	三
大	三	三	三	三	三	三	三	三
大	三	三	三	三	三	三	三	三
大	三	三	三	三	三	三	三	三
大	三	三	三	三	三	三	三	三
大	三	三	三	三	三	三	三	三
大	三	三	三	三	三	三	三	三
大	三	三	三	三	三	三	三	三
大	三	三	三	三	三	三	三	三

一九)

- 其第三者ノ證明有效ナルノ結果其以前ニ爲シタル所有權保存ノ證明ハ事實ニ符合セサルモ其效力ヲ保有スルニ至レルモノトス (大正六、六、一九)
- 土地家屋ニ關シ所有權保存證明ヲ受ケ居ルモノハ一應其所有者タルコトノ推定ヲ受クヘキモノナレトモ之ニ反對ナル事實證據アルニ於テハ其所有者タルコトヲ否定スルモ不法ニアラス (大正六、一〇、一六)
- 朝鮮不動産登記令ニ依ル登記ト朝鮮不動産證明令ニ依ル證明トハ其内容ニ於テ同一ノ點アルモ其形式ニ於テ二者全ク異ナリ同視スルヲ得サルモノトス (大正六、一、二、二八)
- 朝鮮不動産登記令第七條ノ趣旨タルヲ證明令ニ依ル證明ニ付スルニ登記ノ效力ヲ以テシタルニ過キスシテ之ヲ以テ登記證明ノ二者全然同一ニ看做スノ法意ナリト解スヘキモノニ非ス (大正六、一、二、二八)
- 朝鮮不動産登記令第八條ニ依リ證明簿上ノ或不動産ニ關スル記載事項カ登記簿上ニ移記セラレタル場合ニ於テモ其内容ニ於テ同一ノ點アリト云フニ過キスシテ移記以前ニ於ケル證明ト移記以後ニ於ケル登記トハ其形式ヲ異ニスル別個ノ事物ニシテ同一ニ論スルヲ得サルモノトス (大正六、一、二、二八)
- 證明官吏カ典當權設定ノ證明ヲ爲シ其設定ノ契約書ニ證明濟ノ旨ヲ記入シタルトキハ其記入ノ部分ハ官吏職務上ノ記載ニ係ルヲ以テ之ヲ公正ノ證書トシテ論スルヲ得ヘキモ此記入ノ爲メ其他ノ部分マテ公正ノ文書ニ變スルモノニ非ス從テ其契約書ノ成立ニ付爭ヒアルトキハ之ヲ提出シテ利益ヲ主張スル者ニ於テ其真正ニ成立シタルコトヲ舉證スルノ責アルモノトス (大正七、二、二六)
- 舊韓國土地家屋證明規則ニ依リ典當ノ證明ヲ經タルモノハ朝鮮不動産證明令第二十一條ニ

大	六	六	六	六	六	六	六	六
大	四	四	四	四	四	四	四	四
大	四	四	四	四	四	四	四	四
大	四	四	四	四	四	四	四	四
大	四	四	四	四	四	四	四	四
大	四	四	四	四	四	四	四	四
大	四	四	四	四	四	四	四	四
大	四	四	四	四	四	四	四	四
大	四	四	四	四	四	四	四	四
大	四	四	四	四	四	四	四	四

- 所謂未證明ノ不動産ニ非スシテ既證明ノ不動産ナリトス (大正七、三、五)
- 舊證明規則ニ依リ既ニ典當證明ヲ經テ新證明令施行後ニ涉リテ存続スルモノニ對シ新證明令第四十條ヲ適用スルニ當リテ舊證明規則ニ依リ爲シタル典當證明中ニハ自ラ所有權保存證明ヲモ包含スルモノト解スヘキモノトス (大正七、三、五)
- 舊證明規則ニ基キ典當證明ヲ經タル土地ニ對シ新證明令施行後更ニ證明ヲ爲スヘキ事由ノ生シタル場合ニハ新タニ保存證明ヲ爲スヘキモノニ非スシテ先ツ新證明令第四十五條ノ規定ニ從ヒ舊證明簿ヨリ新證明簿ニ移記ノ手續ヲ終了シタル後新證明事項ノ記入ヲ爲スヘキモノトス (大正七、三、五)
- 證明官吏ニシテ舊證明ノ存続スルコトヲ知ラスシテ同一土地ニ付新ニ保存證明ヲ爲シタルトキハ其保存證明ノ無効ナルハ勿論之ニ基ク爾後ノ所有權移轉ノ證明又ハ登記モ總テ無効ナリ (大正七、三、五)
- 他人所有ノ土地ニ對シ何等相當ノ原因ナクシテ保存證明ヲ爲シタルモノカ更ニ之ヲ他ニ移轉シ移轉證明ヲ受ケタルカ如キ場合ニ於テハ二個ノ證明ハ何レモ無効ニシテ土地ノ所有者ハ保存證明ヲ爲シタル者及移轉證明ヲ受ケタル者ニ對シ各個獨立ノ抹消請求ヲ爲スヲ得ヘク訴訟法上其請求ヲ禁スヘキ理由ナシ (大正七、四、九)
- 登記ト證明トハ全然別個ノ事物ナルヲ以テ證明ノ手續ノ履行ヲ求ムル訴ヲ登記手續ノ履行ヲ求ムル訴ニ改ムルハ目的物ノ變更ニ依ル訴ノ變更ナリ (大正七、五、二四)
- 證明手續ノ履行ヲ求ムル請求訴訟進行中朝鮮不動産登記令施行セラレ證明手續ノ履行不能トナリタル場合ニ於テモ證明手續ノ履行請求訴訟ヲ登記手續ノ履行請求訴訟ニ改ムルハ訴ノ變更ニアラストスヘキ理由ナシ (大正七、五、二四)
- 所有權移轉證明手續ヲ爲スヘキ義務アルモノカ既ニ其證明手續ヲ爲シタル以上ハ自ラ進ムテ權利者タル者ニ對シ其手續ニ瑕疵アルコトヲ主張シテ之カ抹消手續ヲ請求スル權利ナキモノトス (大正七、八、一六)

大	七	七	七	七	七	七
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四

- 所有者甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ順次不動産ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者ノ特約ニ依リ甲ヨリ直接丙ニ不動産ヲ讓渡シタル旨ノ所有權移轉證明ヲ爲スハ不法ニアラス (大正七、九、一〇)
- 土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人トナルモ典當權ノ對抗ヲ受クヘキモノナルトキハ其當然ノ結果トシテ典當權ノ實行ニ因リ競落人ノ取得シタル所有權ノ證明ニ對シ大正三年五月制令第十六號ニ依リ査定名義人ノ權利ニ牴觸スルモノトシテ其證明ヲ抹消セシムルノ權利ナシ (大正八、五、六)
- 甲カ乙ニ其所有ニ係ル不動産ヲ賣却シ其義務ノ履行トシテ甲カ其父ノ賣主名義ヲ以テ所有權移轉證明ヲ爲シタルトキハ縱令其父カ證明當時死亡シ所有權移轉證明無効ナリトスルモ證明義務者タル甲ハ同權利者タル乙ニ對シ該證明ノ無効ヲ主張シ證明抹消履行手續ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノトス (大正八、一、二、六)

大	七	七	七	七	七	七
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四

土地調査令

- 聽訟期限ノ規定ハ實體上ノ權利ノ得喪ニ關スル規定ニ非スシテ訴權ノ消滅ニ關スル訴訟法上ノ規定ナルニ依リ墳墓堀移ノ訴ハ聽訟期限ノ經過ニ依リ許スヘキモノニ非スト解スルモ査定ト牴觸スルモノニ非ス (昭和二、一、八)
- 査定ハ其ノ公告ノトキニ於テ時効中斷ノ效力ヲ生ス査定公告ノトキニ於テ未タ取得時効ノ完成セサル所有權ニ付テハ其ノ確定後新ニ全時効期間ヲ經過スルニ非レハ權利ヲ取得セス (昭和二、四、一六)
- 信託ニ因リ公簿上土地所有名義ヲ有スル者カ其ノ名ヲ以テ土地調査令

大	七	七	七	七	七	七
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四
大	五	五	五	五	五	五
大	四	四	四	四	四	四

ス (大正六、三、二三)

○査定又ハ裁決カ判決ト其結果ニ於テ相牴觸スルコトアルモ此ノ兩者ハ全然其系統ヲ異ニセル國家機關ノ行爲ニ依リ各自獨立シテ其所有權ヲ確定シ兩々相對立シ互ニ相侵スコトヲ許ササルモノナレハ査定又ハ裁決ノ效力ハ確定判決ニ對シ何等影響ナキト同時ニ確定判決ノ效力モ亦査定又ハ裁決ニ對シ何等影響ヲ及ホスモノニアラス (大正七、七、九)

○甲カ嚮ニ土地申告ヲ爲シ其後同一土地ニ付乙ト所有權ヲ爭ヒ訴訟ノ結果甲ノ所有ニアラスシテ乙ノ所有ナリトスル判決確定シ爾後更ニ甲ノ申告ニ基キ甲ヲ同土地ノ所有者ナリトスル査定又ハ裁決アリタルトキハ乙ハ甲ニ對シ確定判決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ルト同時ニ甲モ亦其査定又ハ裁決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク而シテ其間優劣ヲ付スヘカラサルモノナレハ乙カ同土地ニ所有權保存登記ヲ爲スモ其ハ其所有權ニ基ク正當ノ行爲ニシテ甲ハ之カ爲其所有權ヲ侵害セラルヘキモ自己ノ權利ヲ主張シ其抹消ヲ求ムルヲ得ス (大正七、七、九)

六	六	六
四	七	七
二〇	五	五
二	五	五
〇	五	五

聯

○同一土地ノ所有權ニ關シ土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ斯ル場合ニハ一方ヲシテ査定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト共ニ又他ノ一方ヲシテ判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ其當事者間ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ状態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキモノト爲スヲ妥當トス從テ若シ他ノ一方ノ現狀ニ變更ヲ加ヘ其權利ヲ侵害シテ目的物件ヲ奪取スルカ如キ行爲ヲ爲スニ於テハ侵害セラレタルモノハ侵奪者ヲ相手取り之カ回復ヲ請求スルヲ得ヘキモノトス (大正八、三、一四)

大 八 六 九

聯

○土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ニ因リ土地所有者ノ權利確定シタルトキハ再審ノ申立ニ依リ變更セラレサル限りハ絶對的效力ヲ生スルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人ハ何人ニ對シテモ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘク又司法裁判所カ土地所有權ノ有無ニ關シテ判決ヲ爲シ其判決確定シタルトキハ其當事者間ニ在リテハ羈束力ヲ生スルニ依リ其一方ハ他ノ一方ニ對シ判決ニ因リテ定マリタル所有權ノ有無ニ付之ヲ主張スルヲ得ヘシ從テ若シ同一土地ノ所有權ニ關シ査定又ハ裁決ト確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力

ヲ有スルモノナレハ其行爲ノ前後ニ依リテ其效力ニ優劣ヲ付スヘカラサルハ勿論スル場合ニ於テ之ヲ調和スヘキ法規ノ存セサル現行法制ノ下ニ在リテハ兩々相對立シテ其效力ヲ有スルモノト認メサルヘカラス故ニ斯ル場合ニ於テハ一方ヲシテ査定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト同時ニ又他ノ一方ヲシテ確定判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ當事者ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ状態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキモノトナスヲ妥當トスルコトハ當院ノ判例トスル所ニシテ之ヲ變更スルノ理由アルヲ認メス (大正一〇、一一、二二、二三)

大
一〇
八五六三

聯 ○土地所有權ノ信託的讓渡行爲ニ在リテハ外部關係ニ於ケルト同時ニ特別ノ意思表示ヲ以テ内部關係ニ於テモ所有權ヲ移轉スヘキモノト爲スヲ妨ケサルモ特別ノ意思表示ナキ以上ハ外部關係ニ於テノミ所有權移轉ノ效果ヲ發生シ内部關係ニ於テハ然ラスシテ其所有權依然信託者ニ存スルモノト爲スヲ通例トス從テ當事者間ニ於テ土地所有權カ受託者ニ在リトスル旨ノ確定判決アリタルトキハ其判決ハ其反面ニ於テ當事者間ニ信託關係ノ事實ナキコトヲ確定シタルモノト認メ得ヘカラサル

ニ非スシテ其之ヲ認ムルニ付必スシモ該判決ノ内容ヲ考査説明セサルヘカラサルモノニ非ス (大正一〇、一一、二三)

大
一〇
八五六四

聯 ○確定判決ノ勝訴者ハ査定名義人又ハ裁決名義人ヨリ其權利ヲ讓受ケタル第三者ニ對シテ既判力ヲ主張スルヲ得ス之ニ反シテ第三者ハ其讓受ニ因リ何人ニ對シテモ査定又ハ裁決ノ效力ヲ主張シ得ヘキヲ以テ第三者ハ右ノ確定判決ニ依リテハ何等ノ制限ヲ受タルコトナク其所有權ヲ主張スルヲ得ルモノト謂ハサルヲ得ス之ト同シク査定名義人又ハ裁決名義人カ確定判決ノ勝訴者ヨリ權利ノ讓渡ヲ受ケタル特定承繼人ト所有權ヲ爭フ場合ニ於テモ該特定承繼人ハ既判力ヲ主張スルヲ得サルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人ハ完全ニ其所有權ヲ主張シ得ヘシ (大正一一、一〇、一三)

大
一一
九四二

聯 ○甲乙間ニ於テ同一土地ノ地有權ニ付爭ヲ生シ一方ニハ訴訟ノ結果甲ノ所有ト認ムル旨ノ確定判決アリ他方ニハ土地調査令ニ依ル審査ノ結果乙ノ所有ト確定スル旨ノ査定又ハ裁決アリタルトキハ判決ト査定又ハ裁決トハ兩々相對立シ其效力ニ優劣ナキモノニシテ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使シ得ヘキモノナリトスルコトハ當院ノ判例トスル所ナリ是即査定又ハ裁決ハ其效力トシテ廣ク第三

者ヲ羈束スルト同時ニ勝訴ノ確定判決ヲ得タル者ハ敗訴者ニ對シ既判力ヲ以テ對抗シ得ルカ爲メナリ然レトモ確定判決ノ既判力ハ訴訟當事者及其一般承繼人ノ間ニ限り其效力ヲ及ホスヘキモノニシテ其以外ノ第三者ニ對シテハ縱令同一土地ヲ讓受ケ其權利ヲ承繼シタルモノト雖其效力ヲ及ホスヘキモノニ非サルヲ以テ確定判決ノ勝訴者タル甲ハ査定名義人又ハ裁決名義人タル乙ヨリ土地所有權ノ讓渡ヲ受ケタル丙ニ對シ確定判決ニ基ク所有權ヲ主張シ丙ヲシテ其所有權ヲ認メシムルコトヲ得サルモノニシテ之ニ反シ丙ハ乙ノ所有權ヲ讓受ケタルコトヲ理由トシテ甲ニ對シ其所有權取得ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス之ト同シク甲ヨリ所有權ノ讓渡ヲ受ケタル丁ハ既判力ヲ理由トシテ乙ニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得サルモノニシテ寧ロ乙ヨリ丁ニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス (大正一一、一一、一七)

【反對】

○甲カ嚮ニ土地申告ヲ爲シ其後同一土地ニ付乙ト所有權ヲ爭ヒ訴訟ノ結果甲ノ所有ニアラスシテ乙ノ所有ナリトスル判決確定シ爾後更ニ甲ノ申告ニ基キ甲ヲ同土地ノ所有者ナリトスル査定又ハ裁決アリタルトキハ乙ハ甲ニ對シ確定判決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ルト同時ニ甲モ亦其査定又ハ裁決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク而シテ其間優劣ヲ付

大
一一
九四七四

スヘカラサルモノナレハ乙カ同土地ニ所有權保存登記ヲ爲スモ其ハ其所有權ニ基ク正當ノ行爲ニシテ甲ハ之カ爲其所有權ヲ侵害セラルヘキモ自己ノ權利ヲ主張シ其抹消ヲ求ムルヲ得ス此ノ場合乙ハ土地ノ所有者ナルヲ以テ任意之ヲ處分スルコトヲ得ヘク故ニ乙カ之ヲ丙ニ讓渡シタルトキハ丙ハ之ニ依リ完全ニ其所有權ヲ取得スルモノニシテ甲カ乙ノ特定承繼人タル丙ト所有權ヲ爭フ場合ニ於テモ甲ハ査定又ハ裁決アリタル事由ノミヲ以テ確定判決ヲ受ケタル乙ノ權利ヲ否定スルコトヲ得ス (大正七、七、九)

聯

○大正三年制令第十六號ニ依リ抹消セラルヘキ登記又ハ證明中ニハ確定判決ニ依リ爲サレタル所有權ノ登記又ハ證明ハ之ヲ包含セサルニ依リ甲カ乙トノ間ノ確定判決ニ基キ所有權移轉ノ證明ヲ受ケタル後土地調査令ニ依リ乙ノ所有ナリトノ査定又ハ裁決アリタリトスルモ其査定又ハ裁決ニ基キ前ニ甲ノ爲シタル移轉證明ヲ目シテ査定又ハ裁決ニ牴觸スル證明ナリトシテ之カ抹消ヲ申請スルコトヲ得ス從テ乙ノ申請ニ基キ登記官吏カ右抹消ヲ爲シ更ニ乙名義ノ所有權保存登記ヲ爲シタルトキハ該抹消及保存登記ハ不法ナリト雖該土地ノ所有權カ乙ヨリ丙ニ讓渡セラレ所有權移轉登記ヲ經由シタルトキハ甲ハ最早既判力ヲ理由トシテ其所有權ヲ丙ニ對シ主張スルコトヲ得サルニ依リ丙ニ對シ其所有權移轉登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得ス敍上ノ如ク丙ノ爲シタル所有

大
七
五
五九〇

權移轉登記ノ抹消ヲ求ムヘカラサル以上ハ其前ニ乙ノ爲シタル所有權
保存登記ノミヲ分離シテ抹消スルコトヲ得サルニ依リ此抹消モ亦之ヲ
求ムルコトヲ得サルモノトス (大正一一、一一、一七)

○査定又ハ裁決ノ確定シタル事實ハ當事者ヨリ之ヲ主張スルニアラサレ
ハ司法裁判所ニ於テ其事實ノ有無ヲ調査スヘキ義務ナキモノトス
(大正四、七、六)

○土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ土地ノ所有者ノ權利ヲ確定スルモノ
ナルヲ以テ同令第十六條ニ規定スル再審ノ申立ニ因リ變更セラレサル
限リハ其査定名義者ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス絶對ニ其
土地ノ所有者ト確定セラルヘキモノトス (大正五、五、一六)

○共有者カ共有者中ノ一人ヲシテ單獨名義ヲ以テ査定又ハ裁決ヲ受ケシ
メタルトキハ其共有者ハ右査定共有者ニ對シテハ共有權ヲ主張シ得ヘ
キモ第三者ニ對シテ共有權ヲ主張スルヲ得ス (大正五、五、一六)

○土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ一ノ行政處分ナレトモ其査定又ハ裁
決確定シタルトキハ同令第十五條ニ依リ土地所有者ノ權利ハ之ニ因テ
確定セラレ同令第十六條ニ規定スル再審ノ申立ニ因リ變更セラレサル
限リハ其査定又ハ裁決名義人ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ係ラス

大 二
九 四七五

大 四
三 二四七

大 五
三 五八〇

大 五
三 五八〇

絶對ニ其土地ノ所有者ト確定セラルルモノトス (大正六、三、二七)

○司法裁判所ニ於テハ係争地ニ對シ曩ニ査定又ハ裁決ノ確定シタル事實
ヲ認ムル以上ハ其後ニ於ケル所有權移轉變更等ノ事實ナキ限リ査定又
ハ裁決名義人ノ爲ニ其所有權ヲ認メサルヘカラス (大正六、三、二七)

○土地ノ所有者タル者カ一應其權利ヲ信託的ニ他人ニ讓渡シ其他人ヲシ
テ土地ノ査定ヲ受ケシメ該査定確定後更ニ其權利ノ移轉ヲ受クルコト
ヲ約スルハ何等公ノ秩序善良ノ風俗ニ反スルモノニアラス (大正六、三、
三一)

○土地申告前ニ於ケル該土地ノ所有者カ果シテ甲者ナリシヤ否ヤノ事實
ヲ調査スルコトハ査定ノ確定若クハ裁決アリタル後ト雖事實不能ノ事
ニアラス故ニ當事者カ調査ノ上或土地ノ査定前其土地ノ所有者カ果シ
テ甲者ナルトキハ契約ヲ追認スヘシトノ意思表示ヲ爲シタルトキハ追
認ニ不能ノ停止條件ヲ附シタルモノニアラスシテ過去ノ事實ヲ以テ停
止條件ト爲シタルモノトス (大正六、三、三〇)

○前項ノ如キ停止條件ヲ附シタル追認ハ該土地カ甲者ノ所有ニアラサリ
シトキハ條件ノ不成就確定シ追認ハ無効ニ歸シ反之其所有者カ甲者タ
ルトキハ條件ハ既定ノ事實ヲ停止條件ト爲シタルモノニシテ追認ハ無

大 六
四 二〇八

大 六
四 二〇九

大 六
四 二五一

大 六
四 二五一

條件ノ追認タルニ至ルモノトス (大正六、三、三〇)

○他人ノ爲メ管理行爲トシテ自己名義ニテ査定ヲ受ケタリトスルモ其所有權ハ査定ノ確定ニ依リ査定名義人ノ所有ト確定スヘキモノトス (大正六、五、一八)

○土地所有者ノ權利ニシテ査定若クハ裁決ニ因リテ確定シタル以上ハ其以後ニ生シタル事由ニ基キテ司法裁判所ニ出訴シタル場合ハ格別其以前ニ於ケル事由ニ基キテ同一土地ノ所有權ニ關シ司法裁判所ニ對シ査定若クハ裁決ニ反スル判決ヲ求メントスル請求ハ認容スヘキモノニ非ス (大正六、七、九)

○査定ニ依リ土地ノ所有者ナリト確定セラレタルモノアル事實ヲ認メナカラ他ノ一方ニ於テ其土地ニ付テハ他ニ真正ナル所有者アル旨ノ認定ヲ爲スハ失當ナリ (大正七、三、二二)

○土地調査令ニ基キ査定ノ確定又ハ裁決ニ依リテ土地所有者ノ權利カ確定シタルトキハ再審ノ申立ニ因リテ變更セラレサル限りハ其査定名義人ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス絶對ニ其土地ノ所有者ト確定スヘキヲ以テ假令以前ニ爲サレタル賣買ニ付朝鮮民事令第十三條民法施行法第三十七條朝鮮不動産證明令第一條ノ規定ニ依リ朝鮮民事令

大 六 六 四 二五二

大 六 四 四〇七

大 六 四 六八五

大 七 五 二〇六

施行後一年內ニ證明ヲ受ケサリシトスルモ査定名義人ハ何人ニ對シテモ査定ノ確定ニ依リテ確定シタル土地所有者タル權利ヲ主張スルヲ得ヘキモノトス (大正七、五、一七)

○共有ノ土地ニ付共有者ノ一人カ他ノ共有者ノ爲ニスルコトヲ示サス擅ニ自己一人ノ名義ヲ以テ單獨所有トシテ土地ノ申告ヲ爲シ該申告ニ基キ査定又ハ裁決アリタルトキハ査定又ハ裁決ノ效力トシテ該土地ハ全然其名義人ノ所有ト確定セララルモノトス (大正七、七、二三)

○土地調査令ニ依ル土地ノ査定ハ土地ノ所有者ヲ確定スルコトヲ目的トスルモノニシテ査定ニ依リ所有者ト確定セラレタルモノハ査定前所有權ヲ有セシト否トニ拘ラス絶對ニ其土地ノ所有者トナリ何人ニ對シテモ其所有權ヲ主張シ得ヘク反之査定前ニ適法ニ所有權ヲ取得シタルモノト雖査定ヲ受ケタルトキハ爾後所有權ヲ主張スルコトヲ得サルモノニシテ斯ル所有權ハ査定ニ依リ消滅ニ歸シ從テ査定ニ牴觸セル所有權ニ基キ設定セラレタル抵當權ノ如キモ其基本タル所有權ノ消滅スルト同時ニ是亦消滅スルモノトス (大正七、一一、一九)

○査定前眞ノ所有者ヨリ土地ノ信託讓渡ヲ爲シタルニ拘ラス信託者カ其信託讓渡契約ヲ解除スルコトナク擅ニ自己ノ所有トシテ土地申告ヲ爲

大 七 五 四二二

大 七 五 六五六

大 七 五 八七二

シ査定確定セルトキハ信託者ノ査定ニ依ル所有權ト受託者ノ信託讓渡契約ニ因リ取得セル所有權トハ互ニ牴觸ヲ來シ爾後受託者ハ其所有權ヲ得サルニ至ルニヨリ斯ル場合ニハ査定ハ信託關係ニ影響ヲ及ホスモノトス (大正七、一一、一九)

○査定ハ所有者ノ所有權カ完全ナリヤ不完全ナリヤ即其土地ハ他人ノ權利ノ目的トナレルモノナリヤ否ヤノ如キコトヲ調査決定スルモノニ非ラス單ニ土地所有者ヲ確定スル效力アルニ過キス (大正七、一一、一九)

○當事者カ虚偽ノ意思表示ニ依リ土地ヲ讓渡シ其讓受人(乙)ニ於テ査定ヲ受ケタルトキハ讓渡人(甲)カ査定後乙ヨリ更ニ其權利ノ移轉ヲ受ケタルコトヲ主張スルハ格別苟モ其主張ニシテ單ニ査定前ノ事由タル虚偽ノ意思表示ハ無効ナルカ故ニ同土地ノ所有權ハ依然自己ニ存スルモノナリトシ査定前其所有者タリシコトニ基キ請求ヲ爲スモノナルトキハ査定ト相容レサル權利ヲ主張シ請求ヲ爲スモノニ外ナラサレハ其請求ハ之ヲ排斥スヘキモノニシテ斯ル場合ニハ査定確定ノ結果民法第九十四條ノ規定ハ其適用ヲ排除セララルモノトス (大正七、一一、一七)

○甲カ乙ニ對シ虚偽ノ意思表示ニ依リ土地ヲ讓渡シ乙自ラ其土地ニ付査定ヲ受ケ之ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ其第三者ハ甲乙間ニ該土地カ

大 七 五八七二

大 七 五八七三

大 七 五二〇一

虚偽ノ意思表示ニ依リ讓渡セラレタルコトヲ知ルト否トニ拘ラス完全ニ所有權ヲ取得シ甲ハ第三者ニ對シ虚偽ノ意思表示ノ無効ナルコト及第三者カ惡意ナルコトヲ主張シ第三者ノ權利ヲ否定スルヲ得サレハ斯ル場合ニハ査定確定ノ結果民法第九十四條第二項ノ規定ハ其適用ヲ排除セララルモノトス (大正七、一一、一七)

○贈與契約ノ履行ニ因リ目的タル土地ノ所有權カ受贈者ニ移轉シタルモ未タ登記竝ニ引渡ノ義務ノ履行ヲ了セサル中途ニ於テ土地カ査定ニ依リ贈與者ノ所有ト確定シタルトキハ贈與者カ所有權ヲ取得スルト同時ニ受贈者ハ所有權ヲ喪失スルヲ以テ爾後新ナル物權變動ノ發生ト共ニ贈與契約ニ準據スヘキ特別ノ事情ナキ限り受贈者ハ贈與契約ニ依リ登記竝ニ引渡ノ義務履行ヲ請求スル權利ナシ即チ如上ノ義務ハ査定確定ノ日ニ受贈者ノ所有權ノ喪失スルト同時ニ自然消滅ニ歸スヘキモノトス (大正八、四、一五)

○對抗スルコトヲ得ヘキ典當權(抵當權)ハ其對抗ヲ受クヘキ所有者カ土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人ト爲ルモ其査定名義人ノ權利ト牴觸シテ相容レサルニ非サルヲ以テ其對抗力ヲ失フコトナシ (大正八、五、六)

大 七 五二〇一

大 七 五二〇一

大 八 六二〇

大 八 六三三

○土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人ト爲ルモ典當權ノ對抗ヲ受クヘキモノナルトキハ其當然ノ結果トシテ典當權ノ實行ニ因リ競落人ノ取得シタル所有權ノ證明ニ對シ大正三年五月制令第十六號ニ依リ査定名義人ノ權利ニ牴觸スルモノトシテ其證明ヲ抹消セシムルノ權利ナシ (大正八、五、六)

○共有者カ共有者ノ一人ニ對シ土地ヲ信託讓渡スルコトナクシテ共有者團體ノ共有名義ヲ以テ申告ヲ爲スヘキコトヲ依頼シ同共有者ノ一人カ其依頼ニ基キ團體員ノ共有トシテ申告ヲ爲シ土地調査局ニ於テ共有者ノ一人ノ氏名及團體有財產タルコトヲ竝記シ査定ヲ爲シタルトキハ共有者全員カ協議ノ上其共有者ノ一人ヲ以テ申告名義人ト定メ土地ノ申告ヲ爲サシメ査定ヲ受ケタル場合ト異ナリ共有者ノ一人ト他ノ共有者全員トノ間ニハ信託關係ナク申告ハ團體員ノ共有トシテ爲サレタルヲ以テ土地調査局カ其共有者ノ一人及團體有財產タルコトヲ表示シ査定スルハ即同共有者ノ一人外幾人ノ共有トシテ査定セルト毫モ擇フ所ナキカ故ニ斯ル場合ニハ同共有者ノ一人及團體員タル他ノ共有者全員カ査定名義人ト爲リタルモノト解スルヲ相當トス (大正八、五、九)

○査定名義人ノ何人ナリヤハ一應査定名義人トシテ表示セラレタル所ニ

八
六
三
三

八
六
三
五

ヨリ之ヲ定ムヘキモノナリト雖査定名義人ノ何人ナリヤニ付爭アリ其表示ノミニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得サル如キ場合ニハ他ノ證據ニ依リ土地調査局ニ於テ眞實其所有ト査定シタルモノノ何人ナリヤヲ認メ之ヲ以テ査定名義人ト爲スヘキモノトス (大正八、五、九)

○土地ノ所有者ニ於テ其土地ノ上ニ有效ニ典當權ヲ設定シ典當權者ニ於テ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ經タルトキハ爾後該土地ノ所有權者ヨリ權利ノ移轉ヲ受ケ土地調査ノ結果査定名義人トナリタルモノアルトキト雖査定名義人ノ所有權ハ典當權設定者タル前所有者ノ權利ヲ承繼シタルモノニ過キスシテ査定ニ依リ前所有者ノ權利ト牴觸ヲ來スヘキモノニ非サルヲ以テ典當權ハ消滅スヘキ理ナク典當權者ハ査定名義人ニ對シ之ヲ對抗シ得ヘキモノトス (大正八、八、二六)

○民法第七百一條第六百四十六條ニ依レハ事務管理ニ於ケル管理者ハ本人ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ本人ニ移轉スル義務アルヲ以テ他人ノ土地ニ付事務管理トシテ管理人カ自己ノ名義ヲ以テ所有申告ヲ爲シ自己名義ニ査定確定シタルトキハ其所有權ハ本人ノ爲メニ自己名義ヲ以テ取得シタルモノニ外ナラサレハ之ヲ本人ニ移轉スル義務アルハ勿論ニシテ其申告ヲ爲シタル後右管理者及本人間ニ於テ

八
六
四
九

八
六
三
五
六

何時ニテモ本人ニ所有名義移轉登記手續ヲ爲スヘク約シタルトキハ管理
 理者カ事務管理上ノ權利移轉義務ヲ認メテ所有權移轉登記手續ヲ爲ス
 ヘキコトヲ約シタルモノニシテ本人ノ請求次第當然所有權ハ本人ニ移
 轉シ直ニ登記手續ヲ爲スヘキコトヲ約シタル趣旨ト解スルヲ妥當トス
 ルカ故ニ斯ル契約ニハ債權契約ト物權契約ト併存スルモノト解スルハ
 當然ナリ (大正九、六、四)

○査定ニ對シ不服申立アリタルト否トヲ問ハス又不服申立人ノ所有ト裁
 決セラレタルト否トヲ問ハス申告當日ノ現在ニ依リ確定セラルルモノ
 トス (大正一〇、三、二五)

○從來共有ノ土地ヲ共有者全員協議ノ上共有者ノ一人ヨリ其單獨名義ヲ
 以テ査定又ハ裁決ヲ受ケシメタル場合ニ於テ査定名義者タラサル共有
 者ハ査定名義者ニ對シ該契約ニ基キ共有權ヲ主張シ得ヘキモノトス
 (大正七、一一、一一)

○如上契約ノ内容ハ普通ハ査定ノ確定又ハ裁決ニヨリテ査定名義人ノ所
 有ト確定シタルトキ之ト同時ニ其所有權ニ付テモ契約者間ニ共有關係
 ヲ生シ外部關係ニ於テハ査定名義者ノ所有ナルモノ内部關係ニ於テハ共
 有者間ノ共有ニ屬スルモノト爲スノ旨趣ヲ包含スル契約ナリト解スヘ

大	九	七	二〇六
大	一〇	八	八九
大	七	五	八三二

キモノトス (大正七、一一、一一)

○債務者カ其所有土地ヲ賣渡抵當ト爲シ信託的ニ債權者ニ其所有權ヲ讓
 渡シタル場合ニアリテハ特別ノ意思表示ノ認ムヘキモノナキ限り外部
 關係ニ於テ所有權移轉ノ效果ヲ發生スルニ止マリ内部關係ニ於テハ其
 移轉ノ效果ヲ發生セス債務者(信託者)ハ債權者(受信者)ニ對シテハ依
 然自己ノ所有權ヲ主張シ得ルモノトス (大正七、一一、二八)

○如上土地ノ信託讓渡ノ存スル場合ニ於テ受信者カ其讓渡ノ土地ニ付土
 地調査令ニ基キ自己名義ヲ以テ査定若クハ裁決ヲ受クルコトハ普通信
 託契約ノ約旨中ニ包含スルモノト解スルヲ以テ最モ當事者ノ意思ニ適
 合シタルモノトス (大正七、一一、二八)

○故ニ査定若クハ裁決カ受信者名義ニ確定スルモノ内部關係ニ於テハ尙信
 託者カ受信者ニ對シ其所有權ヲ主張シ得ヘキモノナレハ此ノ一事ヲ以
 テ直ニ信託者ノ所有權ヲ否定スヘキモノニアラス (大正七、一一、二八)

○土地ノ信託讓渡ヲ受ケタル受信者カ其讓渡ノ土地ニ付土地調査令ニ基
 キ自己名義ヲ以テ査定若クハ裁決ヲ受クルコトハ普通信託契約ノ約旨
 中ニ包含セルモノト解スルヲ以テ最モ當事者ノ意思ニ適合シタルモノ
 ナルカ故ニ査定若クハ裁決カ受信者名義ニ確定スルモノ内部關係ニ於テ

大	七	五	八六二
大	七	五	一〇六〇
大	七	五	一〇六〇
大	七	五	一〇六一

ハ尙信託者ハ受信者ニ對シ其所有權ヲ主張シ得ヘキモノニシテ此一事ヲ以テ直ニ信託者ノ所有權ヲ否定スヘキモノニアラサルコトハ當院ノ判例(大正七年民上第三三九號同年十二月二十八日判決參照)トシテ示ス所ニシテ右判決ハ信託行為タル賣渡抵當ニ付表示セル意見ナリト雖外部關係ニ於テ所有權移轉ノ效力ヲ生セシメ内部關係ニ於テ其移轉ノ效果ヲ生セシメサル他ノ信託讓渡ノ場合ニ於テモ其法理ヲ異ニスル理由ナシ (大正八、三、三一)

○信託契約カ當事者ノ一方ノ死亡ニ因リ當然消滅スルコトナキヤ否ヤハ信託契約ノ内容ニ依リ決スヘキモノトス而シテ土地所有權ノ信託的讓渡ノ場合ニ於テ受信者カ信託契約ニ基キ自己名義ヲ以テ所有申告ヲ爲シ査定確定シタル後死亡スルモ信託契約ハ之ニ因リ當然消滅スルコトナク其相續人ニ於テ承繼スヘキモノトス (大正八、五、六)

○土地所有權ニ關シテ信託契約ヲ締結シ之ニ基キ受信者カ土地調査令ニ依リテ所有申告ヲ爲シタルトキハ假令受信者名義ニ査定確定シタルトキト雖モ特約アラサル限りハ受信者ハ信託者ニ對シテ信託者ノ所有權ヲ否定スルコトヲ得サルモノトス (大正九、二、一三)

○内部關係ニ於テ所有權カ依然トシテ信託者ニ存セリト爲スヘキ場合ニ

大	八	八
九	六	六
七	三	一
四五	四二	七六

在リテ受信者名義ニ査定確定シタルトキハ信託者カ受信者ニ對シ内部關係ニ於テ主張スルコトヲ得ヘキ所有權ハ信託ノ關係上査定ノ確定スルト同時ニ別段ノ意思表示ヲ要セス當然受信者ヨリ信託者ニ移轉セラレタルモノト見ルヘキモノトス (大正九、二、一三)

○賣主カ土地賣買契約成立後未タ所有權移轉ノ登記義務ヲ履行セサル前ニ於テ賣主名義ヲ以テ土地調査令ニ依ル所有申告ヲ爲シタルトキハ所有權ノ既ニ買主ニ移轉シタルニ拘ラス恣ニ冒認シテ所有申告ヲ爲シタリト解センヨリハ寧ロ賣主トシテ所有權移轉ノ登記義務ヲ履行スル便宜上之カ所有申告ヲ爲シタルニ外ナラサルト共ニ買主ニ於テモ其旨趣ヲ諒シ賣主名義ヲ以テ所有申告ヲ爲スコトヲ容認シタルモノト認ムルヲ取引ノ通念ニ適スルモノト爲スヘク斯ル場合ニ在テハ其當事者間ニハ明示又ハ默示ノ合意ニ依リ一種ノ信託關係發生シ買主ハ内部關係ニ於テ所有權ヲ保留シ賣主ハ外部關係ニ於テ所有者トナリテ査定又ハ裁決ヲ受ケ賣主名義ニ所有權確定シタルトキハ之ト同時ニ別段ノ意思表示ヲ要セスシテ當然其所有權ハ買主ニ移轉シ賣主ハ賣買名義ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ約シタルモノト解スルヲ妥當トス (大正一〇、一一、八)

大	九	一〇
七	七	八
四五	七	三九〇

○土地調査令ニ依リ所有申告ヲ爲スニ當リ申告者カ從來所有權ヲ有セサルニ拘ラス自己名義ノ査定ヲ得ンコトヲ企圖シテ虛偽ノ申告ヲ爲シ偶々申告者ノ所有ト査定セララルコトアルモ之ヲ以テ直ニ不法行爲ニ因リ眞實ノ所有者ノ權利ヲ侵害シタルモノト爲スヘキニ非ス只査定カ申告者ノ不法行爲ニ原因スルコト判然タル場合ニ於テノミ査定ト不法行爲トノ間ニ因果關係ヲ惹起シ眞實ノ所有者ノ權利ヲ侵害シタリトシ其ノ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ責任ヲ負フヘキモノト爲スヲ妥當トス
(大正一、八、二八)

聯

○土地所有權ノ確定ニ付土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トカ互ニ牴觸シ相容レサル結果ヲ生シタル場合ニ於テ査定名義人又ハ裁決名義人及確定判決ノ勝訴者ハ各其ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ヘシト雖其ノ兩者ノ間ニ在リテハ兩々對立シタル當時ノ狀態ヲ維持シ互ニ他方ノ權利ヲ侵害スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人カ其ノ權利ヲ第三者ニ讓渡シ其ノ者ヲシテ當該土地ニ付完全ナル所有權ヲ取得セシメ確定判決ノ勝訴者ヲシテ全然其ノ權利ヲ喪失セシメタルトキハ査定名義人又ハ裁決名義人ハ確定判決ノ勝訴者ニ對シテ不法行爲ノ責ニ任スヘキモノトス
(大正一、四、二二、二六)

○前項ノ不法行爲ニ因ル損害賠償額ハ確定判決ノ勝訴者カ査定名義人又ハ裁決名義人トノ關係ニ於テ有セシ權利狀態ヲ基本トシ目的タル土地ノ上ニ現實ニ及ホセシ支配關係ノ範圍態様ヲ參酌シテ之ヲ判定スヘキモノトス
(大正一、四、二二、二六)

聯

○土地調査局ニ於テ土地ノ査定ヲ爲スニ際リ共有者ノ一人ノ氏名及宗中共有財產タルコトヲ竝記シ査定ヲ爲シタルトキハ共有者ノ一人ハ他ノ共有者全員トノ信託契約ニ因リ外部關係ニ於テ完全ナル所有權ヲ取得シタルモノトシ一人ノ所有ト査定シタルモノト解スヘク宗中共有財產タルコトノ記載ハ單ニ共有者ノ一人タル査定名義人ト他ノ共有者全員トノ内部關係ニ於テ共有者ノ所有タルコトヲ表明シタルニ過キスシテ固ヨリ土地調査令ニ依ル査定トシテ所有權ヲ確定スル效力ヲ有セサルモノト解セサルヘカラス
(大正一、三、二二、二六)

【反對】

○法人ニアラサル書院所屬ノ土地カ書院ニ奉祀セララル先賢子孫ノ共有タル場合ニ其共有者協議ノ上共有者ノ一人若ハ共有者以外ノ者ヲ以テ申告名義人ト定メ土地ノ申告ヲ爲シ査定ヲ求ムルニ當リ當該官廳カ書院所屬財產タルコト及申告名義人ノ氏名ヲ竝記シ査定シタルトキハ名義人ハ共有者全員トノ信託契約ニヨリ外部關係ニ於テ完全ナル所有權ヲ取得セル

大 三〇二四九

大 二四三二五五

大 二四三二五六

大 三二二二六四

モノトシ其所有ト査定シタルモノト解スヘキモノニシテ其書院所屬財産タルコトノ記載ハ固ヨリ土地調査令ニ依ル査定トシテ所有權確定スル效力ナク單ニ査定名義人ト共有者全員トノ内部關係ニ於テ共有者ノ所有タルコトヲ表明セルモノト解スルノ外ナキモノトス（大正七、四、一六）

○共有者カ共有者ノ一人ニ對シ土地ヲ信託讓渡スルコトナクシテ共有者團體ノ共有名義ヲ以テ申告ヲ爲スヘキコトヲ依賴シ同共有者ノ一人カ其依賴ニ基キ團體員ノ共有トシテ申告ヲ爲シ土地調査局ニ於テ共有者ノ一人ノ氏名及團體有財産タルコトヲ並記シ査定ヲ爲シタルトキハ共有者全員カ協議ノ上其共有者ノ一人ヲ以テ申告名義人ト定メ土地ノ申告ヲ爲サシメ査定ヲ受ケタル場合ト異ナリ共有者ノ一人ト他ノ共有者全員トノ間ニハ信託關係ナク申告ハ團體員ノ共有トシテ爲サレタルヲ以テ土地調査局カ其共有者ノ一人及團體有財産タルコトヲ表示シ査定スルハ即同共有者ノ一人外幾人ノ共有トシテ査定セルト毫モ擇フ所ナキカ故ニ斯ル場合ニハ同共有者ノ一人及團體員タル他ノ共有者全員カ査定名義人ト爲リタルモノト解スルヲ相當トス（大正八、五、九）

第十六條

○土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ土地ノ所有者ノ權利ヲ確定スルモノナルヲ以テ同令第十六條ニ規定スル再審ノ申立ニ因リ變更セラレサル限りハ其査定名義者ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス絶對ニ其土地ノ所有者ト確定セラレヘキモノトス（大正五、五、一六）

○共有者カ共有者中ノ一人ヲシテ單獨名義ヲ以テ査定又ハ裁決ヲ受ケシ

大 七
五二四

大 八
六三五

大 五
三五〇

メタルトキハ其共有者ハ右査定共有者ニ對シテハ共有權ヲ主張シ得ヘキモ第三者ニ對シテ共有權ヲ主張スルヲ得ス（大正五、五、一六）

○土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ一ノ行政處分ナレトモ其査定又ハ裁決確定シタルトキハ同令第十五條ニ依リ土地所有者ノ權利ハ之ニ因テ確定セラレ同令第十六條ニ規定スル再審ノ申立ニ因リ變更セラレサル限りハ其査定又ハ裁決名義人ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ係ラス絶對ニ其土地ノ所有者ト確定セラレルモノトス（大正六、三、二七）

○土地調査令ニ基キ査定ノ確定又ハ裁決ニ依リテ土地所有者ノ權利カ確定シタルトキハ再審ノ申立ニ因リテ變更セラレサル限りハ其査定名義人ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス絶對ニ其土地ノ所有者ト確定スヘキヲ以テ假令以前ニ爲サレタル賣買ニ付朝鮮民事令第十三條民法施行法第三十七條朝鮮不動産證明令第一條ノ規定ニ依リ朝鮮民事令施行後一年内ニ證明ヲ受ケサリシトスルモ査定名義人ハ何人ニ對シテモ査定ノ確定ニ依リテ確定シタル土地所有者タル權利ヲ主張スルヲ得ヘキモノトス（大正七、五、一七）

大 五
三五〇

大 六
四二〇

大 七
五四二

朝鮮林野調査令

○林野調査令ニ依リ調査中ニ係ル林野ノ賣買ニ付テモ普通ノ不動産賣買ニ於ケルト同様特約ナキモ賣買契約上當然ノ義務トシテ賣主ハ所有權移轉登記義務ヲ負擔スルモノトス (大正一三、八、五)

○林野調査中ノ所有權異動ハ當該官廳ニ於テ朝鮮林野調査令施行規則第八條ニ依リ之ヲ調査整理スルモ査定ノ效力ヲ生スルモノニ非ス (大正一三、八、五)

○林野ノ共有者カ其ノ林野ヲ共有者ノ一人ニ信託シ對外關係ニ於テ其ノ者ノ單獨所有ト爲シタル後其ノ者ノ名義ヲ以テ林野調査令ニ依リ所有申告ヲ爲シタルモ爾後林野調査委員會ニ於テ其ノ林野カ信託者及受託者ノ共有ト裁決セラレタルトキハ如上信託解除ハ右所有申告ヲ爲シタル日ニ於テ當然解消シタルモノト看做スヘキモノトス (大正一四、三、一〇)

○朝鮮林野調査令ニ依ル林野所有者ノ申告後ニ爲ス所有者ノ異動申告ハ査定ノ基礎ト爲ルモノニ非サルカ故ニ其ノ査定ニ於テ新所有者ノ權利ヲ確定スルコトナキハ勿論又右ノ異動申告ハ權利ノ得喪ヲ公示スル趣旨ノモノニ非サルカ故ニ不動産登記法ノ定ムル登記ト同一ノ效力ヲ有スルコトナキモノトス (大正一五、五、二八)

○林野調査令ニ依リ當該官廳カ林野ノ所有者及其ノ疆界ヲ査定スルニ當リ合有者ノ一人ノ氏名及宗中財産タルコトヲ竝記シテ査定シタルトキハ其ノ合有者ノ一人ハ他ノ者トノ信託契約ニ因リ外部關係ニ於ケル完全ナル所有權ヲ取得シタルモノトシ其ノ者ノ所有トシテ査定シタルモノニシテ宗中財産タルコトノ記載ハ單ニ合有者ノ一人タル査定名義人ト他ノ全員トノ内部關係ニ於テ合有タルコトヲ表明シタルニ過キササルモノト解スヘキモノトス從テ査定名義人カ宗中ノ同意ヲ得ルコトナクシテ之ヲ自己ノ爲ニ處分スル意思ヲ表明シタルトキハ横領罪ヲ構成スルモノトス (昭和二、二二、一一)

朝鮮林野調査令施行規則

第七條

○朝鮮林野調査令ニ依ル林野所有者ノ申告後ニ爲ス所有者ノ異動申告ハ査定ノ基礎ト爲ルモノニ非サルカ故ニ其ノ査定ニ於テ新所有者ノ權利ヲ確定スルコトナキハ勿論又右ノ異動申告ハ權利ノ得喪ヲ公示スル趣旨ノモノニ非サルカ故ニ不動産登記法ノ定ムル登記ト同一ノ效力ヲ有スルコトナキモノトス (大正一五、五、二八)

大	一五
刑	二四
刑	二四
刑	四二

大	一三
大	二二
大	二五
大	四三
大	四七
大	一五
大	一三
大	一四六

第八條

○林野調査中ノ所有權異動ハ當該官廳ニ於テ朝鮮林野調査令施行規則第八條ニ依リ之ヲ調査整理スルモ査定ノ效力ヲ生スルモノニ非ス
(大正一三、八、五)

大正三年制令第十六號

(土地調査令ニ依リ査定又ハ裁決ヲ經タル土地ノ登記又ハ證明ニ關スル件)

第一條

○大正三年五月制令第十六號土地調査令ニ依リ査定又ハ裁決ヲ經タル土地ノ登記又ハ證明ニ關スル件第一條第三項ノ規定ハ登記又ハ證明ヲ經タル所有權以外ノ權利中ニハ査定名義人自身ニ於テ設定セサルモ査定ニヨリ確定セラレタル所有權ト牴觸セサル權利ニ基キ設定セラレ査定名義人ト雖之ニ服從セサルヘカラサルモノアルヘキヲ以テ一應登記又ハ證明ヲ經タル所有權以外ノ權利者ノ權利ヲ尊重シ同規定ノ條件ヲ具備スルニアラサレハ之ヲ抹消スルヲ得ストスルモノニ過キス (大正七、一一、一九)

大	三
七	二
五	一五六
八七二	

○對抗スルコトヲ得ヘキ典當權「抵當權」ハ其對抗ヲ受クヘキ所有者カ土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人トナルモ其査定名義人ノ權利ト牴觸シテ相容レサルニ非サルヲ以テ其對抗力ヲ失フコトナシ
(大正八、五、六)

大	八
六	三三

○債權者カ債務者ノ所有トシテ現實ニ證明簿ニ證明シアル土地ニ對シ典當權ヲ實行スル爲メ競賣ノ申立ヲ爲スニハ其申立書ニ證明簿上ノ現所有者ヲ記載スルヲ以テ競賣法第二十四條第二項第一號ニ規定スル所有者ヲ記載スヘキ要件ヲ具備スルモノト爲スヘク從テ其競賣申立ニ基キ競賣手續ヲ完了シタルハ相當ナルヲ以テ其當時他ニ證明簿上ニ證明シアラサル所有者アリトスルモ右競賣ニ因ル競落ハ有效ニシテ競落人ハ競賣ノ目的物タル土地ニ付所有權ヲ取得シ典當權ハ競賣法第二條第二項ニ依リ消滅ニ歸スルモノトス (大正八、五、六)

大	八
六	三三

○土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人トナルモ典當權ノ對抗ヲ受クヘキモノナルトキハ其當然ノ結果トシテ典當權ノ實行ニ因リ競落人ノ取得シタル所有權ノ證明ニ對シ大正三年五月制令第十六號ニ依リ査定名義人ノ權利ニ牴觸スルモノトシテ其證明ヲ抹消セシムルノ權利ナシ (大正八、五、六)

大	八
六	三三

○査定ハ申告日ニ於ケル土地所有權ヲ確定スルモノナレハ申告日以後其査定名義人タル者ヨリ所有權ヲ取得シタル者カ所有權ニ付證明ヲ受ケタルトキハ其證明ハ査定ト牴觸スルモノニ非ス (大正八、八、二六)

○大正三年制令第十六號第一條ニ土地所有權カ土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ヲ經テ確定シタル場合ニ之ト牴觸スル登記又ハ證明ノ抹消申請ヲ許スコトヲ規定シタルハ單ニ査定又ハ裁決ノ效力ヲ確保スルノ趣旨ニ出テタルモノナレハ其抹消セラレヘキ登記又ハ證明ハ査定又ハ裁決ノ效力ニ對抗スルヲ得スシテ之カ爲メニ排除セラレヘキモノタルヲ要シ確定判決ト査定又ハ裁決ト其結果ヲ異ニスルモ兩立シテ其效力互ニ相侵スヘカラサル場合ニハ該確定判決ニ基キ爲シタル登記ハ同條ニ所謂牴觸スル登記トシテ抹消スルヲ得ス (大正一〇、二、三)

聯 ○大正三年制令第十六號ニ依リ抹消セラレヘキ登記又ハ證明中ニハ査定又ハ裁決ニ依リ確定セラレタル所有權ト牴觸スルモ確定判決ニ依リテ其效力ヲ保有セラレタル所有權ノ登記又ハ證明ハ之ヲ包含セサルモノト解スルヲ相當トス (大正一〇、二、三)

聯 ○大正三年制令第十六號ニ依リ抹消セラレヘキ登記又ハ證明中ニハ確定判決ニ依リ爲サレタル所有權ノ登記又ハ證明ハ之ヲ包含セサルニ依リ

八
六
四
七

一〇
八
四

一〇
八
五
四

甲カ乙トノ間ノ確定判決ニ基キ所有權移轉ノ證明ヲ受ケタル後土地調査令ニ依リ乙ノ所有ナリトノ査定又ハ裁決アリタリトスルモ其査定又ハ裁決ニ基キ前ニ甲ノ爲シタル移轉證明ヲ目シテ査定又ハ裁決ニ牴觸スル證明ナリトシテ之カ抹消ヲ申請スルコトヲ得ス從テ乙ノ申請ニ基キ登記官吏カ右抹消ヲ爲シ更ニ乙名義ニ所有權保存登記ヲ爲シタルトキハ該抹消及保存登記ハ不法ナリト雖該土地ノ所有權カ乙ヨリ丙ニ讓渡セラレ所有權移轉登記ヲ經由シタルトキハ甲ハ最早既判力ヲ理由トシテ其所有權ヲ丙ニ對シ主張スルコトヲ得サルニ依リ丙ニ對シ其所有權移轉登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得ス敍上ノ如ク丙ノ爲シタル所有權移轉登記ノ抹消ヲ求ムヘカラサル以上ハ其前ニ乙ノ爲シタル所有權保存登記ノミヲ分離シテ抹消スルコトヲ得サルニ依リ此抹消モ亦之ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス (大正一一、二、一七)

○甲カ自己所有ノ土地ニ付所有權保存ノ證明又ハ登記ヲ經由シタル後乙ニ信託シテ土地調査令ニ依ル所有申告ヲ爲シタル結果乙名義ニ査定アリタルトキハ甲名義ノ證明又ハ登記ハ大正三年制令第十六號第一條ニ依リ右査定ニ牴觸スルモノトシテ當然抹消セラレヘキ運命ニ在ルモノトス從テ其ノ後甲カ乙ニ對スル信託ヲ解除シ其ノ所有權ヲ回復シタリトスルモ曩ニ爲シタル證明又ハ登記ヲ其ノ儘利用シ所有權回復後ノ新

二
九
四
七
五

ナル證明又ハ登記ト同一視スルコトヲ得サルニ依リ更ニ乙ヨリ甲ニ對スル所有權移轉ノ證明又ハ登記ヲ受クルニ非サレハ其ノ所有權ヲ以テ査定名義人タル乙ヨリ其ノ所有權ヲ讓受ケタル第三者丙ニ對抗スルコトヲ得サルハ勿論甲ヨリ其ノ所有權ヲ讓受ケタル第三者丁モ亦丙ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス (大正一四、三、一〇)

○林野ノ所有權カ土地調査令又ハ朝鮮林野調査令ニ依ル査定又ハ裁決ヲ經テ確定シタル場合ニ於テ之ト牴觸スル登記アルトキハ林野ノ所有者ハ大正三年制令第十六號第一條又ハ第十條ノ規定ニ依リ登記名義人ノ關與ヲ要セスシテ自ラ其ノ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得ルモノナレハ之カ爲ニ登記名義人ニ對シ特ニ訴訟ヲ提起スル如キハ全ク無用ノコトニ屬シ之ニ付何等法律上ノ利益ヲ有セサルモノトス (大正一四、五、一五)

○査定ト證明トカ形式上牴觸セルカ故ニ大正三年制令第十六號ニ依リ證明ヲ抹消シ査定名義人ノ所有權保存登記ヲ爲シタル場合ニ於テモ査定名義人ノ所有申告後査定前ニ所有權カ證明簿上ノ所有名義人ニ移轉シタルモノニシテ實體上査定ト證明トノ間ニ牴觸ナキトキハ其ノ保存登記ヲ抹消シ抹消セラレタル證明ノ回復ヲ請求シ得サルヘカラス

(大正一五、三、一一)

○之カ回復ハ朝鮮不動産登記令第八條ニ依リ登記簿ニ回復スヘキ抹消證明ヲ轉載シ回復登記ヲ爲スヘキモノトス (大正一五、三、一一)

人事訴訟手續法

第十八條

○養子縁組ノ當事者間若ハ第三者ヨリ其當事者雙方ヲ相手取リタル訴訟ニ於テ養子縁組ノ成立又ハ不成立ヲ確定シタル判決ハ人事訴訟手續法第二十六條第十八條第一項ノ規定ニ準據シ第三者ニ對シテモ其既判力ヲ及スモノトス (昭和三、六、二二)

第二十六條

○第三者ヨリ提起スル養子縁組無効ノ訴ニ於テハ縁組ノ當事者ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク當事者ノ一人カ死亡シタル場合ニハ生存者ヲ以テ相手方ト爲スヘキモノトス (大正一三、二、二五)

○朝鮮人ノ養子縁組無効ノ訴ニ於テハ養父ノ生存スル場合ニハ養父及養子ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク養父ノ死亡シタル後ハ養母ヲ以テ縁組ノ當事者ニ準シ訴訟ノ相手方ト爲スコトヲ要スト解スルヲ妥當トス

大	大	大	大
一五	一五	一五	一五
二三	二三	二三	二三
三三	三三	三三	三三
三五	三五	三五	三五

大	大
一四	一四
三	三
一九六	一九六

(大正一三、一一、二五)

○養子タルコトヲ主張スル者ヨリ提起スル養子確認ノ訴ハ人事訴訟手續法第二十六條第二條ノ規定ニ準據シ養父ヲ以テ相手方トスヘク死後養子ナル場合又ハ養父死亡後ニ在リテハ朝鮮ニ於テ縁組ノ相手方ニ準セラルヘキ養母ヲ以テ相手方トスヘク養母カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方ト爲スヘキモノトス (大正一四、七、一〇)

○死後養子ヨリ提起スル養子確認ノ訴ハ養母カ既ニ他家ニ改嫁シ養家ニ在ラサル場合ニ於テハ養母ノ死亡シタル場合ト同様ニ檢事ヲ以テ相手方トスヘキモノトス (大正一五、二、二六)

○寡婦タル養母ハ婚家ヲ去リテ實家ニ復籍シタル後ト雖婚家ニ其ノ實子ノ存スルニ於テハ實子トノ血族關係ニ基ク扶養ノ義務其ノ他ノ權利義務ニ付重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ婚家ニ在ル養子ニ對シ養子縁組無效ヲ主張スルニ付正當ナル當事者トシテノ適格ヲ有スルモノトス (大正一五、九、二八)

○朝鮮人ノ養子縁組無効ノ訴ニ於テハ養父及養子ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク養父ノ死亡シタル後ハ養母及養子ヲ以テ相手方ト爲スモノナリト雖相續回復ノ訴ニ於テハ縱令其ノ内容ニ於テ縁組ノ當否カ審理セ

大 一三

二二

二三

大 一四

二二

二五七

大 一五

二三

一八

大 一五

一三

二六四

ラルル場合ナリトスルモ潜稱相續人ヲ相手方ト爲スヲ以テ足ル (昭和二、八、九)

○養子縁組ノ當事者間若ハ第三者ヨリ其當事者雙方ヲ相手取りタル訴訟ニ於テ養子縁組ノ成立又ハ不成立ヲ確定シタル判決ハ人事訴訟手續法第二十六條第十八條第一項ノ規定ニ準據シ第三者ニ對シテモ其既判力ヲ及スモノトス (昭和三、六、二二)

非訟事件手續法

第二十條

○親族會招集決定ヲ爲シタル裁判所カ前決定ヲ取消シ申請ヲ却下スル裁判ヲ爲シタルトキハ此ノ裁判ハ非訟事件手續法第二十條第二項ニ所謂申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ申立ヲ却下シタル裁判ニ該當スルニ依リ申立人ニ非サレハ之カ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス (昭和三、二、二〇)

朝鮮公證令

○朝鮮公證令ヲ以テ之ニ依ルコトヲ定メタル公證人法第六十條ニ於テハ同第三十九條第五項及第六項ノ規定ヲ私署證書ニ認證ヲ與フル場合ニ

昭 二

二四

二四三

昭 三

一五

一八五

昭 三

一五

四〇

準用セリ數人ノ囑託人カ其規定ニ依リ契印ヲ爲スニ當リテハ其中ノ一人ニ於テ契印ヲ爲スル以テ足レリトス (大正七、一二、六)

公證人法

○公正證書ノ記載事項ハ其ノ公正ノ目的ノ範圍内ニ於テハ完全ナル證據カヲ有スルモ其カ公證ノ目的ノ範圍外ノモノナルトキハ縱令其ノ成立ヲ認ムヘキ場合ニ於テモ之ヲ措信シテ事實認定ノ資料ニ供スルト否トハ事實承審官ノ自由ナル心證ニ基キテ決スルコトヲ得ヘキモノトス (大正一四、一二、一五)

○公正證書ニ記載セル事項カ過去ニ成立セシ法律所爲ニ付當事者ヨリ聽取リタル陳述ヲ錄取セルニ過キサレモノナルトキハ當該法律行爲ノ成立ノ眞否ハ公證ノ目的ノ範圍ニ屬セサルモノトス (大正一四、一二、一五)

第六十條

○朝鮮公證令ヲ以テ之ニ依ルコトヲ定メタル公證人法第六十條ニ於テハ同第三十九條第五項及第六項ノ規定ヲ私署證書ニ認證ヲ與フル場合ニ準用セリ數人ノ囑託人カ其規定ニ依リ契印ヲ爲スニ當リテハ其中ノ一人ニ於テ契印ヲ爲スヲ以テ足レリトス (大正七、一二、六)

競賣法

○競賣法ニ因ル競賣ニ關シテハ同法中特ニ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキ旨ノ規定アル場合ハ勿論特ニ其旨ヲ規定セサル場合ト雖競賣法中反對ノ規定ナキトキハ其性質ノ許ス限リハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキモノトス (大正三、三、一三)

○競賣法ニ因ル不動産競賣開始決定ニ對シテハ民事訴訟法第五百四十四條ヲ準用シテ異議ノ申立ヲ爲シ得ヘク其申立ニ關スル裁判ニ對シテハ同法第五百五十八條ヲ準用シテ即時抗告ヲ爲シ得ヘク右競賣開始決定ニ對シテ直ニ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニアラス (大正三、三、一三)

○競落許可決定ニ依リ競落人カ所有權ヲ取得スルニハ目的物カ眞正ニ債務者ノ所有ニ屬セシモノタルヲ要ス (大正六、五、一八)

○不動産競落ノ許可ニ付テノ異議申立ニ對スル決定ハ抗告ヲ許ス可キモノニ非ス (大正六、九、二五)

○競賣ノ基本タル抵當權ノ設定カ元來無効ナル場合ニハ競賣ニ依リテ實體上所有權移轉ノ效力ヲ生スヘキモノニ非ス (大正七、五、三)

○競賣法ニ依ル不動産競賣開始決定ニ對スル異議ノ裁判ニ關スル抗告ニ

競賣法

八六九

大	七	六	六	三	三
大	五	四	四	二	二
大	三五	七六七	四四三	四二一	四二一

大 七 五 九四九

大 一四 三 四八七

大 一四 三 四八七

大 七 五 九四九

當權ヲ實行スル爲メ競賣ノ申立ヲ爲スニハ其申立書ニ證明簿上ノ現所有者ヲ記載スルヲ以テ競賣法第二十四條第二項第一號ニ規定スル所有者ヲ記載スヘキ要件ヲ具備スルモノト爲スヘク從テ其競賣申立ニ基キ競賣手續ヲ完了シタルハ相當ナルヲ以テ其當時他ニ證明簿上ニ證明シアラサル所有者アリトスルモ右競賣ニ因ル競落ハ有效ニシテ競落人ハ競賣ノ目的タル土地ニ付所有權ヲ取得シ典當權ハ競賣法第二條第二項ニ依リ消滅ニ歸スルモノトス (大正八、五、六)

○土地所有者ニ於テ其土地ノ上ニ有效ニ典當權ヲ設定シ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ經タルトキハ爾後該土地ノ所有者ヨリ權利ノ移轉ヲ受ケ土地調査ノ結果査定名義人ト爲リタルモノアルトキト雖査定名義人ノ所有權ハ典當權設定者タル前所有者ノ權利ヲ承繼シタルモノニ過キスシテ査定ニ依リ前所有者ノ權利ト牴觸ヲ來スヘキモノニアラサルヲ以テ典當權ハ消滅スヘキ理由ナク典當權者ハ査定名義人ニ對シ之ヲ對抗シ得ヘキモノナレハ査定申告ノ日以後該典當權ノ實行ニ依リ其土地ノ競落人ト爲リタルモノハ完全ニ所有權ヲ取得スヘキモノトス (大正一〇、六、三)

○土地ノ上ニ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ受ケタルモノハ其後該土地ノ

八六三

一〇八二〇

所有權ヲ承繼シタルモノニ對シ當然對抗シ得ルモノナレハ典當權ノ實行ニ因リ該土地ノ所有權ヲ競落シタル者ハ未タ競落ニ因ル所有權取得ノ證明又ハ登記ヲ受ケサルトキト雖典當權設定ノ證明又ハ登記後ニ於テ該土地ノ所有權ヲ承繼シタルモノニ對シ亦當然對抗シ得ヘキモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ右承繼人ハ朝鮮民事令第十三條ニ所謂第三者ニ該當セス (大正一〇、六、三)

第八條 第九條

○競賣法第八條ニ違背シテ競賣ノ場所及日時ヲ利害關係人ニ通知セス又ハ同法第九條ニ違背シテ公告ト競賣トノ間ニ五日以上ノ期間ヲ存セシメサル等ノ事由ハ單ニ異議ノ原因タルニ過キサルモノニシテ斯ル手續上ノ瑕疵アルモ異議ノ申立ナクシテ競賣手續ノ完結シタルトキハ其ノ競賣ハ有效ニシテ何人モ右ノ事由ヲ以テ之ヲ無効ナリト主張スルコトヲ得サルモノトス從テ右ノ事由ハ會社カ株式讓渡人ニ對シ株金拂込不足額ノ辨濟ヲ請求スルノ妨ト爲ラサルモノトス (大正一五、一、一九)

第二十二條

○競賣ノ基本タル抵當權カ有效ニ設定セラレ其登記又ハ證明ヲ經タル場合ニハ抵當權消滅シタリトスルモ其抵當權抹消ノ登記又ハ證明ヲ受ク

一五三

一〇八二〇

第一條

○一月三分ノ利子ヲ附加シテ辨濟スヘキコトヲ約諾セル事實ニ基キ年五分ノ利息ノ請求ヲ認容スルハ其範圍ナルヲ以テ相當ナリトス (大正五、一一、一七)

○利息制限令ニ依リ利率ヲ定ムヘキ元金ハ當初ノ契約ノ元金額ナリトス而シテ内入辨濟アリ其元金額減少スルコトアルモ當初ノ契約依然トシテ存續スル限りハ利率ノ標準ニ變更ヲ來タスコトナシ (大正五、一二、二八)

○辨濟提供ノ場合ニ於テモ約定利率ニ依ル利息ノ提供ヲ爲スヲ要セス法定ノ制限ニ相當スル利息ヲ提供スレハ足ルモノニシテ如上ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒ現實ニ之ヲ爲シタルモノトシテ有效ナリ (大正六、三、三〇)

○朝鮮民事令施行ノ日迄ニ利息總額カ未タ元本額ニ達セサル場合ニ於テハ其元金ニ對シ同令施行後利息制限令ニ依ル利率ノ制限内ニ於テ利息ヲ生スヘク敢テ元本同額ニ制限セラルルモノニアラス (大正七、四、三〇)
○利息制限令ハ金錢ノ外ニ米穀ノ消費貸借及米穀ノ支拂ヲ目的トスル債務ノ損害賠償額ノ豫定ニ付テ亦其ノ適用アルモノトス (大正一五、七、六)

【反對】

○利息制限令ニ於ケル利息ハ金錢ナルコトヲ要ス元本使用ノ對價トシテ金錢以外ノモノヲ給付スル場合ニハ同令ノ適用ナシ (大正六、四、二四)

○利息制限令ハ金錢貸借ニ關スル契約上ノ利息ニ限定セラレ其他ノ債務ニ關スル利息ニ付テハ之ヲ制限セラレタルモノニアラス (大正六、六、五)

○利息ハ元本ト同一種類ノ物タルコトヲ必要トセス (大正一五、九、一〇)

○金錢貸借ニ關スル利息率ニ付テモ利息制限令ノ適用アルモノトス (大正一五、九、一〇)

○金錢貸借ニ關スル利息率ノ利率ハ貸借當時ニ於ケル利率ノ價格ト元本タル金錢トノ比例ニ依リテ定ムヘキモノトス (大正一五、九、一〇)

○舊利息規程ノ施行中成立シタル金錢貸借ニ關スル契約上ノ利息ニシテ利息制限令施行後ニ涉リ之カ請求ヲ爲ス場合ニ在リテハ同令施行前ノ分ニ付テハ舊利息規程ノ制限利率ニ從ヒ同令施行後ノ分ニ付テハ同令第一條ニ定ムル制限利率ニ從ハサルヘカラス然レトモ當事者間既ニ任意上授受ヲ了シタル分ニ付テハ同令施行ノ前後ヲ問ハス之ヲ制限内ニ引直シテ計算スヘキモノニアラス (大正七、四、三〇)

○債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脱シテ計算セラレタルモノナリトスルモ

大	五	三	八	三〇
大	五	三	一〇	四
大	六	四	二	九
大	七	五	三	四
大	一	五	一	六

大	六	四	三	四
大	六	四	四	七
大	一	五	二	五
大	一	五	二	五
大	一	五	二	五
大	七	五	三	五

- 利息規例第三條ニ利息ノ總額ハ元本額ヲ過クルヲ得ストアルハ既ニ支拂ヒタル分ヲモ合算スルノ意義ナリトス (明治四四、六、二〇)
- 重利ハ利息規例ノ禁スル所ナレハ其契約ハ無効ナルモ任意ニ支拂ヒタルトキハ其返還ヲ請求スルヲ得ス (明治四五、四、二四)
- 利息規例中契約上ノ利息制限ニ關スル部分ハ利息制限令ニ依リ其他ノ部分ハ朝鮮民事令ニ依リ各其施行ト同時ニ廢止セラレタリト解釋スヘキモノトス (明治四五、六、一八)
- 舊利息規例中契約上ノ利息制限ニ關スル規定ノ部分ハ明治四十四年制令第十三號利息制限令ニ依リ廢止セラレ其他ノ規定ノ部分ハ明治四十五年制令第七號朝鮮民事令ニ依リ廢止セラレタリト解スヘキモノトス (大正七、四、三〇)
- 舊利息規例第三條「利息總額ハ元本額ニ過グルコトヲ得ス」ノ規定ハ朝鮮民事令ニ依リ廢止セラレル迄ハ利息制限令ノ施行後ト雖仍ホ其效力ヲ有シタルモノトス (大正七、四、三〇)
- 舊利息規例第三條ノ規定ヲ適用スヘキ債權ニ付朝鮮民事令施行前ニ於テ既ニ其利息ノ總額カ元本額ニ達シタルトキハ爾後其債權ニ付テハ絕對ニ利息ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス (大正七、七、九)
- 舊利息規例第四條「利息ハ元本ニ換作スルヲ得ス」ノ規定ハ朝鮮民事令ニ依リ廢止セラレタルモノトス (大正七、七、五)

利息制限法

○利息制限法ハ朝鮮ニハ施行セラルルコトナシ (明治四四、四、二九)

森林令

明	大	大	大	大	明	明
四	七	七	七	七	四	四
一	五	五	五	五	一	一
二	五	六	三	三	四	三
五	五	七	四	四	六	〇

第二十九條

- 舊韓國森林法第十九條ニ依リ所定ノ期間内ニ地籍報告ヲ爲サスシテ國有ニ歸シタルモノト看做サレタル山坂ト雖立木アリテ數十年來禁養セラル事實アルトキハ該山坂ハ明治四十四年六月制令第十號森林令第二十九條ニ所謂國有森林ニ該當スルハ勿論數十年來禁養ノ事實ハ同條ニ所謂永年禁養ニ該當スルニ依リ同條所定ノ要件ヲ具備セル事實ヲ認メテ貸付ヲ受ケタルモノト看做サレタリト判定スルハ違法ニ非ス (大正二、七、一)
- 森林令第二十九條ニ依リ國有森林ニ付貸付ヲ爲シタルモノト看做サレタルトキト雖特ニ其森林ノ讓與ヲ受クルニ非サレハ所有權ヲ取得スルコトナキモノトス (大正五、五、二六)
- 民有森林山野ニシテ地籍報告ヲ怠リタル結果國有ト看做サル場合ニ在リテハ森林山野ノ基地ハ勿論其基地上ニ生立セル樹木ノ所有權モ共ニ國有ニ歸スヘキモノトス (大正六、七、二七)
- 約十年間禁養セラレタルモノナル以上ハ森林令第二十九條ニ所謂永年禁養シタル森林ニ該當ス (大正六、一、一六)
- 國有森林ノ貸付ヲ受ケタル者ハ貸付契約ニ從ヒ森林ノ產物ヲ取得スル

大	大	大	大
六	六	五	二
四	四	三	二
九	七	六	二
二	三	〇	九

ノ權利ヲ有スルモ其貸付ニヨリテ森林ノ立木ノ所有權ヲ常ニ取得スル
 モノニ非サルコトハ森林令第七條森林令施行規則第十三條同第十四條
 等ノ規定ニ徴シ自ラ明カナレハ森林令第二十九條ニ依リ永年禁養シタ
 ル國有林ノ貸付ヲ受ケタル者ト看做サレタル者モ亦其法律上ノ推定ノ
 ミニ因リテ直ニ立木ノ所有權ヲ取得スヘキモノニ非ラス然レトモ貸付
 ヲ受ケタルモノト看做サレタル者カ其貸付ヲ受ケタル後ニ栽植シタル
 樹木ハ權原ニ因リテ附屬セシメタルモノナルヲ以テ其權利ハ民法第二
 百四十二條ノ規定ニ從ヒ之ヲ妨ケラルルコトナキヲ以テ貸付ヲ受ケタ
 ルモノノ所有ニ屬ス (大正七、一一、二九)

○森林令施行前永年禁養シタル事實ノ存スル以上ハ該禁養者ニ於テ森林
 令施行ト同時ニ當然其國有森林ノ貸借ヲ受ケタル者ト看做サルヘク別
 ニ行政官廳ノ許可ヲ必要トスルモノニアラス (大正七、一〇、二五)

○森林令第二十九條ニ依リ永年禁養シタル國有森林ノ貸付ヲ受ケタルモ
 ノト看做サレタル者ハ朝鮮總督ヨリ國有森林ノ讓與ヲ受ケタルニアラサ
 レハ所有權ヲ取得スルモノニアラス故ニ其讓與ヲ受ケサル間ニ他人ニ
 之ヲ讓與セルトキハ其讓與ヲ受ケタル者ニ於テ所有權ヲ取得スヘキモ
 ノトス (大正一一、二、六)

○明治四十四年官通牒第三〇〇號大正二年官通牒第四十六號ハ行政官廳
 ノ執務便宜ノ爲メ國有私有ノ區分標準ヲ示シタルニ過キス裁判所ハ事
 實ニ依リ何人ノ所有ニ屬スルヤヲ決スヘク單ニ該通牒ニ列舉セル標準
 ニ依リ國有私有ヲ決スヘキモノニ非ス從テ同通牒ニ所謂「舊森林法施
 行前全部又ハ一部ノ播種又ハ植樹ヲ行ヒタルモノ又ハ播種ヲ行ハス單
 ニ禁養シタルモノニシテ森林令施行前平均樹齡十年以上ニ達シタルモ
 ノ等ヲ以テ永年禁養ノモノト認ムヘキ旨」ノ記載モ亦當然裁判所ヲ羈
 束スルモノニ非サルノミナラス同通牒ニ列舉スルモノヲ以テ永年禁養
 ノモノト認メサルヘカラストスル慣習ハ之ヲ認メス (大正一一、四、一〇)

森林令施行規則

第三十一條

○隨意契約ニ依リテ國有森林ノ產物ヲ買受ケシ者カ朝鮮總督又ハ地方長
 官ノ許可ヲ受クルコト無クシテ搬出若ハ採取未濟ノ產物又ハ年期賣却
 契約ニ依リテ生シタル權利ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供シタルトキト雖夫等
 ノ處分ハ當然無効ニ非スシテ唯當該官憲ニ於テ賣却行爲ヲ解除スルノ
 一事由タルニ過キササルモノトス (大正一五、四、二七)

大
 一五
 一三
 九七

大
 三
 一〇
 九七

大
 三
 一〇
 一四

大
 七
 五
 七三

大
 七
 五
 八六

森林法(舊韓國) (明治四十四年制令第十號) (森林令ヲ以テ廢止)

- 森林山野ノ所有者カ隆熙二年法律第一號森林法第十九條ニ依リ申告ヲ爲ササルトキハ當然其所有ヲ失ヒ國有ト看做サルヘキモノトス (明治四四、六、一七)
- 森林法第十九條ニ依リ地籍報告ヲ爲スヘキ土地ハ森林山野ニ限ルモノトス (大正二、三、一八)
- 舊森林法第十九條ノ所有者トハ森林山野ニ對スル眞實ノ所有者ヲ指稱ス從テ其所有者ニシテ届出ヲ爲ササル以上ハ該森林山野ハ當然國庫ニ歸屬シ同時ニ其所有者ハ之ニ對スル所有權ヲ喪失ス (大正二、七、一一)
- 舊韓國森林法第十九條ニ依リ所定ノ期間内ニ地籍報告ヲ爲サスシテ國有ニ歸シタルモノト看做サレタル山坂ト雖立木アリテ數十年來禁養セル事實アルトキハ該山坂ハ明治四十四年六月制令第十號森林令第二十九條ニ所謂國有森林ニ該當スルハ勿論數十年來禁養ノ事實ハ同條ニ所謂永年禁養ニ該當スルニ依リ同條所定ノ要件具備セル事實ヲ認メテ貸付ヲ受ケタルモノト看做サレタリト判定スルハ違法ニ非ス (大正二、七、一五)
- 舊韓國森林法第十九條ノ届出期限ハ届出ヲ爲ス能ハサリシ原因事情ノ如何ヲ問ハサルモノトス (大正二、八、五)
- 森林法所定ノ期間内ニ地籍申告ヲ爲シタリヤ否ヤノ事實ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ屬セス (大正二、一一、二二)
- 森林山野ノ共有者ノ一人カ隆熙二年法律第一號森林法第十九條所定ノ期間内ニ地籍届出ヲ爲シタルトキハ他ノ共有者ヲ代表スルコトナク又其共有タルコトヲ明示セサルトキト雖國

大	大	大	大	大	大	大
二	二	二	二	二	二	四
二	二	二	二	二	二	一
三	三	二	二	二	二	二
三	三	九	九	六	六	九
三	三	九	九	六	六	九

有ト看做サルルコトナシ從テ他ノ共有者モ該森林山野ノ共有權ヲ失ハス (大正二、一一、一六)

- 舊森林法第十三條ニハ所有者ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ森林山野ニ墳墓ヲ設クルコトヲ得スト規定シ同法第十七條ハ之ニ違背シタル場合ノ處罰規定ヲ設クルヲ以テ同法施行後ハ所有者ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ森林山野ニ墳墓ヲ設置スルヲ得ス從テ隨意ニ國有森林山野ニ墳墓ヲ設置シ得タル從來ノ慣例ハ同法施行後行ハルルコト能ハサルニ至リタルモノトス (大正四、三、一六)
- 舊韓國森林法第十九條ニ依リ届出ハ森林山野ノ所有者ヨリ之ヲ爲スヘク然ラサレハ總テ國有ト看做サルヘキモノナレハ所有者ニアラサル者ヨリ其届出ヲ爲シタリトスルモ其者カ所有權ヲ取得スヘキ謂ハレナキモノトス (大正六、一〇、一六)
- 舊韓國森林法第十三條ノ所有者トアル中ニハ私人ハ勿論國家ヲモ包含ス (大正六、一一、一八)
- 隨意ニ國有森林山野ニ墳墓ヲ設クルコトヲ得タル從來ノ慣習ハ舊韓國森林法第十三條ノ實施ニ依リ廢止セラレタルモノトス (大正六、一二、一八)
- 從來ノ慣習カ新ニ發布セラレタル強行法規ニ反シ廢止セラレタルトキハ縱令後日其強行法規力廢止セラレルモ從前ノ慣習カ當然效力ヲ復活スルコトナシ (大正六、一二、一八)
- 舊韓國森林法ニ依リ地籍報告ノ有無ハ職權調査事項ニ非サルヲ以テ當事者ヨリ之ヲ主張スルニ非サレハ裁判所ニ於テハ其事實ノ有無ヲ調査セサルヘカラサルモノニアラス (大正六、一二、二七)
- 舊森林法第十九條ノ所有者トハ森林山野ニ對スル眞實ノ所有權ヲ指稱スルモノナレハ眞實

大	大	大	大	大	大	大
六	六	六	六	六	四	二
四	四	四	四	四	三	二
二	二	二	二	二	三	三
二	二	二	二	二	三	三
二	二	二	二	二	三	三

ノ所有者ニアラサル者ノ届出ハ何等ノ效力ヲ生セス (大正七、二、八)

○凡ソ法令ニ於テ一定ノ期限内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シタルトキハ特別ノ規定アラサル限リ届出ヲ受理裁斷スル職責ヲ有スル官憲ニ到達スルコト其期限内ニ在ルコトヲ要スルヲ通例トス然レトモ舊韓國森林法第十九條ニ依ル地籍届ハ同條所定ノ期限内ニ必スシモ農商工部大臣(日韓併合後ハ朝鮮總督府)ニ到達スルコトヲ要セス其期限内ニ其下級官廳タル府郡廳ニ提出セラレタル事實アル以上ハ尙之ヲ有效ト解スルヲ相當トス (大正七、四、一)

○森林山野ノ共有者ノ一人カ舊森林法所定ノ期間内ニ地籍申告ヲ爲シタルトキハ他ノ共有者ヲ代表スルコトナク又其共有タルコトヲ明示セサルトキト雖國有ト看做サルルコトナシ從テ他ノ共有者モ該森林山野ノ共有權ヲ失ハス (大正八、三、二八)

朝鮮鑛業令

第一條

○大正四年制令第八號朝鮮鑛業令施行後ト雖舊法タル鑛業法及同施行細則施行時代ト同シク鑛業權ヲ目的トシ他人ノ管理ニ於テ採鑛セシムルコトハ之ヲ許サス從テ其採鑛契約ハ無効タルヘキモノトス (大正五、四、二八)

○タングステン(重石)ハ朝鮮鑛業令施行前ニハ鑛業法ノ適用ヲ受クヘキ鑛物ニ非サリシト雖同令施行後ハ同令ノ適用ヲ受クヘキ鑛物ナレハ其

七
五
八二

七
五
二二三

八
六
一四三

五
三
五四七

鑛業權ヲ目的トシ他人ノ管理ニ於テ採鑛セシムルコトヲ許ササルモノトス (大正五、四、二八)

第十七條

○鑛業權ノ讓渡ハ之ヲ鑛業原簿ニ登録スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノナルカ故ニ鑛業權讓渡契約ニ因リテ生シタル讓受人ノ權利ハ其登録ヲ經サル間ハ當事者間ニ債權的效力アルニ過キス從テ其讓受人ハ未タ鑛業權者ニ非ス而シテ鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者ハ刑罰ニ處セラルルコト朝鮮鑛業令第四十四條第一項ノ規定スル所ナルヲ以テ鑛業權ノ讓渡人カ其登録前ニ於テ其讓受人ニ對シ鑛物ノ採掘權ヲ許與スル契約ノ如キハ法令ノ許容セサルモノナルコト明瞭ナリ (大正九、一一、一九)

○朝鮮鑛業令ハ鑛業權ノ讓渡ハ鑛業原簿ニ登録ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生セサルコトヲ規定スルヲ以テ登録前讓受人ニ於テ鑛物ヲ採掘シタルトキハ鑛業權ヲ有セスシテ採掘シタルモノトナリ刑罰ニ處セラルルヲ免レス從ス登録前ニ讓渡ノ效力ヲ生セシメ讓受人ニ鑛物ヲ採掘スルノ權ヲ許與シ其代償金ヲ定ムルモ其契約ハ公益規定ニ反シ不法ノ原因ヲ帶有スルニ依リ無効ニ歸スルト同時ニ授受シタル代償金ハ不法ノ原

五
三
五四七

九
七
四三五

因ノ爲メニ給付シタルモノニシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス (大正一一、六、三〇)

第十九條

○鑛業權ノ讓渡ハ法規ニ從ヒ登録ヲ受クルニアラサレハ其效力ヲ生セス從テ讓渡ノ契約成立スルモ登録ヲ受ケサル以上ハ鑛業權名義人ヲ以テ其鑛業權者ト認ムヘキモノトス (大正五、一一、一九)

第四十四條

○鑛業權ノ讓渡ハ之ヲ鑛業原簿ニ登録スルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セサルモノナルカ故ニ鑛業權讓渡契約ニ因リテ生シタル讓受人ノ權利ハ其登録ヲ經サル間ハ當事者間ニ債權的效力アルニ過キス從テ其讓受人ハ未タ鑛業權者ニ非ス而シテ鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者ハ刑罰ニ處セラルルコト朝鮮鑛業令第四十四條第一項ノ規定スル所ナルヲ以テ鑛業權ノ讓渡人カ其ノ登録前ニ於テ其讓受人ニ對シ鑛物ノ採掘權ヲ許與スル契約ノ如キハ法令ノ許容セサルモノナルコト明瞭ナリ (大正九、一一、一九)

鑛業法 (舊韓國)

(大正四年制令第八號) (朝鮮鑛業令ヲ以テ廢止)

○鑛業權者ハ自身ニ又ハ自己ノ責任ニ於テ鑛業代理人ヲ以テ鑛業ヲ管理シ鑛物ノ採掘ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ其鑛業權ヲ目的トシ鑛業權者ニアラサル他人ニ採掘ノ權利ヲ授與シ之ニ鑛業ノ管理經營ヲ一任シ鑛物ノ採掘收益ヲ爲サシムルカ如キ契約ハ無効ナリトス (大正五、一一、三〇)

(大正五、一一、三〇)

○舊韓國光武十年法律第三號鑛業法ニハ鑛業權ノ定義ヲ掲ケサルモ鑛業權トハ即チ鑛區内ニ於テ鑛物ヲ採掘シ及取得スル權利ヲ謂フモノト解シ得ヘキニ依リ鑛業權ト鑛物採掘權トハ必スシモ別異ノモノト謂フチ得ス (大正五、一一、三〇)

○鑛業權者ニ非サル他人ニ採掘ノ權利ヲ授與シ之ニ鑛業ノ管理經營ヲ一任スルニ非スシテ鑛業權者カ他ノ者ト契約シ鑛業權者自ラ手ヲ下シテ採取ヲ爲サス其者ヲシテ鑛業權者ノ監督ノ下ニ其從業者トシテ鑛物ノ採取ニ從事セシメ採取シタル鑛物ニ對スル權利ハ採取ト同時ニ鑛業權者ヨリ採取者ニ移轉セシムルカ如キハ鑛業權者自カラ鑛業ノ管理經營ヲ爲スモノニ外ナラサレハ如上ノ契約ハ無効ニ非ス (大正六、一一、二七)

○鑛業權者カ自己ノ經營スル鑛山ニ於テ其監督ノ下ニ採取者ヲシテ鑛物ヲ採取セシムル場合ニ於テモ鑛物ノ所有權ハ先ツ鑛業權者ニ歸スヘキハ當然ナレトモ鑛業權者ト採取者トノ間ニ於ケル契約ヲ以テ採取者カ採取シタル鑛物カ鑛業權者ノ所有ニ歸スルト共ニ即時ニ該所有權ヲ採取者ニ移轉スヘキ旨ヲ定ムルハ契約當事者ノ自由ニシテ之ヲ禁止スヘキ理由ナシ (大正六、一一、二七)

大 二 九三二

大 五 三九五

大 九 七四五

大 五 三九〇〇

大 五 三九〇〇

大 六 四〇一一

大 六 四〇一一

○舊韓國光武十年法律第三號鑛業法第二條ニ於テ國ノ所有トスル鑛滓トハ鑛業權者ノ所有ニ屬セサルモノニシテ鑛滓存在ノ狀態カ之ヲ取ルニ更ニ鑛業法ニ依ラシムル必要アル程度ニアルモノヲ指稱スル法意ナリト解スヘキモノトス (大正八、三、三一)

大
八
六
一五二

漁業令

第一條

○漁業權者カ自己ノ有スル漁業權ニ基キ他人ト共同シテ漁業ヲ經營スヘキ旨ノ契約ト漁業權者カ自己ノ有スル漁業權ヲ他人トノ共有ト爲スヘキ旨ノ約旨トハ彼此其ノ内容ヲ異ニシテ前者ノ約旨中ニハ當然後者ノ約旨ヲ包含スルモノト爲スヲ得ス故ニ單ニ前者ノ契約ヲ主張シ漁業權者ニ對シ其ノ漁業權ノ共有ニ付テノ許可申請手續ヲ請求スルハ其ノ請求自體ニ於テ失當タルヲ免レサルモノトス (大正一四、五、一九)

大
四
三
一〇一

第二條

○沿海部落民カ其ノ地先海面ニ於テ營利ノ目的ヲ以テ海苔ヲ養殖採取スル業ハ第二種免許漁業ニ屬シ漁業令第二條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ免

許ヲ受クルニ因リテ之ヲ爲スノ權利ヲ取得スルモノニシテ其ノ免許ヲ受クルニ非サレハ何人モ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス (大正一五、七、二三)

大
一五
一三
一九四

○前項ノ海苔養殖採取業ハ從來ノ慣行ニ因リテハ之ヲ爲スノ權利ヲ取得スルコトナシ (大正一五、七、二三)

大
一五
一三
一九四

第三條

○入漁權ハ漁業令第三條ニ依リ免許ヲ受ケ漁業權ヲ得タル者アル場合他人カ其ノ免許ノ目的トナリタル漁場ニ於テ從來ノ慣行ニ基キ入會漁業ヲ爲ス權利ヲ指稱シ常ニ漁業權ノ存在繼續ヲ前提トスルモノナレハ既ニ漁業權ノ消滅シタル後ニ於テハ入漁權ヲ主張スルヲ得ヘキニ非ス (大正一四、五、五)

大
一四
三
一八九

第六條

○漁業權ニ付定メラレタル存續期間ハ其ノ期間滿了ヨリ少クトモ三箇月前免許ノ申請ヲ爲シテ之ヲ更新シ得ヘキモノナルモ該申請ニ對スル許否ノ決裁未了ノ儘期間滿了シタルトキハ漁業權ハ該期間ノ滿了ト同時ニ當然消滅ニ歸スヘキモノニシテ右更新ノ免許申請ヲ爲シタルカ爲期間滿了後モ其ノ決裁アルマテハ尙存續スルモノト解スヘキ根據ナシ

(大正一四、五、五)

第八條

○漁業權讓渡ノ契約ハ朝鮮總督ノ許可ニ依リ始メテ權利移轉ノ效力ヲ生
スルモノニシテ其許可以前ニ在リテハ單ニ當事者間ニ權利ヲ移轉スヘ
キ債權的權利義務ヲ生スルニ止マルモノトス (大正六、一一、九)

○漁業權讓渡ノ契約アリタルモ未タ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ漁業權
ノ移轉セサルニ先タチ其漁場ニ於テ利益ノ收得ヲ爲シタル讓受人ノ行
爲ハ讓渡人ノ漁業權ヲ侵害シタルモノニ外ナラス (大正六、一一、九)

○漁業令第八條ニ依レハ漁業權ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルトキハ抵當又
ハ讓渡ノ目的ト爲スヲ得ヘキニ依リ許可ヲ條件トシテ強制競賣ヲ爲ス
ヲ妨クルモノニ非サルコト言フ俟タスト雖他ニ貸付許可ヲ受ケタル者
アル場合ニ於テハ其借受人ハ借受期間内漁場ヲ使用シテ漁業ヲ爲スノ
權利ヲ有シ該權利ハ別ニ何等ノ手續ヲ履踐スルヲ要セスシテ第三者ニ
對シテモ之ヲ對抗スルコトヲ得ヘキニ依リ其貸付ヲ無視シ何等ノ負擔
ナキ状態ニ於ケル完全ナル漁業權トシテ競賣ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス
若シ斯ノ如キ場合ニ於テ完全ナル漁業權トシテ競賣ヲ爲ストキハ借受
人ハ該強制執行ニ對シテ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ニ基キ異議

ヲ主張スルヲ得ヘキモノトス (大正六、一〇、一六)

漁業組合令

○漁業組合ノ有スル漁業權ニ付一部ノ組合員カ組合規約ニ依リ一定ノ地
先海面ニ於テ特定ノ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル場合ニ於テ組合規約ニ別
段ノ定ナキ限り該組合員ハ其ノ權利ヲ有セサル他ノ組合員ニ對シ其ノ
地先海面ニ於テ一定ノ期間同種ノ漁業ヲ爲スコトヲ認容スル趣旨ノ契
約ヲ爲スコトヲ妨ケテスル契約ハ一ノ債權契約トシテ有效ナリトス
(大正一三、九、二六)

水利組合令

○郡守ハ水利組合ニ對スル第一次ノ監督官廳トシテ組合費ノ不當ナル賦
課ニ付更正ノ手續ヲ執ルコトヲ得ヘキ職務ヲ有スルカ故ニ其ノ職務ニ
關シ金品ヲ收受シタルトキハ收賄罪ヲ構成ス (昭和四、七、一八)

國有未墾地利用法

○朝鮮ニ於テ國有未墾地利用法施行以前ハ民有ニ非サル荒蕪地ニ對シテ

大 四 二 一九〇

大 六 四 九四二

大 六 四 九四二

大 六 四 八二〇

大 三 二 一四二

刑 四 一六 二五

ハ何人ト雖之ヲ開墾終了スルニ因リテ所有權ヲ取得シタル慣習アリ
(大正五、三、一〇)

○國有未墾地利用法ハ其施行以前ニ於テ既ニ終了シタル事實ニ對シテハ
其效力ヲ遡及スルコトナシ (大正五、三、一〇)

○國有未墾地利用法ニ於テハ緣故權ナルモノノ存在ヲ認メス (大正一四、
二、二〇)

○曾テ國有未墾地ノ貸下ヲ受ケタル者ハ未タ貸下ヲ受ケタルコトナキ者
ニ比シ有利ノ地位ニ在リトセハ即前者カ後者ト同時ニ貸下出願ヲ爲シ
タル場合ニ當該官廳ハ事實上前者ニ對シ許可スル方法ヲ採リ若ハ後者
ノミ出願シタル場合ニ前者ノ同意書ヲ添附セサレハ許可セサル方針ヲ
採リ其ノ他之ニ類スル事實アリトセハ前者ハ後者ノ出願スルニ際シ自
ラ出願ヲ爲ササル不作爲ノ義務ヲ負擔スルカ或ハ同意書ヲ添附スルカ
如キ共力行爲ヲ爲ス義務ヲ負擔スルト同時ニ後者ハ其ノ報酬トシテ金
錢ヲ給付スル契約ヲ締結シタルトキハ該契約ハ法律上有效ナリ (大正
一四、二、二〇)

第六條

○國有未墾地利用法ニ依リ貸付許可ヲ受ケタル者カ許可ニ基キ土地ニ對

シ堤防ノ設置開墾ニ着手スル行爲ハ行政處分ニアラスシテ一ノ私法上
ノ行爲ニ外ナラサルモノトス斯ノ如キ行爲ニシテ他人ノ權利ヲ侵害ス
ルトキハ不法ニ他人ノ權利ヲ侵害スルモノナルカ故ニ被害者カ加害者
ヲ對手トシテ其權利ノ救済ヲ求メ其權利確認及侵害ノ排除ヲ請求シ得
ヘキモノトス斯カル場合ニ於テ司法裁判所カ其私法上ノ爭ヲ判決スル
ニ際シ自ラ行政官廳ノ處分ノ當否ニ涉リテ説明スル所アルモ這ハ行政
處分其モノヲ取消シ又ハ變更スルヲ直接ノ目的ト爲スモノニアラサレ
ハ司法權ヲ以テ行政權ノ權域ヲ侵スモノト謂フヲ得ス (大正六、一、二、一
一)

○國有未墾地利用法第六條第二項ノ規定ハ國有未墾地利用權カ相續ノ目
的タルヲ得ル趣旨ヲ明ニシ同法施行規則第二十條第二項ノ規定ハ相續
ニ因リ同利用權ヲ取得シタルモノハ所定ノ届出ヲ爲スヘキコトヲ命ジ
タルニ過キスシテ之ヲ以テ民法組合ニ關スル規定ノ適用ヲ排除スルノ
律意ニアラス (大正八、五、六)

○國有未墾地ノ貸付ヲ受ケタル者カ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ其權利
ヲ他人ニ讓渡スルモ其讓渡ニ依リ直ニ國有未墾地利用權ノ移轉ノ效果
ヲ生スルモノニ非スト雖該讓渡行爲ハ必スシモ全然無効ナルニ非スシ

大	六
八	四〇九二
六	
三〇	

大	五
二四	三
三	四三四
一五	

テ當事者間ニハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ權利ヲ移轉スヘキ債權債務ノ關係發生スルモノトス (大正一〇、二、一八)

○數人カ共同シテ國有未墾地ノ貸付許可ヲ受ケ其共有者ノ一人死亡シ其持分カ他ノ共有者ニ歸屬スルニ至リタル場合ニ共有者ノ一人甲カ他ノ共有者乙ヨリ死亡セル共有者ノ持分ノ讓渡ヲ受ケ更ニ之ヲ丙ニ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタルトキハ甲ハ丙ニ對シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ乙ヨリ其持分ヲ讓受ケ更ニ之ヲ丙ニ移轉スヘキ債務アルモノナレハ甲カ丙ニ對シ斯ル債務ノ存スルコトヲ爭フ場合ニハ縱シ甲ハ乙ト係爭持分ノ讓渡ヲ受クル契約ヲ爲シタルニ止リ未タ朝鮮總督ノ許可ナクシテ甲カ其持分ヲ取得スルニ至ラサルモ丙ハ甲ニ對シ甲丙間ノ讓渡契約ニ基キ甲ニ前示ノ如キ義務アルコトノ確認ヲ求メ得ヘキモノトス (大正一〇、二、一八)

驛屯土特別處分令施行規則

○驛屯土特別處分令施行規則ニ依ル國有地小作人心得ノ四ニ所謂「特別ノ事由アルトキ」トハ必スシモ其一乃至三ニ例示セラレタル如キ重大ナル事由ノミヲ指示シタルモノト解セサルヘカラサルモノニ非スシテ

大 一〇 八 三

大 一〇 八 三

如何ナル事由ヲ以テ之ニ該當スルモノト認ムルヤハ專ラ行政官應ノ主觀的判斷ニ依リテ之ヲ定メ得ヘキモノトスル趣旨ナルハ勿論其特別ノ事由カ契約締結後ニ發生シタルコトヲ要スルモノニ非スシテ契約締結當時既ニ存シタルモノト雖尙之ヲ以テ特別ノ事由ト謂フヲ妨ケサル趣旨ナリト解スルヲ相當トス (大正一〇、二、二三)

○大正元年朝鮮總督府令第四〇號驛屯土特別處分令施行規則第九條カ大正九年朝鮮總督府令第一一〇號ニ依リ賣拂契約ヲ爲シタル借受人ニ限リ唯轉貸ヲ許シテ借地權ノ讓渡ヲ禁止シタルハ賣拂契約ニ因ル權利ト引離シテ借地權ノミヲ讓渡スルコトヲ禁止スル趣旨ニシテ許可ヲ得テ賣拂契約ニ因ル權利ヲ讓渡スルニ當リ之ト共ニ借地權ヲ讓渡スルコトヲ禁止セルモノニ非ス (大正一五、九、二八)

驛屯土賣拂處分ニ關スル件

(大正九年八月) 朝鮮總督府令第一一〇號

○驛屯土賣拂處分ニ因ル權利ニ付許可ヲ受クル條件ヲ以テ之カ讓渡契約ヲ爲シ讓渡人ニ於テ許可申請ヲ爲スヘキコトヲ約スルハ有效ニシテ讓渡人ハ讓受人ニ對シ當該許可申請ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノトス (昭和三、一、三一)

大 一五 一三 二六

昭 三 一五 一三

山林原野國有私有區分標準

(明治四十五年朝鮮總督府訓令第四號)

○明治四十五年朝鮮總督府訓令第四號ハ行政官廳ノ執務便宜ノ爲メ國有私有ノ區別標準ヲ示シタルニ過キス裁判所ハ事實ニ依リ何人ノ所有ニ屬スルヤヲ決スヘク單ニ該訓令ニ列舉セル標準ニ依リ國有私有ヲ決スヘキモノニアラサルコトハ從來ニ於テモ亦然リシ所トス (大正三、一、二、一一)

三二五二

明治四十四年官通牒第三百號

○明治四十四年官通牒第三百號大正二年官通牒第四十六號ハ行政官廳ノ執務便宜ノ爲メ國有私有ノ區分標準ヲ示シタルニ過キス裁判所ハ事實ニ依リ何人ノ所有ニ屬スルヤヲ決スヘク單ニ該通牒ニ列舉セル標準ニ依リ國有私有ヲ決スヘキモノニ非ス從テ同通牒ニ所謂「舊森林法施行前全部又ハ一部ノ播種又ハ植樹ヲ行ヒタルモノ又ハ播種ヲ行ハス單ニ禁養シタルモノニシテ森林令施行前平均樹齡十年以上ニ達シタルモノ等ヲ以テ永年禁養ノモノト認ムヘキ旨」ノ記載モ亦當然裁判所ヲ羈束スルモノニ非サルノミナラス同通牒ニ列舉スルモノヲ以テ永年禁養ノ

モノト認メサルヘカラストスル慣習ハ之ヲ認メス (大正二、四、一〇)

三二〇九七

大正二年官通牒第四十六號

○明治四十四年官通牒第三百號大正二年官通牒第四十六號ハ行政官廳ノ執務便宜ノ爲メ國有私有ノ區分標準ヲ示シタルニ過キス裁判所ハ事實ニ依リ何人ノ所有ニ屬スルヤヲ決スヘク單ニ該通牒ニ列舉セル標準ニ依リ國有私有ヲ決スヘキモノニ非ス從テ同通牒ニ所謂「舊森林法施行前全部又ハ一部ノ播種又ハ植樹ヲ行ヒタルモノ又ハ播種ヲ行ハス單ニ禁養シタルモノニシテ森林令施行前平均樹齡十年以上ニ達シタルモノ等ヲ以テ永年禁養ノモノト認ムヘキ旨」ノ記載モ亦當然裁判所ヲ羈束スルモノニ非サルノミナラス同通牒ニ列舉スルモノヲ以テ永年禁養ノモノト認メサルヘカラストスル慣習ハ之ヲ認メス (大正二、四、一〇)

三二〇九七

國稅徵收令

○白露ノ前後ニ依リ土地ノ秋收カ買主ニ移轉シ若ハ移轉セスト爲スハ畚ノ賣買ニ關スル慣習ニシテ當事者ノ契約ノ内容ヲ解釋スルニ當リテノ規準ニ過キス競賣法及民事訴訟法ニ依ル強制競賣竝國稅徵收令ニ依ル

公賣ニ在リテハ競落ニ因リテ競落人若ハ買受人ニ移轉スル權利ノ内容ハ法律ノ規定ニ依テ定マリ當事者ノ意思ヲ解釋スル餘地ナク從テ白露ノ前後ニ依リ區別アルコトナシ (昭和四、九、二七)

國稅徵收法

○國稅徵收法第十八條ニ依レハ不動産ノ差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フカ故ニ差押物ノ公賣ニ因リ果實亦當然買受人ニ移轉シ特ニ果實ニ對スル公賣手續アルヲ要セス (昭和四、九、二七)

酒稅令

○酒稅令竝其ノ施行規則ニ規定スル納稅擔保物ニ對スル國ノ權利ハ其ノ不動産ノ上ニ爾後ニ設定セラルヘキ私法上ノ物權ニ優先シ登記ノ順位ニ從ヒ抵當權者ト同一ノ地位ヲ保持スルコトヲ以テ内容トスルモノニシテ私法上ノ抵當權ニ外ナラス (昭和二、四、一二)

○納稅擔保物ノ上ニ國ノ有シタル抵當權ハ代納者ノ納稅義務者ニ對シテ有スル求償權ノ擔保ノ爲メニ代位辨濟ノ規定ニ準シ代納者ニ移轉ス (昭和二、四、一二)

朝鮮登錄稅令

○當事者間契約ノ内容タル法律行爲ヲ以テ登記原因ト爲サスシテ當事者ノ合意ニ基ク他ノ法律行爲ヲ以テ登記原因ト爲シタレハトテ朝鮮登錄稅令ノ規定ニ違反スルモノニ非ス又刑法第百五十七條ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非ス (大正七、三、五)

土地臺帳規則

(大正三年四月朝鮮總督府令第四十五號)

○土地臺帳名義書換ノ請求ハ許容スヘキモノニ非ス (大正六、七、九)

○登記所カ所有權保存登記ヲ抹消シタルトキハ登記所ハ不動産登記法第十一條ノ趣旨ニ則リ之ヲ土地臺帳所管廳ニ通知スヘク其ノ通知ヲ受ケタル土地臺帳所管廳ハ土地臺帳規則第二條ノ趣旨ニ則リ土地臺帳ヲ整理スヘキモノトス (大正一〇、六、三)

地稅令施行規則

○郡守ハ地稅令施行規則ニ依リ證明官吏ノ通知ニ因ルニアラサレハ結數連名簿上ニ於ケル所有名義ヲ抹消スルコト能ハサルヲ以テ其抹消申告

朝鮮登錄稅令 土地臺帳規則 地稅令施行規則

昭	四	二六	二三〇
昭	二	二四	九〇
昭	四	一六	三
昭	二	二四	九〇

大	七	五	一三七
大	六	四	六五
大	一〇	八	二〇〇

ヲ爲スヘキコトヲ請求スルハ不必要ノ行爲ヲ求ムルモノニシテ其請求ハ之ヲ棄却スヘキモノトス (大正四、一二、九)

結數連名簿規則

(大正三年朝鮮總督府令第四十二號) (地稅令施行規則ニ依リ廢止)

○一門共有ノ土地ニ付一門協議ノ上結數連名簿ニ共有者ノ一人ノ所有名義ヲ以テ登錄シタル事實存スルトキハ之ニ依リテ共有者カ其一人ニ對シ權利ヲ信託讓渡シタルモノト認定スルコトヲ得ヘキモノトス (大正六、五、八)

○結數連名簿ニシテ納稅管理人ノ住所氏名及納稅者ノ住所氏名ヲ記載シアルモノニ付テハ納稅者ハ即チ土地所有者ニシテ該簿記載ノ土地ハ納稅者ノ所有ナリト認メサルヘカラサルモノニ非ス (大正七、三、八)

明治四十三年制令第三號

(地稅等ノ特別免除ニ關スル件)

○明治四十三年朝鮮總督府制令第三號第一條第三號ニ依ル欠逋金納入義務ノ免除ハ第三者ノ納入スヘキ欠逋金ヲ包含ス (明治四四、六、一三)

關稅法

大	四	六	大
三	四	七	七
六	一	五	一
	二	六	六
	四	七	

○甲カ稅關貨物取扱人タル乙ノ名義ヲ用キ其業務ニ從事中關稅逋脫ヲ圖リタルトキハ乙ハ朝鮮關稅令並關稅法第八十二條ノ規定ニ從ヒ其責ニ任セサルヘカラス從テ甲カ關稅逋脫ヲ圖ル際若シ官ニ發覺スル場合ニハ貨物取扱名義人タル乙カ其責ニ任スヘキモノナリトノ事ハ當初ヨリ豫見セラレ且當然生スヘキ結果ナルヲ以テ甲ノ關稅逋脫ノ不法行爲ハ直接徵收權ヲ侵害スルト同時ニ間接ニ貨物取扱名義人タル乙ノ財產權ヲ侵害スルモノニシテ其不法行爲ト財產權ニ因ル損害トノ間ニハ因果ノ關係アリ其不法行爲者ハ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス (大正五、一〇、六)

市場規則

第一條

○市場規則第十九條ニ於ケル同規則第八條ノ許可ヲ受ケタル營業者カ營業所トシテ許可ヲ受ケタル市場外ニ於テ其營業ヲ爲シタルトキ之ヲ處罰スル規定ハ許可ヲ受ケタル營業者ノ水產物ノ販賣其モノヲ禁止スル趣旨ニアラス專ラ行政上斯ル營業上ノ取締ヲ爲ス必要ノ爲メ該營業者カ水產物ノ販賣ヲ營業所トシテ許可ヲ受ケタル市場外ニ於テ競賣ノ方

大	五	三	大
三	七	四	九
九	四	九	

法ニヨリ營業的ニ爲スコトヲ禁止スルモノニシテ則チ水産物販賣ノ一定ノ手段ヲ禁止スルノ趣旨ト解スヘキモノナレハ營業者カ右禁止規定ニ反シテ爲シタル水産物ノ賣買ハ無効ニアラス (大正八、七、三一)

○大邱穀物商組合市場ニ於テ賣方買方間ニ總解合ヲ爲シタル場合ニハ右總解合ノ決議ニ加ハラサル委託者ト雖其ノ決議ニ服従スヘキ商慣習ノ存在スルコトハ之ヲ認メ得ヘキモ此慣習ハ事實タル慣習ニシテ法タル效力ヲ有スル慣習ニ非ス (大正一一、二、二七)

○取引市場ニ於テ行ハルル商慣習ハ反對ノ意思ノ認メ得サル限り普通其慣習ヲ知リ之ニ依ルノ意思ヲ有スルモノト認ムルヲ相當トス (大正一一、二、二七)

○米穀ノ定期取引ニ付テ行ハルル轉賣買戻ハ賣買當事者ノ一方カ相手方ニ通知スルコトナク又其ノ承諾ヲ受クルコトナクシテ市場ニ於テ前取引ト反對ノ賣買ヲ爲スニ因リテ自己ノ賣約ト買約トヲ相殺シ全然其契約關係ヨリ脫離スルコトヲ謂ヒ多クノ場合ニ於テハ契約當事者一方ノ賣約若ハ買約ト買戻約若ハ轉賣約トヲ差引消合スルモノニシテ其ノ行爲ハ定期取引ニ關スル商慣習ニ依リテ認メラルル一種特別ノモノトス (大正一一、八、七)

八
六
四
六
九

三
一
〇
四
九

三
一
〇
四
九

三
一
〇
三
五

○俗ニ解合ト稱スルモノハ市場變調ヲ呈シ賣方買方雙方死力ヲ盡シテ相爭ヒ一方倒ルレハ假令違約處分ヲ爲スモ相手方亦多少ノ損害ヲ免レサルカ如キ場合ニ於テ賣方買方合議ノ上所謂解合直段ヲ協定シ其ノ直段ヲ以テ轉賣買戻ノ形式ニ依リ總賣買ノ差引消合ヲ爲スヲ謂フモノナレハ其ノ行爲ノ性質ハ轉賣買戻ノ行爲ニ於ケルト全ク同一ニシテ畢竟解合ハ之ヲ其ノ賣方又ハ買方ノ一方ヨリ箇々ノ契約ニ付テ觀察スレハ即チ轉賣買戻ニ外ナラサルモノトス (大正一一、八、七)

○朝鮮ニ於テ米穀ノ延取引ヲ行フ所ノ組合其ノ他ノ市場ニ於テハ一般ノ取引所ニ於テ行ハルル所謂バイカイ附出ノ方法ニ類似スル取引ノ行ハルル慣習アリ (大正一四、二、二〇)

○朝鮮ニ於テ米穀仲買業者ハ委託ヲ受ケタル米穀ノ延取引ニ付所屬ノ市場ニ立會ヒ取引物件ニ付或値段ヲ唱ヘテ賣リ又ハ買ハムトスルモ他ノ仲買中之ニ應スル者ナキ爲自ラ其ノ賣買ノ相手方ト爲リテ取引ヲ爲サムト欲シ且市場ノ監督者及立會中ノ仲買人之ニ異議ヲ唱ヘサルトキ自ラ其ノ賣買ノ相手方ト爲リテ取引ヲ成立セシムルコトヲ得ルハ從來行ハレタル慣習ニシテ其ハ法タル效力ヲ有スルモノトス (大正一四、二、二〇)

三
一
〇
三
五

二
四
三
七

二
四
三
七

第八條

○市場規則第八條ニ所謂競賣トハ競賣物件ニ對スル多數ノ購買希望者ヲシテ價格ノ競争ヲ爲サシメ最高價ノ申出ヲ爲シタル者ニ競落スル賣却方法ヲ汎稱スルモノトス (昭和三、一一、二二)

金融組合令

第三十五條

○金融組合令第三十五條ニ依レハ組合長ハ理事ト共同シテ組合ヲ代表ス
ト規定セルニ依リ金融組合カ外部關係ニ於テ組合ノ意思ヲ表示シ之カ爲ニ行爲ヲ爲ス場合ニハ組合長ト理事ト共同スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス (大正一五、一一、一九)

○該規定ハ金融組合ノ確實ヲ期スルカ爲ニ設ケタル強行規定ニ外ナラス而シテ事實タル慣習ハ強行規定ニ反セサル場合ニ限り認メラルヘキモノナルヲ以テ右規定ニ反シ共同代表ニ依ラサルモ可ナリトスル慣習ノ如キハ到底之ヲ認容スルコトヲ得ス (大正一五、一一、一九)

○金融組合カ銀行ト當座預金契約ヲ締結シ小切手ニ因リ預金ヲ引出ス場合ニハ組合長及理事兩名ニテ之ヲ振出スニ非サレハ全然無効ニシテ銀

昭
三
刑
一五
二〇

大
一五
一三
四〇六

大
一五
一三
四〇六

行ハ之ニ對シ支拂ヲ爲スノ義務ナシ (大正一五、一一、一九)

○業務ノ執行トハ對内關係ニ於テ組合ノ事業ニ關スル法律上又ハ事實上ノ業務ヲ執行スルコトヲ謂フモノニシテ組合ノ代表トハ全然別個ノ觀念ニ屬ス (大正一五、一一、一九)

第三十六條

○金融組合理事ノ使用人ニ對スル監督ノ怠慢カ使用人ノ犯行ニ機會ヲ與ヘタリトスルモノヲ以テ直ニ使用人ノ犯行ト共同不法行爲ノ關係ニ立ツモノト謂フヲ得ス (大正一五、四、一六)

○金融組合ノ使用人カ臨時雇ヨリ書記見習ニ次テ書記ニ昇進シタルトキト雖同一雇傭契約ノ繼續ニ過キサル限り身元保證ハ階級ノ變更ニ依リテ消滅スルモノニ非ス (大正一五、四、一六)

○業務ノ執行トハ對内關係ニ於テ組合ノ事業ニ關スル法律上又ハ事實上ノ業務ヲ執行スルコトヲ謂フモノニシテ組合ノ代表トハ全然區別ノ觀念ニ屬ス (大正一五、一一、一九)

布教規則

第九條

大
一五
一三
四〇七

大
一五
一三
四〇七

大
一五
一三
五

大
一五
一三
五

大
一五
一三
四〇七

○大正四年八月朝鮮總督府令第八十三號布教規則第九條第十二條ノ規定ノ精神ニ照シ同規則ニ所謂教會堂ノ設立者トハ教會堂ノ主宰者即チ教會堂ヲ中心トシテ結合セル信者全員ヲ代表スル者ヲ指稱シ財產權ノ歸屬者ヲ指稱スルモノニ非サルコト明白ナリ尤モ設立者ニシテ財產權ノ主體ヲ兼ヌルコトアリト雖這ハ布教規則ノ要求スル所ニ非ス (大正一三、一一、二五)

○布教規則ニ所謂教會堂ノ設立者ハ宗教團體ノ一機關ニシテ單純ニ之カ有效無效ヲ爭フハ全然宗教部内ノ紛議ニ屬シ私法上ノ權利關係ノ存否ニ關スル爭ニ非サルヲ以テ司法裁判所ノ管轄ニ屬セス (大正一三、一一、二五)

○布教規則ニ所謂教會堂ノ設立者タルコトノ確認ヲ求ムル訴訟ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セサル訴訟ナルニ依リ之ヲ不適法トシテ却下セサルヘカラス (大正一三、一一、二五)

第十二條

○大正四年八月朝鮮總督府令第八十三號布教規則第九條第十二條ノ規定ノ精神ニ照シ同規則ニ所謂教會堂ノ設立者トハ教會堂ノ主宰者即チ教會堂ヲ中心トシテ結合セル信者全員ヲ代表スル者ヲ指稱シ財產權ノ歸屬者ヲ指稱スルモノニ非サルコト明白ナリ尤モ設立者ニシテ財產權ノ主體ヲ兼ヌルコトアリト雖這ハ布教規則ノ要求スル所ニ非ス (大正一三、一一、二五)

屬者ヲ指稱スルモノニ非サルコト明白ナリ尤モ設立者ニシテ財產權ノ主體ヲ兼ヌルコトアリト雖這ハ布教規則ノ要求スル所ニ非ス (大正一三、一一、二五)

寺刹令

第五條

○朝鮮ニ於テハ皇室若クハ官廳ヨリ寺院ニ下賜シタル田地山林ハ縱令衆僧ノ決議アルモ絕對ニ處分スルコトヲ得サルヲ從來ノ慣習トス (明治四四、四、一〇)

○寺院ニ於ケル房主トハ尼ノ專稱ニアラス一般のニハ山内ノ主僧ヲ房主ト稱スルモ平安南道及黃海道地方ニ在テハ小寺ノ住持ヲモ房主ト稱スルモノトス (大正三、九、二九)

○寺刹令施行前ニ於テ房主一人ノ在住スル場合ニ該寺ニ屬スル田土ヲ處分スル必要アルトキハ慣習上本山寺院ノ承認ヲ經ルコトヲ要スルモ本山寺院ヲ有セサル寺院ニ在テハ房主一人ニテ之カ處分ヲ爲シ得ヘキ慣習ナリトス (大正三、九、二九)

○寺刹令施行以前舊韓國時代ニ於テ皇室若クハ官廳ヨリ寺院ニ下賜シタル

大	大	明	大
三	三	四	三
二	二	一	二
四六三	四六三	一三三	二〇六

大	大	大
三	三	三
二	二	二
二〇七	二〇七	二〇六

ル田畚山林ハ衆僧ノ決議アルモ絶對ニ之ヲ處分スルコトヲ得ストノ慣習ハ寺院カ私法上ノ法律行為ニ依リ之ヲ處分スル場合ニ適用アルニ止マリ公法上ノ關係ニ因リ寺有ノ田畚若クハ山林カ國庫若クハ其他ニ歸屬スルコトヲ妨クルモノニアラス (大正五、一〇、一三)

○寺刹令第五條ニ規定セル寺刹ニ屬スル財産處分ノ許可ヲ條件トシテ其處分ヲ爲スヘキ債務ヲ負擔スル行為ハ寺刹令第五條ニ所謂處分ノ行為中ニ包含セス (大正八、一一、二一)

○明治四十四年六月制令第七號寺刹令第五條ハ寺刹ノ財産ヲ保護スル爲住持等ニ於テ任意ニ寺刹所有ノ土地建物等ノ貴重品ヲ處分スルコトヲ禁止シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ爲シタル一切ノ處分行爲ヲ無効トスル旨趣ノ規定ナリトス (昭和二、二、一五)

○明治四十四年七月朝鮮總督府令第八十四號寺刹令施行規則第七條ハ行政監督上ノ取締規定タルニ過キスシテ寺刹令第五條ノ適用ヲ受クヘキ寺刹所有ノ土地建物等貴重品ノ範圍ヲ限定シ又ハ之カ所有權取得ノ公示方法ヲ定メタル趣旨ニ非ス (昭和三、八、三一)

寺刹令施行規則

第七條

○明治四十四年七月朝鮮總督府令第八十四號寺刹令施行規則第七條ハ行政監督上ノ取締規定タルニ過キスシテ寺刹令第五條ノ適用ヲ受クヘキ寺刹所有ノ土地建物等貴重品ノ範圍ヲ限定シ又ハ之カ所有權取得ノ公示方法ヲ定メタル趣旨ニ非ス (昭和三、八、三一)

面制

○面ノ出納ニ關シ現實ニ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ收入ヲ受領スル權限ハ會計員ニ屬シ面長ニ屬セス故ニ面カ第三者ヨリ金員ヲ借入レントスル場合ニハ面ノ代表者ハ面長ナルモ會計員ニ於テ借入金ヲ受領スルニ非サレハ消費貸借ノ效力ヲ生セス (昭和四、三、八)

○債權カ法定期間ノ經過ニ因リ消滅時効ニ罹ルヘキモノナルコトハ普通一般ニ知悉セルモノト認ムヘキモノナレハ債務者カ時効完成後ニ至リ債務ノ承認ヲ爲シタルトキハ一應時効完成ノ事實ヲ知リテ其ノ利益ヲ拋棄シタルモノト推認スルヲ相當トス (昭和四、四、一九)

○時効ニ因リ消滅シタル債務ノ承認ヲ爲シ時効ノ利益ヲ拋棄スル場合ノ如キハ面制第四條ノ二及面制施行規則第四十八條ニ所謂新ナル義務ノ

大	五	三	七〇
大	八	六	五六九
昭	二	四	三
昭	三	五	二四二

昭	三	一	五	二
昭	四	一	六	四
昭	四	一	六	九

面制施行規則 民法上ノ金錢債務ノ支拂延期及手形等ノ權利保存行爲ノ期間延長ニ關スル件 大正元年制令第一號

九一四

負擔又ハ權利ノ拋棄ニ該當スルモノニ非ス (昭和四、四、一九)

面制施行規則

○時効ニ因リ消滅シタル債務ノ承認ヲ爲シ時効ノ利益ヲ拋棄スル場合ノ如キハ面制第四條ノ二及面制施行規則第四十八條ニ所謂新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄ニ該當スルモノニ非ス (昭和四、四、一九)

私法上ノ金錢債務ノ支拂延期及手形等ノ權利

保存行爲ノ期間延長ニ關スル件

(昭和二年四月緊急勅令第九十六號)

○支拂猶豫令第一條ハ昭和二年四月二十二日以前ニ辨濟期ノ到來シタル債務ニ適用セラルハキモノニ非ス從テ右債務ニ對シテハ同月二十二日ヨリ五月十二日迄ノ間モ尙遲延利息ヲ附スヘキモノトス (昭和三、三、九)

大正元年制令第一號

○大正元年制令第一號但書ノ規定及朝鮮總督ノ右規定ニ依ル供託所ノ指定ハ朝鮮ノ各道ニ數箇ノ供託所ヲ配置シ其ノ所在道ノ區劃ヲ以テ其ノ所管區域ト爲シ之ヲシテ其ノ地ニ於テ爲スヘキ一切ノ供託事務ヲ取扱ハシムル趣旨ニ出テタルモノト解スルヲ相當トス (大正一四、三、三)

○所管區域ヲ一ニセル數箇ノ供託所存在スルトキ何レノ供託所ニ供託スヘキカハ供託原因ノ如何其ノ他各種供託ノ性質ニ從ヒテ之ヲ選定スヘキモノト解スルヲ妥當トス (大正一四、三、三)

朝鮮總督府令第一百號

○大正元年朝鮮總督府令第四〇號驛屯土特別處分令施行規則第九條カ大正九年朝鮮總督府令第一一〇號ニ依リ賣拂契約ヲ爲シタル借受人ニ限リ唯轉貸ヲ許シテ借地權ノ讓渡ヲ禁止シタルハ賣拂契約ニ因ル權利ト引離シテ借地權ノミヲ讓渡スルコトヲ禁止スル趣旨ニシテ許可ヲ得テ賣拂契約ニ因ル權利ヲ讓渡スルニ當リ之ト共ニ借地權ヲ讓渡スルコトヲ禁止セルモノニ非ス (大正一五、九、二八)

代書業取締規則

○代書業者カ債權ノ讓渡ヲ受クルコトヲ禁止シタル法規存スルコトナシ (大正五、一二、二二)

郵便法

朝鮮總督府令第一百號 代書業取締規則 郵便法

九一五

大	昭	昭	昭
四	三	四	四
二	五	六	六
三	八	九	九

大	大	大
五	五	四
三	三	三
九	二	三

○郵便物ヲ名宛人カ受領シタリトノ事ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外 其之ヲ主張スルニ於テ利益ヲ有スル者ヨリ舉證スヘキ責任アルモノト ス (大正四、九、二八)

○郵便物ノ内容證明ハ其内容トスル文書カ書留ヲ以テ發送人ヨリ名宛人 ニ發送セラレタルコトヲ證明スルモノナレトモ其内容トスル文書ノ記 載カ果シテ眞實ノ事實ニ符合スルヤ否ヤニ付テハ公正ノ證明力ヲ有ス ルモノニアラス (大正七、四、二三)

朝鮮總督府郵便所長服務規程

(大正二年三月) 朝鮮總督府訓令第八號

○同規程第二條第二項カ郵便所長ノ第三者ノ行爲ニ因ル民事上ノ損害賠 償責任ヲ規定セルモノナリトセハ訓令ヲ以テハ斯ル事項ヲ定メ得ヘキ モノニ非サレハ同服務規程ハ法律トシテ一般遵由ノ效ナシト雖モ當事 者カ同服務規程ヲ援用シ契約ノ内容ト爲スコトハ何等妨ナシ尙該條項 ハ雇員又ハ傭人ノ行爲カ犯罪行爲ナルトキト雖モ賠償責任アル旨ノ規 定ナリ (大正九、三、二)

渡船營業取締規則

○渡船營業ヲ爲スニ付官廳ノ許可ヲ受クルモ爲メニ渡船營業權ナル一ノ 財產權ヲ生スルモノニアラサレハ渡船營業權ナルモノヲ以テ讓渡ノ目 的ト爲スモ其讓渡ハ無効ナリ (大正四、六、八)

明治三十三年法律第十七號

(商法中署名スヘキ場合ニ關スル件)

○明治三十三年法律第十七號商法中署名スヘキ場合ニ關スル件ニ所謂捺 印トハ記名者ノ印章ヲ押捺スルヲ謂フモノニシテ捺印ノ如キハ之ニ該 當セス (大正一一、九、二二)

咸鏡南道令第一號

○大正元年十一月二十五日施行朝鮮總督府咸鏡南道令第二號面及洞里有 財產管理規定第二條第一項面及洞里有財產ノ處分ヲ爲サムトスルトキ 又ハ負擔附贈與ヲ受ケムトスルトキハ府尹又ハ郡守ノ認可ヲ受クヘシ トノ規定ハ面及洞里有財產ノ處分ヲ爲サムトスルニハ府尹又ハ郡守ノ 認可ヲ受クルコトヲ要シ其認可ヲ受クルコトナクシテ爲シタル處分ハ 之ヲ無効トスル法意ナリトス (大正六、一一、二七)

大	四
大	三
大	二六
大	七
大	五
大	三二
大	九
大	七
大	六

大	四
大	三
大	二八七
大	二
大	九
大	三六七
大	六
大	四
大	二九二

墳墓及位土

墳墓

- 所有者カ所有地内ニ埋葬スル場合ニハ墳墓界限ノ步數ヲ遵守スルヲ要セス (隆熙三「明治四二」九、二一)
- 刑法大全第三十二條第二項勅任官ハ六品ニ一十步ヲ減ストハ同條第一項ノ五十步ヨリ一十步ヲ減スルノ旨意ナリ (明治四三、九、二三)
- 所有地内ニ侵入シ埋葬シタル墳墓ノ掘移ヲ請求スル事件ハ所有權ノ侵害排除ヲ要求スル程度ニ於テ訴訟物ノ價額ヲ算定シ之ニ依リテ裁判所ノ管轄ヲ定ムヘキモノトス (明治四三、一〇、一五)
- 自己ノ所有地内ニ暗葬シタル者アル場合ニ於テ何人ノ所爲ナルヤヲ知ルコト能ハサルトキハ警察處分ヲ求メ公告ノ上其死屍ヲ掘移スルハ不當ニ非ス (明治四四、六、一七)
- 墳墓界限ニ關スル規定ハ土地カ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ適用ナシ從テ入葬地カ他人ノ所有ニ屬スルトキハ界限侵犯ヲ理由トシテ掘移ヲ請求スルヲ得ス (明治四四、九、二七)
- 陵ニハ内壕字外壕字アルモ其内外壕字ノ區域ヲ一定セル法規慣習之ナシ (大正元、一一、二二)

大	明	明	明	明	隆
元	四	四	三	三	三
二	一	一	一	一	一
七	三	九	四	九	四

- 舊時朝鮮ニ於テハ一私人カ封山禁山其他特ニ入葬ヲ禁止セラレタル土地ニアラサル國有ノ山地ニ墳墓ヲ設ケ其周圍ヲ永年禁養スルトキハ其墳墓ノ莎草及永年禁養シタル區域内ノ地所ノ所有權ヲ取得シタル慣習ナリトス (大正元、一一、二八)
- 現時朝鮮ニ於テ墳墓ヲ掘移スルニ付官廳ノ許可ヲ要スル法規ナシ (大正三、八、一九)

- 陵園墓ノ内壕字内ニ編入セラレタル土地ハ何人ノ所有タルヲ問ハス當然王室ノ有ニ歸スヘキモノトス (大正三、一〇、三〇)
- 山主ナル文字ハ墳墓所有者ノミニ限り指稱スルニ非スシテ山坂所有者ヲモ指稱スルモノトス (大正三、一一、二四)
- 舊森林法第十三條ニハ所有者ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ森林山野ニ墳墓ヲ設クルコトヲ得スト規定シ同法第十七條ハ之ニ違背シタル場合ノ處罰規定ヲ設クルヲ以テ同法施行後ハ所有者ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ森林山野ニ墳墓ヲ設置スルヲ得ス從テ隨意ニ國有森林山野ニ墳墓ヲ設置シ得タル從來ノ慣例ハ同法施行後行ハルルコト能ハサルニ至リタルモノトス (大正四、三、一六)
- 墳墓ハ遺骸又ハ遺骨ヲ安置スル爲地上ニ設ケラレタル一ノ設備ニシテ

大	大	大	大	大
四	三	三	三	元
三	二	二	二	二
九	五	四	三	一
七	四	九	二	〇

必ス土地ニ定着スヘキモノナルモ其基地タル土地ト墳墓ノ設備トハ必
 スシモ常ニ同一所有者ニ屬セサルヘカラサルモノニアラスシテ他人ノ
 所有地上ニ墳墓ヲ設ケ之ヲ所有スルコトヲ得ルハ往々見ル所ノ事例ナ
 ルヲ以テ墳墓設備ノ所有權ト其基地タル土地ノ所有權トハ之ヲ別箇ニ
 觀察スルヲ妨ケス從テ其基地カ墳墓所在山坂ノ一部タル場合ニハ聽訟
 期限ニ關シテハ基地ハ寧ロ山坂ト其運命ヲ共ニシ墳墓ノ設備自體ハ必
 スシモ之ヲ山坂ト同一ニ論スルヲ得サルモノトス (大正五、一、七)

○舊刑法大全第十六條ニ所謂聽訟スル期限ハ民事詞訟ハ二十年以内ニ在
 ルモノト定ムル旨ノ規定ハ民事ノ訴訟ハ訴訟ヲ提起シ得ヘキ時ヨリ起
 算シ二十年ヲ經過セルトキハ同法施行ノ前後ヲ問ハス總テ聽訟ノ限ニ
 アラストスル趣旨ナレハ縱令同法施行以前ニ行ハレタル大典會通ニ聽
 訟期限ノ定ナカリシ墳墓設備ニ關スル訴訟ノ如キモノト雖其施行後ニ
 於テハ其適用ヲ受クヘキモノトス (大正五、一、七)

○右聽訟期限ノ規定ハ實體上ノ權利ノ得喪ニ關スル規定ニアラスシテ訴
 權ノ消長ニ關スル訴訟法上ノ規定ト見ルヘキモノナルヲ以テ其適用ニ
 付何等經過法ノ規定ナク又訴訟ノ種類ヲ限定セサル以上ハ從前ノ法律
 ニ依リ既ニ聽訟期限ヲ經過セルモノニ適用ナキハ勿論從前ノ法律ニ聽

大
五
三八〇五

大
五
三八〇五

訟期限ノ定メナカリシモノト雖舊刑法大全施行前既ニ二十年ヲ經過シ
 タルトキハ同法施行後ハ出訴ヲ許ササルモノトス (大正五、一、七)

○朝鮮ニ於テ祖先ノ墳墓所在地タル山坂ノ所有權ハ宗孫ノミニ專屬スル
 コトアリ又門中若クハ門中一派ノ共有ニ屬スルコトアリ必スシモ宗孫
 ノ專有若クハ一門ノ共有ニ屬スヘキモノナリトノ慣習アルニ非ス何人
 ノ所有ナリヤハ一々事實問題ニ屬スヘキモノトス (大正六、六、二二)

○隨意ニ國有森林山野ニ墳墓ヲ設クルコトヲ得タル從來ノ慣習ハ舊韓國
 森林法第十三條ノ實施ニ依リ廢止セラレタルモノトス (大正六、二二、一
 八)

○朝鮮ニ於テ祖先ノ墳墓ノ存スル山坂ハ之ヲ讓渡ノ目的物トスルヲ得ス
 トスル慣習ナシ而シテ墳墓其モノト基地トハ別個ニ觀察シテ各別ニ所
 有權ノ目的ト爲シ得ヘキヲ以テ墳墓ノ所有權ヲ保有シテ其墳墓所在ノ
 山地又ハ基地ノ所有權ヲ讓渡スルヲ妨ケス (大正七、九、一〇)

○朝鮮ニ於テ共同祖先ノ墳墓アル山坂ノ所有權ハ其宗孫ニ屬スルコトア
 リ或ハ共同祖先ノ子孫タル一門若クハ門中一派ノ共有ニ屬スルコトア
 リ必スシモ宗孫ノ單獨所有ニ非サレハ子孫全體ノ共有ナリトノ慣習ア
 ルコトナシ其何人ノ所有ナルヤハ事實問題ニ屬ス (大正八、一、三一)

大
五
三八〇五

大
六
四四九

大
六
四二二三

大
七
五七二

大
八
二六

○朝鮮ニ於テ他人ノ承諾ヲ得テ其ノ所有地内ニ墳墓ヲ設置セシ者ハ之ヲ所有スルカ爲他人ノ土地ニ付地上權ニ類スル一種ノ物權ヲ取得スルモノトス (昭和二、三、八)

○他人ノ土地ニ其ノ承諾ヲ得シテ墳墓ヲ設ケシ者ト雖二十年間平穩且公然ニ墳墓ノ基地ヲ占有セシトキハ時効ニ因リテ他人ノ土地ニ付地上權ニ類スル一種ノ物權ヲ取得スルモノトス斯ル權利ニ付テハ證明若ハ登記ヲ受クルコトナクシテ之ヲ第三者ニ對抗シ得ヘキ慣習ナリ (昭和二、三、八)

聯 ○朝鮮ニ於テ門中又ハ其ノ一派カ祖先ノ墓地又ハ祭位土ヲ共同所有スル場合ニ於テハ慣習上常ニ所謂合有ノ法律關係ニシテ共有ノ法律關係ハ存在セス (昭和二、九、二三)

○墳墓ノ基地ニ付慣習上認メラレタル他物權ハ當該墳墓ヲ所有スル爲ノモノニ過キサレハ其ノ基地ニ更ニ墳墓ヲ新設シ其ノ他別異ノ目的ノ爲ニ之ヲ使用スル權能ヲ包含スルコトナキモノトス (昭和三、五、一五)

位土 ○位土ノ共有權ヲ有スル者ハ家長タル戸主ニ限ル家族ハ之カ共有權ヲ有セサルモノトス (大正五、一一、一九)

○祖先ニ於テ或不動産ヲ私不遷位土ト定メ之ヲ一門共有トシ同時ニ遺言

昭	昭	昭	昭	昭
二	二	二	二	二
一四	一四	一四	一四	一四
六	六	六	六	六

ニ依リ永久ニ之カ賣買其他ノ處分行爲ヲ爲スコトヲ禁シタリトスルモ其子孫タル共有者(各家戸主)ニ於テ之ヲ處分シ得サル慣習ナク又不遷位土ニ關シテ前示ノ如キ遺言カ永久ニ其子孫全員ヲ拘束スル效力アルモノニ非ス (大正八、一〇、二二)

聯 ○朝鮮ニ於テ門中又ハ其ノ一派カ祖先ノ墓地又ハ祭位土ヲ共同所有スル場合ニ於テハ慣習上常ニ所謂合有ノ法律關係ニシテ共有ノ法律關係ハ存在セス (昭和二、九、二三)

【反對】

○凡ソ墓位土ハ慣習上當然奉祀孫ノ專有ニ屬スルモノニアラス又一門ノ共有ニ屬スル場合アリトス (大正元、一二、三)

○祖先ノ祭祀ニ供スル位土ノ所有權ハ奉祀孫ノミニ專屬スルコトアリ又ハ門中若クハ門中一派ノ共有ニ屬スルコトアリ必スシモ宗孫ノ專屬若クハ一派ノ共有ニ屬スヘキモノナリトノ慣習アルニアラス何人ノ所有ナルヤハ一ニ事實問題ニ屬スヘキモノトス (大正二、五、一一)

○位土ノ共有ナルモノハ一門共同ノ祖先祭祀ノ用ニ供スル爲メ一門ニ屬スル者ニ限リテ共有スル性質ノモノナレハ一門ニ屬セサル者ハ共有者ノ一人ヨリ他ノ共有者ノ承諾ナク其單獨所有ナリトシテ買受ケタル場合ニハ其賣買契約ハ全然無効ナリトス (大正五、一、一一)

昭	昭	昭	昭	昭
二	二	二	二	二
一四	一四	一四	一四	一四
六	六	六	六	六

○朝鮮ニ於テ祖先ノ墳墓所在地タル山坂ノ所有權ハ宗孫ノミニ專屬スルコトアリ又門中若クハ門中一派ノ共有ニ屬スルコトアリ必スシモ宗孫ノ專有若クハ一派ノ共有ニ屬スヘキモノナリトノ慣習アルニ非ス何人ノ所有ナルヤハ一ニ事實問題ニ屬スヘキモノトス (大正六、六、二二)

○位土ノ所有權ハ或ハ奉祀者子孫ノ單獨所有ニ屬スルモノアリ或ハ一派ノ共有ニ屬スルモノアリ又或ハ一派ノ共有ニ屬スルモノアリ常ニ奉祀者子孫ノ單獨所有ニノミ屬スト云フヘカラス (大正六、七、二七)

○朝鮮ニ於テ共同祖先ノ墳墓アル山坂ノ所有權ハ其宗孫ニ屬スルコトアリ或ハ共同祖先ノ子孫タル一派若ハ門中一派ノ共有ニ屬スルコトアリ必スシモ宗孫ノ單獨所有ニ非サレハ子孫全體ノ共有ナリトノ慣習アルコトナシ其何人ノ所有ナルヤハ事實問題ニ屬ス (大正八、一三一)

○合有ノ目的タル祭位土カ適法ニ他ニ讓渡セラレタルトキハ當然其ノ祭位土タル性質ヲ喪フニ至ルモノトス (昭和四、二、一九)

○祭位土ノ讓渡カ信託的ノモノニ係リ當事者間ノ對内關係ニ於テハ宗中合有ノ關係ヲ保留スル趣旨ニ出ツル場合ニ於テモ對外關係ニ於テハ讓受人單獨ノ所有ニ屬スルモノトス (昭和四、二、一九)

刑法大全

(光武七年ヨリ隆熙四年迄施行
明治四十五年制令第十一號
朝鮮刑事令ヲ以テ廢止)

第十六條

○舊刑法大全第十六條ニ所謂聽訟スル期限ハ民事詞訟ハ二十年以内ニ在ルモノト定ムル旨ノ規定ハ民事ノ訴訟ヲ提起シ得ヘキ時ヨリ起算シ二十年ヲ經過セルトキハ同法施行ノ前後ヲ問ハス總テ聽訟ノ限ニアラストスル趣旨ナレハ縱令同法施行以前ニ行ハレタル大典會通ニ聽訟期限ノ定メナカリシ墳墓設備ニ關スル訴訟ノ如キモノト雖其施行後ニ於テハ其適用ヲ受クヘキモノトス (大正五、一一、七)

○右聽訟期限ノ規定ハ實體上ノ權利ノ得喪ニ關スル規定ニアラスシテ訴權ノ消長ニ關スル訴訟上ノ規定ト見ルヘキモノナルヲ以テ其適用ニ付何等經過法ノ規定ナク又訴訟ノ種類ヲ限定セサル以上ハ從前ノ法律ニ依リ既ニ聽訟期限ヲ經過セルモノニ適用ナキハ勿論從前ノ法律ニ聽訟期限ノ定メナカリシモノト雖舊刑法大全施行前既ニ二十年ヲ經過シタルトキハ同法施行後ハ出訴ヲ許ササルモノトス (大正五、一一、七)

○舊刑法大全第十六條ノ規定ハ民事ノ訴訟ハ訴訟ヲ提起シ得ヘキ時ヨリ起算シ二十年ヲ經過セルトキハ同法施行ノ前後ヲ問ハス總テ聽訟ノ限ニアラサル趣旨ナリトス (大正八、二、二八)

○舊刑法大全第十六條ニ所謂聽訟期限ハ民事詞訟ハ二十年以内ニ在ルモノト定ムトノ規定ハ民事訴訟ヲ提起シ得ルトキヨリ起算シ二十年ヲ經過セルトキハ同法施行ノ前後ヲ問ハス總テ聽訟ノ限ニアラサル趣旨ナリトス (大正一〇、五、二〇)

○其民事訴訟ニハ債權關係タルト將タ物權關係身分關係タルトヲ問ハス總テ之ヲ包含スルモノト解スルチ相當トス (大正一〇、五、二〇)

○聽訟期限ノ經過ニ因リ權利者カ法律關係ノ存在ヲ主張シ國家ノ救済ヲ請求スルコト能ハサルニ至リタルトキハ爾後其者ハ勿論其後代承繼人ニ於テモ同一ノ法律關係ニ付再ヒ權利侵

大	大	大	大	大
六	六	八	四	四
四	四	六	二	二
五	九	二	二	二

大	大	大	大	大
五	五	八	一〇	一〇
三	三	六	八	八
五	六	七	八	八

害ヲ理由トシテ權利保護ノ請求ヲ爲シ得ヘキニ非ス (大正一〇、五、二〇)

○土地所有者ノ承諾ヲ得スシテ侵害シテ墳墓ヲ設ケ其墓地ヲ占有シタルモノアル場合ニ於テ土地所有者カ墓地ニ付聽訟期限ヲ經過シタルカ爲メ侵害排除ヲ請求スルノ訴權ヲ喪失シタルトキハ其地上ニ設ケラレタル墳墓ノ掘移ヲ請求スルノ訴權モ亦隨伴シテ喪失シタルモノト爲スチ當然トス (大正一〇、一二、一六)

○訴訟カ舊韓國刑法大全第十六條ノ聽訟期限ヲ經過セルヤ否ヤハ必スシモ原告カ請求原因トシテ主張セル事實自體ヲ基礎トシテ判斷セサルヘカラサルモノニアラス原告カ一定ノ時期ニ權利侵害發生シタリト主張シ其主張ニ從ヘハ聽訟期限ヲ經過セストスルモ被告カ其權利侵害ハ原告ノ主張セル時期以前ニ發生シ爾後其侵害繼續シタルモノニシテ原告カ訴ヲ提起シ得ヘキ時期ハ原告ノ主張セル以前ニ在ルコトヲ抗爭セルトキハ事實裁判所ハ固ヨリ其何レノ主張カ眞實ナリヤヲ審理判斷シ聽訟期限ヲ經過セルヤ否ヤヲ決スヘキモノトス (大正一一、六、二〇)

○舊刑法大全第十六條ニ聽訟期限ハ民事訴訟ハ二十年以内ニ在ルモノト定ムトノ規定アリテ右ニ所謂民事訴訟トハ債權關係並ニ物權關係ノ民事訴訟ノミナラス身分關係ノ民事訴訟チモ包含スル趣旨ナリトス (大正一一、九、一)

○親子ノ關係ハ事實關係ナルト同時ニ身分ナル法律關係ニシテ斯カル法律關係ノ確認ヲ求ムル訴即親子關係存在確認ノ訴ハ身分關係ノ民事訴訟ニ屬スルコト明白ナルカ故ニ聽訟期限ノ適用ヲ受クヘキモノトス (大正一一、九、一)

○聽訟期限ノ規定ハ實體上ノ權利ノ得喪ニ關スル規定ニ非スシテ訴權ノ消滅ニ關スル訴訟法上ノ規定ト目スヘキモノナリ (大正一一、九、一)

大	一〇	八	一四八
大	一〇	八	五三
大	一一	九	二二五
大	一一	九	三三二
大	一一	九	三三二
大	一一	九	三三二

○親子關係存在ノ確認訴訟ニ於ケル權利保護ノ請求權ハ法律關係ノ不確實ナル狀態ノ表現ニ因リ發生スルモノニシテ必スシモ相手方カ親子關係ノ存在ヲ否定スルニ依リ始メテ發生スルモノニ非ス何トナレハ親子關係ノ存在ヲ否定セサルモ尙其身分關係ノ不確實ナル狀態ニ在ルトキハ之カ救済ヲ求ムル必要存在スレハナリ (大正一一、九、一)

○聽訟期限ハ訴訟ヲ提起シ得ヘキトキヨリ起算スルモノニシテ訴訟ヲ提起シ得ヘキトキハ訴權ヲ行使シ得ヘキ客觀的事情ノ發生シタルトキヲ指稱シ請求權者カ該事情ノ發生ヲ了知シタルト否トヲ問ハス (大正一一、九、一)

第三十二條

○刑法大全第三十二條第三項勅任官ハ六品ニ一十歩ヲ減ストハ同條第一項ノ五十歩ヨリ一十歩ヲ減スルノ旨意ナリ (明治四三、九、二三)

第六百三十六條

○朝鮮人間ニ於テ一旦典當ニ供シ又ハ賣却シタル土地家屋ヲ他人ニ再ヒ典當ニ供シ又ハ賣却シタルトキハ刑法大全第六百三十六條ニ違背シ其典當又ハ賣却ハ法律上無効トス (明治四四、八、二一)

○舊刑法大全施行當時ニ於テ朝鮮人カ一旦典當ニ供シタル土地家屋ヲ其典當權存續中更ニ他人ノ爲ニ典當ニ供シタルトキハ同法第六百三十六條ニ違背スルヲ以テ其典當權ハ無効ナリトス而シテ此法意ハ同法施行前ト雖其當時施行ノ舊韓國法典ニ於テ夙ニ採用セラレアリシモノトス (大正五、一一、二四)

○朝鮮刑事令施行(明治四十五年四月一日)前ニ在リテハ刑法大全第六百三十六條ニ基キ一旦土地家屋ヲ典當ニ供シ又ハ賣却シタルトキハ他ニ再該物件ヲ典當ニ供シ又ハ賣却スルコト

大	二	九	三三二
大	二	九	三三四
明	四三	一	一〇九
明	四四	一	三四四
大	五	三	八五七

ナ得ス犯ス者ハ處罰セラレ其所得シタル價錢ハ追徴シテ後ニ典執シ又ハ買受ケタル者ニ還付シ其典賣シタル土地家屋ハ先ニ典執シ又買受ケタル者ニ歸シ其賣買又ハ典執ハ當然無効タリシモノトス而シテ刑法大全ハ光武九年(明治三十八年)四月二十九日ニ頒布セラレタルモ其以前ト雖右ト同趣旨ノ法規行ハレタルモノトス (大正五、一二、二八)

○明治四十五年四月一日朝鮮刑事令施行以前ニ於テハ朝鮮人間ニ於テ一旦典當ニ供シ又ハ賣却シタル土地家屋ヲ他人ニ再ヒ典當ニ供シ又ハ賣却シタルトキハ刑法大全第六百三十六條ノ規定ニ該當シ後ノ典當又ハ賣買ハ法律上全然無効ニシテ其後ノ典當若クハ賣買力先ニ典執セシ債權者ノ承諾ヲ得タルモノニアラサルトキハ先ノ典執債權者ニ對スル債務ヲ辨濟スル目的ニ出テタリトスルモ全然之ヲ無効トスヘキモノトス (大正六、一二、一四)

大典會通 (舊韓國) (失效)

卷之一 吏典 外命婦

○大典會通吏典外命婦條「封爵從夫職庶孽及再嫁者勿論云々」ノ規定ハ舊韓國時代ニ正當ニ適用セラレタルモノニ非ス (大正六、四、二七)

卷之二 戸典 諸田

○舊韓國王室ハ其公主ニ對シテ王室ニ屬スル土地其ノモノヲ賜與シタル事アリトス (大正元、一二、二〇)

○舊韓國時代ニ於テ區域ヲ定メテ土地ヲ賜與シタル場合ニ其區域内ニ民有地ナキトキハ全部賜與ヲ受ケタル者ノ所有ニ歸スルモ若シ民有地ヲ包含スルトキハ其部分ハ賜與ヲ受ケタル者ノ所有ニ移ラサル慣習ナリトス (大正三、一二、一一)

大	五
大	三〇三七
大	六
大	四二〇九七
大	六
大	四三三八
大	元
大	二
大	二
大	八七
大	三
大	二五二

○舊韓國時代ニ於テ結數賜牌ニ關スル法律規定ニ反スル事例ノ行ハレタルハ顯著ノ事實ナリ (大正三、一二、二五)

○定式收税ハ結數賜牌ノ場合ニ於テ本則トシテ戸曹ヨリ受牌者ニ給與スヘキ税穀一結二十三斗ヲ徵收スルヲ謂フモ例外トシテ受牌者ヲシテ一定ノ土地ノ耕作者ヨリ直接定式收税ヲ爲サシムルコトアリ (大正三、一二、二五)

○結數賜牌ハ四代ニ限ラサル事例行ハレタルモノトス (大正三、一二、二五)

○昔時朝鮮ニ於テ皇室ヨリ宮家ニ對シ王牌ヲ以テ賜與スル場合ニ田土賜牌ト結數賜牌トノ區別アリ前者ハ土地ノ賜與若クハ有土賜牌ト稱シ田土ヲ賜與シ後者ハ結數賜牌若クハ無土賜牌ト稱シ單ニ田土ノ結數ノミヲ賜與シタルモノトス (大正五、六、三〇)

○田土賜牌ノ場合ニ於テ賜與セラレタル土地ニ對シテハ免稅セラレ賜牌ヲ受ケタル者力其資格ヲ失ヒタルトキハ爾後租稅ハ還收セラレルモ土地其モノハ還收セラレサリシ慣例ナリ (大正五、六、三〇)

○代盡還收ノ處分ハ結數賜牌ノ場合ニノミ行ハルモノトス (大正五、六、三〇)

田宅

○大典會通戸典田宅條ニ(凡訟田過五年勿聽盜賣者云々不限年)トアルハ盜賣者以下四種ニ限リ何時ニテモ出訴スルコトヲ許シ其他ノ田宅訟ハ凡テ五年ヲ過クレハ出訴スルヲ得サルノ趣旨ナリトス (隆熙三「明治四二」一、三〇)

○大典會通中盜賣者不限年トノ規定ハ盜賣ノ事實ヲ知ラスシテ買取りタル者ニモ適用セラレルモノトス (明治四三、七、二七)

○田宅訟五年ヲ過クルトキハ出訴ヲ許サストノ制ハ刑法大全施行前迄適用セラレタルモノニ

大	三
大	二五四
大	三
大	二五四
大	三
大	二五四
大	五
大	三六二九
大	五
大	三六二九
大	五
大	三六二九
大	二
大	一五四
大	四三
大	一
大	九六

- シテ田トアル中ニハ畚地山地ヲ包含スルモノトス (明治四三、九、二二)
- 大典會通戸典田宅過五年者則勿聽トアルハ其目的物件ノ返還ニ代ヘテ價格賠償ヲ求ムル場合ニモ亦適用アリ (明治四三、一一、二六)
- 墳墓ノ掘移及墳垣ノ撤去ヲ請求セラレタル場合ニ於テ既ニ其基地ニ付之ヲ返還スヘシトノ確定判決存スルトキハ右請求ニ對シテハ田宅訟ニ關スル出訴期限法ヲ適用スルヲ得ス (明治四四、一、四)
- 他人ノ所有物トシテ田宅ヲ保有スル者ニ對シテハ大典會通田宅條ニ賃居永執者不限年トアルニ準據シ幾年ヲ經過スルモ取戻ヲ請求シ得ヘシ (明治四四、三、三一)
- 大典會通戸典田宅條ニ凡訟田宅過五年者則勿聽トアルハ田宅ノ返還又ハ之ニ代ルヘキ損害賠償ノ請求ノミナラス其地上ニ存スル草木ノ伐採ニ因ル價格賠償ヲ求ムル場合ニモ適用スヘキモノナルヲ以テ占有開始後五年ヲ經過シタルトキハ其經過前ノ伐採ニ係ルト其後ノ伐採ニ因ルトト問ハス其價格ヲ請求スルヲ得ス (大正元、一〇、四)
- 父ノ田宅ヲ合執スル者ニ對スル訴ハ不限年ニ提起スルヲ得 (大正二、七、二)
- 墓直トシテ單ニ他人ノ所有地ヲ耕作シ收益スル者ハ大典會通戸典田宅條ノ賃居永執者ニ該當セスシテ因并耕永執者ニ該當スルモノトス (大正三、五、二二)
- 他人ノ委託ニ因リテ土地ヲ占有スル者ニ對スル聽訟期限ハ戸典田宅條因并耕永執者不限年ノ規定ヲ準用スヘキモノトス (大正三、一〇、九)
- 出訴期限ノ經過ヲ理由トシテ訴ノ却下ヲ求ムル抗辯ハ民事訴訟法第二百六條第一項第一號ニ所謂無訴權ノ抗辯ニ該當セス (大正六、二、二三)
- 物權ヲ主張シテ救済ヲ求ムル訴權ニ付聽訟期限ヲ計算スルニハ相手方ト爲ルヘキ者ニ異動

大	大	大	大	大	大	大	大
四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三
一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五
一六九	一六九	一六九	一六九	一六九	一六九	一六九	一六九
一七三	一七三	一七三	一七三	一七三	一七三	一七三	一七三
一二四	一二四	一二四	一二四	一二四	一二四	一二四	一二四
二一九	二一九	二一九	二一九	二一九	二一九	二一九	二一九
二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二
二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四
二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八
四	四	四	四	四	四	四	四
六	六	六	六	六	六	六	六

アルト否トニ區別ナク其訴權ノ行使シ得ヘキ時ヨリ起算スヘキモノトス (大正六、二、二三)

○出訴期限ヲ經過シタル訴ハ裁判所職權ヲ以テモ調査シテ其訴ヲ却下スヘキモノトス (大正六、二、二三)

○戸典田宅條ニ凡訴田宅過五年勿聽ノ規定アリテ刑法大全施行ニ至ル迄適用セラレタルモノニシテ裁判所ニ於テ出訴期限ヲ經過シタルト否トニ依リ訴ノ適否ヲ決スルハ職權調査事項ニ屬シ當事者ノ主張ニ俟ツヘキモノニ非スト雖モ該期限ノ經過ニ關スル基礎タル事實ニ付テハ當事者ノ申立中其事實ノ現ハレサルニ於テハ裁判所ハ其訴ニ付期限經過ノ事實無シトシテ之ヲ適法ナリト認ムヘキモノトス (大正六、四、六)

○土地所有權ノ確認及土地引渡ノ請求ヲ受ケタル場合ニ右土地ニ關スル出訴期限經過ノ抗辯ヲ提出シ得ル者ハ必スシモ一般承繼人トシテ其土地ヲ取得シタルモノニ限局セラレヘキモノニ非ス特別承繼人トシテ之ヲ取得シタル者ト雖其前主カ所有スル當時ニ於テ經過シタル期限ヲ以テ對抗シ得ヘク又他人所有ノ土地ヲ管理スルモノハ所有者ノ有セシ出訴期限經過ノ抗辯ヲ以テ對抗シ得ルモノトス (大正六、四、二〇)

○聽訟期限ノ規定ハ訴權ヲ行使シ得ル者カ其訴權ヲ行使シ得ル一定ノ期間ヲ定メタルモノニシテ即チ權利ノ侵害ヲ受ケタル者カ權利侵害者ニ對シ訴權ヲ行使シ得ヘキニ拘ハラズ之ヲ行使セスシテ一定ノ期間ヲ徒過シタルトキハ權利侵害者ニ對スル訴權ヲ喪失セシムトノ規定ナリ故ニ聽訟期限ノ規定ハ權利ノ被侵害者ト侵害者トノ間ニ於ケル訴權行使ノ期間ニ關スルモノト謂フヘク權利ノ侵害ヲ受ケタル者アレハ其者ニ對シテハ侵害者以外ノ者ト雖モ總テ右權利侵害ノ行ハレタル時ヨリ起算シテ聽訟期限ノ規定ノ適用ヲ受クヘキモノト謂フ

大	大	大	大
六	六	六	六
四	四	四	四
三四	三四	三四	三四
二六	二六	二六	二六
二二	二二	二二	二二

- 大正二年二月頃ニ至リ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ占有ヲ侵奪シタルニ對スル回復訴訟ニ於テハ數百年以前ナル壬辰年中ニ侵奪行爲アリテ其以後五年ヲ過クルニ依リテ五年ノ聽訟期限ヲ經過セリトシテ右訴ヲ排斥シ得ヘキモノニ非ス (大正六、七、一七)
- 續田トハ舊韓國ニ於テ稅制不完全ナル時代專ラ徵稅ノ便宜ノ爲メニ田ノ品質ニ從ヒ等級ヲ立テタルモノノ一種ニ屬シ或ハ耕シ或ハ耕ササルコトアル田ヲ指稱スル爲メニ用キタルモノナレハ證人ノ證言中某字田ハ續田ナル旨ノ供述ニ所謂續田ノ意義モ亦反證ナキ限り之ニ外ナラサルモノト認ムルヲ相當トス (大正七、一、二、六)
- 大典會通及刑法大全ニ所謂聽訟期限ノ規定ハ權利侵害者ト被侵害者間ニ於ケル訴權行使ノ期限ヲ定メ相對的ニ訴權ヲ消滅セシムル規定ニシテ絕對的ニ訴權ヲ喪失セシムル規定ニ非ス (大正二、四、一〇)
- 聽訟期限ヲ經過シタルヤ否ヤハ裁判所ニ於テ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ナリ (昭和二、一、一八)
- 墳墓掘移ノ訴ハ大典會通ニ所謂五年ノ聽訟期限ヲ經過セルトキハ出訴スルコトヲ得サルモノトス (昭和二、一、一八)
- 聽訟期限ノ規定ハ實體上ノ權利ノ得喪ニ關スル規定ニ非スシテ訴權ノ消滅ニ關スル訴訟法上ノ規定ナルニ依リ墳墓掘移ノ訴ハ聽訟期限ノ經過ニ依リ許スヘキモノニ非スト解スルモ査定ト低觸スルモノニ非ス (昭和二、一、一八)

徵債

- 私債一年ヲ過クレハ聽訟ヲ許サストノ制ハ大限小限ノ規定ノ爲メニ自ラ廢止セラレタルモノト解スヘク而シテ不正行爲ニ因ル債權ニハ其適用ナカリシモノトス (明治四三、三、二八)
- 大典會通戸典徵債條中凡徵債勿論公私過什二者杖八十徒二年トアルハ元本額ニ對スル契約上ノ年利十分ノ二即チ二割以下ノ利息ニ制限シタル意義ナルモ實際ニ適用ナカリシモノナリ (明治四三、一〇、七)
- 大典會通戸典徵債條ニ凡負私債有具證筆文記者許徵過一年不告官者勿聽トアル規定ハ從來其適用ナシ (明治四四、七、一一)
- 大典會通ニ存セシ凡負私債有具證筆文記者許徵過一年不告官者勿聽ノ規定ハ刑法大全施行ノ直前ニ於テ行ハレタル法規ニアラス (大正六、九、二五)

卷之三 禮典 立後

- 大典會通禮典立後條ニ嫡妾俱無子者告官立同宗支子爲後トアリ又其補文ニ私自立後者論罪云々トアルモ右規定ハ實際ニ行ハレス而シテ嫡子ナキ場合ニ庶子アルモ禮斜ヲ受ケスシテ養子ヲ爲スニ妨ナキコトハ庶人タルト宗親國戚タルトヲ問ハス朝鮮一般ノ慣習ナリ (大正二、五、二〇)

卷之六 工典 雜令

- 大典會通工典雜令中大君六十間云々ノ制ハ發布ノ當時ヨリ實施セラレタルモノニアラス假令實施セラレタリトスルモ建築者ニ於テ該制限以上ノ家屋ノ所有權ヲ失フコトナシ (明治四四、九、三〇)

大	大	大	大	大	大	大
六	六	七	二	二	二	二
四	四	五	一〇	一〇	一〇	一〇
三四	七〇	九四九	九七	一	一	一

明	大	大	明	明	明
四	二	六	四	四	四
一	二	四	一	一	一
三八	二〇〇	六二	三三	二六	七

- 再出訴期限ノ規定ヲ適用セラルコトナキモノトス (大正四、二、五)
- 民法施行ノ日迄ニ舊民事訴訟期限規則第三條所定ノ十年ヲ經過セサル債權ハ民法施行法第三十條ニ依リ民法第六十七條第一項所定ノ十年ヲ經過シタルトキ時効ニ因リテ消滅スヘク此期間ヲ計算スルニハ民法施行前ニ經過シタル年月日數ニ施行後經過シタル年月日數ヲ通算スヘキモノトス (大正五、一二、二六)
- 民事訴訟期限規則ハ訴權ノ消滅ニ關スル規定ナルヲ以テ其性質上債務ノ承認ニ因リ出訴期限ヲ中斷スルヲ得ス (大正六、六、一五)
- 朝鮮民事令施行前ニ在リテハ出訴期限ヲ經過シタル債權ハ單ニ訴權ノ喪失ニ止マリ實體上ノ權利ハ依然トシテ存立ヲ認メラレタルモノナルニ民法施行法第二十九條規定ノ結果トシテ朝鮮民事令施行以後ニ於テハ訴權ノ喪失ト共ニ實體法上ノ權利ノ消滅ヲ來スモノトス (大正六、一一、二〇)
- 朝鮮民事令施行以後ニ於テ出訴シタル債權者ノ債權力同令施行以前ニ出訴期限ヲ經過シタルモノナルトキハ中斷ニ關スル規定ノ適用ナキハ勿論債務者ノ援用ヲ待タズ裁判所ハ職權ヲ以テ直チニ其訴ヲ却下スヘキモノトス (大正六、一一、二〇)
- 民刑訴訟規則施行以前ニ在リテハ關席判決ニ對スル故障ノ制度ヲ認容セス (隆熙三「明治四二」八、三一)
- 判決ノ宣告ハ作成シタル判決ヲ公表スル方式ニ外ナラサレハ前審干與判事ト雖立會宣告スルヲ妨ケス (隆熙三「明治四二」八、三一)

民刑訴訟規則 (舊韓國)

(明治四十五年制令第七號) (朝鮮民事令ヲ以テ廢止)

大	大	大	大	大
四	五	六	六	三
三	三	四	四	一
三〇	三〇三	四一〇〇	四一〇〇	一六

- 一般債權者ト雖債務者ノ他ノ財産ニテハ十分ナル辨濟ヲ受クルコトヲ得ス現ニ繫屬セル訴訟ノ結果ニ依リテ辨濟ヲ受クヘキ利益ヲ有スルトキハ民刑訴訟規則第七十七條ニ所謂訴訟ノ結果ニ付法律上利害關係ヲ有スル第三者ニ該當ス (明治四四、五、一七)
- 民刑訴訟規則第六六條ハ第三者力強制執行ノ目的物ニ付權利ヲ主張シテ強制執行ニ對シ異議ヲ主張スル場合ヲ包含セス從テ斯ノ如キ第三者ノ異議ハ訴ヲ以テ主張スヘキモノトス (明治四五、二、二八)

開國五百三年六月二十八日議案

許婚年齡ヲ定ムル件

(一男女早婚亟宜嚴禁男子二十歲女子十六歲以後始許嫁娶事)

- 朝鮮人間ニ在リテハ當事者ノ年齡ノ如何ニ拘ハラス其婚姻ハ有效ナリトス (明治四四、八、二一)

開國五百三年六月二十八日議案

寡女ノ再嫁ヲ自由トナラシムル件

(一寡女再嫁無論貴賤任其自由事)

- 舊韓國開國五百三年六月二十八日ノ議案ニ於テ寡女ノ再嫁ヲ其自由ニ任セタルハ再嫁ノ禁止ヲ解キタルニ過キスシテ再嫁セサルヘカラスト爲シタルニアラス從テ再嫁セサルコトヲ

明	明	明
四	四	四
一	一	一
一六	一四八	一六六

條件トシテ法律行爲ヲ爲スモ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノニ非ス (明治四四、一、二、一五)

○舊韓國開國五百三年六月議案ハ寡婦再嫁ノ禁ヲ解キタルニ過キスシテ從來寡婦ニシテ他人ノ妾トナリ同棲シタルニ過キサル者カ同議案ノ發布ニ依リ當然妻ノ身分ヲ取得スヘキコトヲ規定シタル趣旨ニアラス (大正六、五、三一)

開國五百三年六月二十八日議案

奴婢ノ典ヲ革罷スルノ件

(一公私奴婢之典一切革罷禁販賣人口事)

○舊韓國開國五百三年六月二十八日ノ(公私奴婢之典一切革罷禁販賣人口事)トノ議案ハ人身ヲ賣買シテ奴婢トナスコトヲ禁止シタルモノニシテ自由意思ヲ以テ普通ニ奉公人ト稱シ下男下女トシテ勞務ニ服スルノ契約ヲ爲スコトヲ禁止スルモノニアラス而シテ斯ノ如キ自由意思ニ出テタル契約ニ依ル奉公人ト雖之ヲ表示スルニ當リ奴ナル稱呼ヲ以テスルコト往々ニシテ之アリトス (大正七、一〇、一一)

開國五百三年七月十五日議案

(抄)

軍國機務處啓曰諸議員 臣本日議案各條謹具清單恭呈 乙覽冀蒙允施之意敢啓

一、十年以內田地山林家屋等産爲藩柵守宰及豪右所強佔與減價勤買者由本主據實呈草于軍國機務處該呈單內要有證人二名以上及土在官衆所共知明確證據則查實推還原主倘有假冒代辦者構捏虛無者數交相左者亦照律嚴懲事

○強估又ハ減價勤買ヲ理由トスル田宅訟ニシテ開國五百三年七月十五日議案發布ノ當時未タ五年ヲ經過セサルモノハ該議案ノ規定ニ依リ十年ノ用訴期限ヲ有ス (隆熙三「明治四二」一、三〇〇)

○開國五百三年七月十五日議案モ亦刑法大全施行ニ至ル迄適用セラレタルモノトス (明治四三、九、二三)

○甲ヨリ所有ノ山坂ニ乙カ其父ヲ勒葬シ該山坂全部ヲ強占シタリト主張シテ山坂ノ返還ト墳墓ノ掘移トヲ請求スルトキハ甲ハ其強占ノ日ヨリ起算シテ十箇年內ニ起訴スルニアラスンハ舊韓國開國五百三年ノ議案ニ依リ山坂ノ返還ヲ求ムル權利ヲ喪失スルハ勿論其地上ニ存スル墳墓ノ掘移ヲ請求スル權利モ亦之ニ伴フテ喪失スヘキモノトス (明治四四、九、三〇)

舊韓國裁判所構成法

○墳墓ノ掘移及墳垣ノ撤去ヲ請求セラレタル場合ニ於テ既ニ其基地ニ付之ヲ返還スヘシトノ確定判決存スルトキハ右請求ニ對シテハ田宅訟ニ關スル出訴期限法ヲ適用スルヲ得ス (明治四四、一、四)

○舊韓國平理院ハ下級裁判所ノ爲シタル判決ノ不當ヲ認知スルトキハ其裁判所ニ訓令ヲ發シ

舊韓國裁判所構成法

明四四	大七	明四四	大六	明四四	大七
一	五	一	四	一	五
一七三	七六	一五	四五	一四五	七六

○該判決全部ノ取消若クハ幾部ノ更正ヲ命シ得ヘキ機能ヲ有セシモノトス (大正二、九、二三)
 ○上疏ニ關シテ與ヘタル命令ハ判決ト同視スヘキモノニアラサルハ勿論舊韓國時代ニ於テモ之ヲ判決ト同視シタル慣習ナシ (大正三、七、二四)

農工銀行條例 (舊韓國)

○農工銀行條例ニハ流典當契約ヲ締結スルコトヲ禁止シタル旨趣ヲ認ムヘキ規定ナキニ依リ農工銀行力締結シタル流典當契約ハ有效ナリトス (大正八、一〇、二四)

手形條例 (舊韓國) (明治四十五年制令第七號) (朝鮮民事令ヲ以テ廢止)

○手形條例第三十五條ハ手形條例頒布以前ニ係ル於音チ當然無効ニ歸セシメタルニアラスシテ之ヲ以テ實物ノ請求ヲ行フコトヲ得セシメタルモノナリ (隆熙三「明治四二」六、三)
 ○於音ハ流通禁止ノ特約ナキトキハ振出人ノ承諾ナキモ受取人ニ於テ任意ニ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ヘシ (隆熙三「明治四二」九、九)
 ○手形條例ニハ振出人チ一紙一人ニ限リタル規定ナキヲ以テ數人ノ振出人アル手形ハ手形トシテ有效ナリ (明治四四、一、二七)
 ○振出人數人アルトキハ其間ニ連帶義務ヲ發生ス (明治四四、一、二七)
 ○支撥處所ト支撥地トハ地域ニ廣狹ノ差アルモ支撥處所トシテ何道何郡何ト記載アル以上ハ洞以下チ省略スルモ支撥處所ノ記載トシテ有效トス (明治四四、一、二七)

大	大	大	大	大	大	大
二	三	八	三	三	三	四
二	二	六	一	一	一	一
三五	四三	五四三	四〇	一八	一七九	一七九

○手形條例ニ依リテ發行シタル手形債務ニ付テハ其利率ハ利息規例ノ法定利率ニ依ルヘキチ正當トス (明治四四、一、二七)

○記名裏書ニ付其裏書ノ年月日ヲ記載セサルトキハ手形條例上裏書讓渡ノ手形上ノ效力ヲ生セス (明治四四、七、二四)

○約束手形ニ記載スヘキ支撥處所ハ手形中ニ支撥處所ト認ムヘキ記載アルヲ以テ足ル (明治四四、九、二九)

○約束手形ノ振出人ニ對シテハ支拂ヲ請求スル爲メニ手形ヲ呈示スルヲ要セス (明治四四、一〇、一三)

○於音ハ舊韓國光武十年十一月勅令第七十一號手形條例施行後ハ流通證券トシテ發行與授スルコトヲ得スト雖單ニ債務負擔ノ證左トシテ當事者間ニ有效ニ作成交付スルコトヲ得タル慣習アルモノトス (大正三、一二、一一)

○光武十一年(明治三十九年)十一月舊韓國勅令第七十一號手形條例附則第三十五條ニヨリ於音ニ類似スル者ノ發行與授ヲ禁止シタル以後朝鮮ニ於テ票(金錢支拂ノ約束及債務者ノ署名捺印ノミアリ債權者ノ宛名ナキ證書)ハ引渡ニヨリ轉讓流通シ其取得者ハ其所持人タル一事ニヨリ債務者ニ對シ其支拂ヲ求メ得ヘシトスル慣習ハ廢止セラレタルモノトス (大正六、一二、二七)

土地建物證明規則 (韓舊國) (明治四十五年制令第十五號) (朝鮮不動産證明令ヲ以テ廢止)

○土地家屋典當證明ハ契約書ニ基キ執行スルニ關シテ完全ノ效力ヲ有スルニ過キスシテ典當ノ要件ニアラス又第三者ニ對抗スル效力アルモノニモアラス (隆熙三「明治四二」一〇、二)

大	大	大	大	大	大	大
六	三	四	四	四	四	四
四	二	一	一	一	一	一
二八五	五二七	三六六	三三三	三四一	二七九	二七九

八)

○ 畚田賣買ハ土地家屋證明規則ニ依ル公證ノ有無ニ關セス各自ノ自由ナル意思表示ニ因リテ成立ス (明治四四、七、四)

○ 舊韓國土地家屋證明規則ニ依リ典當ノ證明ヲ經タルモノハ朝鮮不動產證明令第二十一條ニ所謂未證明ノ不動產ニ非スシテ既證明ノ不動產ナリトス (大正七、三、五)

○ 舊證明規則ニ依リ既ニ典當證明ヲ經テ新證明令施行後ニ涉リテ存續スルモノニ對シ新證明令第四十條ヲ適用スルニ當リテ舊證明規則ニ依リ爲シタル典當證明中ニハ自カラ所有權保存證明ヲモ包含スルモノト解スヘキモノトス (大正七、三、五)

○ 舊證明規則ニ基キ典當證明ヲ經タル土地ニ對シ新證明令施行後更ニ證明ヲ爲スヘキ事由ノ生シタル場合ニハ新タニ保存證明ヲ爲スヘキモノニ非スシテ先ツ新證明令第四十五條ノ規定ニ從ヒ舊證明簿ヨリ新證明簿ニ移記ノ手續ヲ終了シタル後新證明事項ノ記入ヲ爲スヘキモノトス (大正七、三、五)

臨時帝室有及國有財產調查局官制

(舊韓國) (隆熙二年勅令第三十八號ヲ以テ廢止)

○ 舊韓國臨時帝室有及國有財產調查局カ或土地ニ對シ帝室有國有ニ非ス民有ナリト決定シテ下給處分ヲ爲シタル場合ニ個人相互ノ間ニ於テ其土地ノ所有權ヲ爭ヒ司法裁判所ニ出訴シタルトキハ裁判所ハ下給處分ノ如何ニ拘ラス所有權ノ所在ヲ認定スルコトヲ得 (大正四、二、二)

大	大	大	大	明	隆
四	七	七	七	四	三
三	五	五	五	一	一
一五	一四九	一四九	一四九	一三三	四七

○ 舊韓國臨時帝室有及國有財產調查局官制ノ規定ニ基ク委員會ハ帝室有及國有財產ヲ調査判定シ之カ整理ヲ爲スニ當リ其整理ニ關シ一箇人ノ財產ニ關係アルトキハ之ヲ調査シ其處分ヲ爲ス職權ヲモ有スルヲ以テ同委員會カ一箇人ノ所有ニ屬セシモノヲ帝室有又ハ國有財產ナリト決定セシトキハ其結果一箇人ノ權利ヲ侵害スヘシト雖法規ニ基ク適法ノ處分ナレハ其處分ハ有效ナリ (大正四、二、二三)

○ 行政機關カ法規ニ基キ爲シタル行政處分ハ其處分自體力無効ニ歸スルカ若クハ其處分力取消サレサル限リ其效力ヲ失フヘキモノニ非ス從テ其處分ニ依リテ一箇人カ權利ヲ侵害セラハル結果ヲ生スルトキハ請願訴願其他ノ方法ニ依リ特ニ之カ救濟ヲ求メ得ヘキ規定アル場合ハ其規定ニ依リ救濟ヲ求メ得ヘキモ然ラサル場合ハ縱令一箇人ノ權利ヲ侵害スルコトアルモ該處分ハ其效力ヲ有スヘキモノトス (大正四、二、二三)

臨時財產整理局官制 (隆熙二年七月二十八日勅令第五十五號)

(舊韓國) (明治四十三年朝鮮總督府官制發布ト共ニ廢局)

○ 臨時財產整理局ノ處分ハ單ニ國有財產ナリヤ否ヤヲ確定スル效力アルニ過キサレハ或不動產ヲ民有トシテ還給處分ヲ爲スコトアルモ其國有ニアラサルコト確定スルニ止リ人民相互間ノ權利ヲ確定スル效力ナキハ勿論還給處分ハ國有財產ヲ人民ニ附與スルモノニアラサレハ還給處分ヲ受ケタレハトテ當然其所有者トナルモノニアラス從テ眞ノ所有者ハ還給處分ヲ受ケタル者ニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク裁判所モ亦還給處分ノ如何ニ拘ラス所有權ノ所在ヲ認定スルコトヲ得ルモノトス (大正八、四、一五)

臨時財產整理局官制

大	大	大
八	四	四
六	三	三
二四	五三	五三

明治四十二年勅令第二百三十八號 韓佛修好通商條約
對敵取引禁止令施行ニ關スル件

九四四

明治四十二年勅令第二百三十八號

(明治四十五年勅令第七號)
朝鮮民事令ヲ以テ廢止

○明治四十二年勅令第二百三十八號第二條中日本法規トハ訴訟手續ニ關スル法規ノミヲ指シ
實體法ヲ包含セスト解スヘキモノトス (明治四五、三、二八)

韓佛修好通商條約

○韓佛修好通商條約第四款第四ニ若法人欲行永租或暫租地段賃購房屋在租界以外者聽惟相離
租界不逾十里(朝鮮里)云々ノ約款アリテ佛國人ハ居留地一里以外ニ於テ土地ノ所有權ヲ取
得スルコトヲ禁止セラレタルモノナルモ舊韓國政府ノ默認ニ依リ明治二十五年舊二月頃ニ
ハ既ニ佛國人ハ適法且有效ニ居留地一里以外ニ於テモ土地所有權ヲ取得シ得タルモノトス
(大正元、一一、一五)

對敵取引禁止令施行ニ關スル件 (廢止)

○當事者カ敵國人ニシテ家賃債權ニ付先取特權アリト主張スルトキハ大正六年五月五日朝鮮
總督府令第二十六號(對敵取引禁止令施行ニ關スル件)ニ依リ其敵國人カ朝鮮總督ヨリ家屋
賃貸ノ許可ヲ受ケタルヤ否ヤヲ調査スルコトヲ要ス (大正七、七、一〇)

大	元	四
七	二	一
五	六	四
六	六	五

朝鮮 高等法院刑事判例要旨類集目次

刑法

第一編 總則	
第一章 法例	一
第三章 刑	七
第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免	一〇
第八章 未遂罪	一三
第九章 併合罪	一三
第十章 累犯	二〇
第十一章 共犯	二三
第二編 罪	
第二章 内亂ニ關スル罪	二九
第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪	三一
第六章 逃走ノ罪	三一
第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪	三一

第八章 騷擾ノ罪……………三四

第九章 放火及ヒ失火ノ罪……………三五

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪……………三七

第十二章 住居ヲ侵ス罪……………三八

第十四章 阿片煙ニ關スル罪……………三九

第十六章 通貨偽造ノ罪……………四〇

第十七章 文書偽造ノ罪……………四二

第十九章 印章偽造ノ罪……………四四

第二十章 偽證ノ罪……………四五

第二十一章 誣告ノ罪……………五八

第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪……………六〇

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪……………六一

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪……………六二

第二十五章 瀆職ノ罪……………六六

第二十六章 殺人ノ罪……………七二

第二十七章 傷害ノ罪……………七五

第二十八章 過失傷害ノ罪……………七六

第三十章 遺棄ノ罪……………八〇

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪……………八一

第三十二章 脅迫ノ罪……………八一

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪……………八三

第三十四章 名譽ニ對スル罪……………八四

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪……………八六

第三十六章 窃盜及ヒ強盜ノ罪……………八八

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪……………九五

第三十八章 横領ノ罪……………九七

第三十九章 贓物ニ關スル罪……………一〇〇

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪……………一〇三

刑事訴訟法

第一編 總則

第六章 書類……………一四五

第十三章 證人訊問……………一四六

第二編 第一審

第一章 搜查……………一四六

第二章 公訴……………一四七

第四章 公判……………一四八

 第二節 公判手續……………一四八

 第三節 公判ノ裁判……………一五〇

第三編 上訴……………一五一

 第二章 控訴……………一五一

 第三章 上告……………一五一

第五編 再審……………一五二

舊刑事訴訟法

第一編 總則……………一五三

第三編 犯罪ノ搜查、起訴及豫審

 第一章 搜查……………一五六

 第一節 告訴及ヒ告發……………一五九

 第二章 起訴……………一六一

 第三章 豫審……………一六一

第三節 證據……………一六五

第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質……………一六九

第六節 證人訊問……………一七〇

第七節 鑑定……………一七三

第八節 現行犯ノ豫審……………一七三

第九節 保釋……………一七四

第十節 豫審終結……………一七四

第四編 公判……………一七六

 第一章 通則……………一七六

 第二章 區裁判所公判……………一八〇

第五編 上訴……………一八〇

 第一章 通則……………一八〇

 第二章 控訴……………一八四

 第三章 上告……………一八〇

 第四章 抗告……………一八八

第六編 再審……………一八八

朝鮮刑事令……………一九二

刑法施行法	二二八
朝鮮總督府裁判所令	二三〇
警察犯處罰規則	二三一
犯罪即決例	二三四
共通法	二三五
大正八年制令第七號	二二六
保安法	二四〇
保安規則	二四六
外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造 變造及模造ニ關スル件	二四七
新聞紙法	二四九
新聞紙規則	二五〇
著作權法	二五三
出版法	二五四

實用新案法	二五六
陸軍刑法	二五六
軍機保護法	二五七
郵便法	二五七
電信法	二五八
電報規則	二五九
質屋取締法	二六〇
關稅法	二六一
醫師規則	二六一
醫生規則	二六三
朝鮮阿片取締令	二六三
藥品及藥品營業取締令	二六四
代書業取締規則	二六五
神社寺院規則	二六六

學校組合令……………二六二

爆發物取締罰則……………二六七

銃砲火藥類取締令……………二六八

銃砲火藥類取締令施行規則……………二六九

銃砲火藥類取締法……………二六九

銃砲火藥類取締法施行規則……………二七〇

鐵道營業法……………二七一

朝鮮道地方費令……………二七一

米穀檢查規則……………二七二

大豆檢查規則……………二七三

叭檢查規則……………二七三

市場規則……………二七三

大正九年制令第十九號……………二七四

大正九年勅令第三百六號……………二七四

朝鮮關稅令……………二七五

朝鮮鑛業令……………二七五

寄附金品募集取締規則……………二七六

自動車取締規則……………二七六

明治四十五年制令第二十六號……………二七七

大正九年朝鮮總督府令第一百六十號……………二七六

大正八年全羅北道令第十七號……………二七六

大正四年忠清北道告示第十一號……………二七九

統監府鐵道管理局機關庫長以下鐵道係員職制……………二七九

刑法大全

第一編 法例

第一章 用法範圍

第十四節 加減順序……………二八一

第三編 刑例

第一章 刑罰通則

第三節 附加刑處分……………二八二

第十三節 加減處分……………二八一

第四編 律例上

第一章 反亂所干律……………二八二

第二章 內亂律……………二八二

第三章 斷獄及訴訟所干律……………二八二

第六節 偽證律……………二八二

第四章 詐僞所干律……………二八三

第二節 制書及官文書增減律……………二八三

第十節 偽造律……………二八三

第五編 律例下

第九章 殺傷所干律……………二八四

第十節 擅殺讐人律……………二八四

第十章 姦淫所干律……………二八四

第一節 姦人婦女律……………二八四

第十二章 賊盜所干律……………二八四

第三節 盜係官財產律……………二八五

第六節 準竊盜律……………二八五

第十一節 共謀爲盜律……………二八六

第十四章 雜犯律……………二八六

第五節 賭技律……………二八六

第十節 不應爲律……………二八六

刑法大全

第一編 法例

第一章 用法範圍

第一節 本法施行權限……………二八七

第二節 故殺人律……………二八七

第十二節 親屬殺死律……………二八九

第十七節 鬪毆傷人律……………二八九

第十二章 賊盜所干律……………二八九

第四節 強盜律……………二九〇

明治四十三年勅令第三百二十五號……………二九〇

明治四十三年勅令第三百二十九號……………二九〇

民刑訴訟規則……………二九一

朝鮮答刑令……………二九二

統監府警察犯處罰令……………二九二

結數連名簿規則……………二九二

大正六年朝鮮總督府令第六十五號……………二九三

附錄

第一章 附錄一……………二九四

第二章 附錄二……………二九五

第三章 附錄三……………二九六

第四章 附錄四……………二九七

第五章 附錄五……………二九八

第六章 附錄六……………二九九

第七章 附錄七……………三〇〇

第八章 附錄八……………三〇一

第九章 附錄九……………三〇二

第十章 附錄十……………三〇三

第十一章 附錄十一……………三〇四

第十二章 附錄十二……………三〇五

第十三章 附錄十三……………三〇六

第十四章 附錄十四……………三〇七

第十五章 附錄十五……………三〇八

第十六章 附錄十六……………三〇九

第十七章 附錄十七……………三一〇

第十八章 附錄十八……………三一〇

刑 法